

2022 年度
年 報

Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

目 次

I 年度事業計画

1. 2022 年度重点事業	1
2. 中期計画・年度計画	3

II 組織・運営

1. 2022 年度 教員一覧	12
2. 2022 年度 職員一覧	13
3. 運営組織	14
4. 内部質保証	15
1) 今年度の取り組み	
2) 次年度に向けての課題	
3) 評価体制図	
4) 内部質保証システム体系図	
5. 大学運営	18
1) 今年度の取り組み	
2) 次年度に向けての課題	
3) 大学運営委員会組織および委員一覧	
4) 大学運営関係委員会 2022 年度活動報告	
5) アドミッションオフィス	
6) 外部資金獲得状況	
6. 学部運営	34
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	
3) 学部委員会組織および委員一覧	
4) 教授会	
5) 学部委員会の活動報告	
7. 研究科運営	45
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	
3) 研究科委員会組織および委員一覧	
4) 研究科委員会	
5) 大学院委員会の活動報告	
8. 事務局運営	50
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	

III 看護学部教育活動

1. カリキュラム	51
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) カリキュラムマップ	
6) 2022 年度 実習施設一覧	
7) 選択科目受講者数	
8) 他大学との単位互換の状況	

2. 学生の受け入れ	66
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
3. 学生支援	68
1) 在籍学生数	
2) チューター制度	
3) オフィスアワー制度	
4) 特待生制度	
5) 奨学金制度（2022 年度奨学生数）	
6) 自治会活動支援	
7) 国家試験支援体制・状況	
8) 国家試験合格状況一覧	
9) キャリア支援体制・状況	
10) 就職・進路状況一覧（2022 年度卒業生）	
11) 2022 年度学生相談利用状況一覧	
12) 学生生活調査結果	
13) 後援会との連携	
14) 同窓会との連携	

IV 看護学研究科修士課程教育活動

1. カリキュラム	76
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) カリキュラムマップ	
6) 2022 年度 実習施設一覧	
7) 研究指導教員一覧	
8) 研究指導関係スケジュール	
9) 学位論文審査基準	
10) 2022 年度 修士論文テーマ一覧	
2. 学生の受け入れ	85
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
4) 科目等履修生	
5) 履修証明プログラム	
6) 研究生	
3. 学生支援	87
1) 在籍学生数	
2) 修業年限内の修了率	
3) 研究費助成制度・獲得状況	
4) 就職・進路状況	
5) 専門看護師（CNS）・認定看護管理者の資格取得状況一覧	
6) 修士論文投稿状況一覧	
7) 学生生活調査結果	

V 看護学研究科博士後期課程教育活動

1. カリキュラム	89
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) 研究指導教員一覧	
6) 研究指導関係スケジュール	
7) 学位論文審査基準	
8) 2022 年度 博士学位論文テーマ一覧	
2. 学生の受け入れ	93
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
3. 学生支援	94
1) 在籍学生数	
2) 修業年限内の修了率	
3) 研究費助成制度・獲得状況	
4) 就職・進路状況	
5) 博士論文等投稿状況一覧	

VI ヘルスプロモーションセンター

1. 組織	95
2. 地域連携委員会活動報告	95
3. プラットフォーム	96
1) プラットフォーム活動概要	

VII 学術情報センター・図書館

1. 組織	99
1) 図書館課	
2. 情報管理・図書委員会活動報告	99
3. 学術情報センター・図書館主催活動実績	100
4. 図書・製本雑誌・視聴覚資料	100
5. 年間購読雑誌	100
6. 電子ジャーナル	101
7. 利用者数	101
8. 文献複写サービス	101

VIII IR 室

1. 活動目的	102
2. 構成員	102
3. 活動概要	102

IX 国際交流

1. MOU に基づく交流	103
2. 英国語学研修プログラム	103

X 新型コロナウイルス感染予防対策本部の活動

1. 組織図.....	104
2. 基本方針.....	105

XI 教員研究業績・社会活動一覧 106

I 年度事業計画

1. 2022 年度重点事業

事業名	ポートフォリオの構築
中期計画 事業項目名	II 教育課程・学修成果 6 学生支援 (2) きめ細かな学生支援
事業目的	学生が在学時から卒業後まで経年で学生自身の技術達成度を確認することができるよう、ポートフォリオを構築する。
取組内容 目標	パルサイン（同窓会管理システム）を入口にメソフィアへ学生ポートフォリオ機能を追加することにより、学生自身が技術到達度のセルフチェックをすることができる環境を構築する。
事業期間	2022 年 4 月～ 2023 年 3 月
予算概算額 (千円)	3,000 千円
達成状況	ポートフォリオに掲載する項目等仕様、デザイン等案を作成した。

事業名	D X の推進
中期計画 事業項目名	V 業務運営・財務 1 法人・大学ガバナンスの維持・向上 (1) 法人・大学運営体制 ①効率的な大学運営
事業目的	(1) 2022 年度以降の会議資料を電子化保存し、会議のペーパーレスを目指す。 (2) 情報通信教育（I C T）を活用した教育の推進を図る。
取組内容 目標	(1) 教授会を始めとする主たる会議の会議資料をペーパーレス化し、電子保存する。 (2) D X 推進に向けて、2021 年度に立ち上げたプロジェクトチームを中心に機材の検討を行い、導入と効果測定を行う。
事業期間	2022 年 4 月～ 2023 年 3 月
予算概算額 (千円)	－千円
達成状況	(1) 教授会等資料を Teams にて電子保存し、予算の範囲内で iPad を整備した。 (2) 講義の中でハイブリッドシミュレーションを用いた演習を展開し、臨地実習ではタブレットを用い遠隔指導等タイムリーに連携を行った。

事業名	照明制御盤及び中央監視盤更新
中期計画 事業項目名	Ⅲ 教育研究等環境整備 1 教育研究等環境の方針 (1) 整備方針
事業目的	照明制御盤及び中央監視盤は耐用年数を経過しており、故障した場合部品供給ができなくなることから更新を行う。
取組内容 目標	照明制御盤及び中央監視盤の更新をする。特に中央監視盤は更新することにより、電気デマンド及びガスデマンドの制御を自動で行うことができ、デマンドの超過を抑えることができる。
事業期間	2023 年 3 月
予算概算額 (千円)	137,500 千円
達成状況	照明制御盤及び中央監視盤を更新した。

2. 中期計画・年度計画

		計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
Ⅰ 内部質保証・教育研究組織	1. 内部質保証	定期的な点検・評価	教育の質保証委員会、自己点検・評価委員会 IR委員会	総務課 学務課	外部評価や授業評価等の P D C A サイクルを循環させることで、内部質保証システムの運用・展開を図る。外部評価として、「参与会」及び「中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会」から評価を受ける。	1. 評価体制図に基づく、P D C A サイクルの円滑な実施	キャンパスライフアンケート結果を自己点検評価委員会と教育の質保証委員会で確認し、次年度の課題、改善策を検討した。アンケート結果を公表し学生にフィードバックを行った。	達成 継続	
					大学基準協会認証評価の基準に沿って情報を蓄積する。	2. 年報の作成	年報スケジュールを作成し、各課関係部署へ原稿作成を 3 月 24 日（金）を締切として依頼をした。	達成 継続	
					学生による授業評価の実施、教育改善に関する教育改善学生委員との意見交換の実施等を行い、教育改善に反映させる。	3. 学生評価や教育改善学生委員との意見交換を行い、教育改善に反映させる。	3 月 2 日（木）に令和 4 年度第 2 回教育改善学生委員会を開催して意見交換をおこなった。 学部生委員からの意見の中で対応できる内容については更新を行った。	達成 継続	
						4. 大学として必要なデータの確定と蓄積	1 ～ 2 月に学修時間と学修成果の調査を実施した。 今後は IR 室にて分析を行う。	達成 継続	
	2. 教育研究組織	(1) 看護学部	経営会議	総務課 企画・地域交流課 学務課 図書館課	大学の理念・目的に照らして、学部組織の設置状況が適切であるか評価する。	令和 3 年度達成済			
					(2) 大学院	大学の理念・目的に照らして、大学院組織の設置状況が適切であるか評価する。	令和 3 年度達成済		
					(3) アドミッションオフィス	大学の理念・目的に照らして、アドミッションオフィス組織の設置状況が適切であるか評価する。	アドミッションオフィス組織の定期的な検証の継続	アドミッションオフィス規程について検討している。	達成 継続
		(4) 事務局	事務局	大学の理念・目的に照らして、事務局組織の設置状況が適切であるか評価する。	事務局組織の定期的な検証の継続	月例で事務局会議を開催し、各課の課題について共有し、意見交換している。 次年度の事務局会議の在り方について検討を開始した。	達成 継続		
		(5) ヘルスプロモーションセンター	経営会議	平成 29 年度から、市民向けの公開講座に加えて、医療者向けの講座を開始した。講座への参加者数、教職員の休日出勤による負担等の両側面から活動を点検評価する。	ヘルスプロモーション組織の定期的な検証の継続	公開講座においては年 2 回の開催、専門職向け研修会においては、5 つの研修項目を実施することとなった。	達成 継続		
		(6) 学術情報センター・図書館		平成 30 年度に、図書館機能を拡大して設置した。ビジョンの「研究力向上」を目指し、研究支援体制の充実を図るものである。公刊した論文数、科学研究費への応募数・採択率等から活動を点検評価する。	学術情報センター・図書館組織の定期的な検証の継続	今年度の活動・今後の課題について審議した。 看護学部 1 年生を対象とした感染対策についての教材 1 件を、リポトリに新規搭載した。	達成 継続		

I 年度事業計画

	計画項目		担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
Ⅱ 教育課程 ・ 学修成果	1. 全学的な教学マネジメントの確立	(1) 全学的な教学マネジメントの確立	教育の質保証委員会	総務課 学務課	教育の質保証委員会を責任主体として、ディプロマポリシー（学位授与方針）及びカリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）の適切性について評価し改善する。また、内部評価として、授業評価、学生アンケート、教育改善学生委員からの評価について、教育の質保証委員会が改善を検討する。なお、外部評価については、経営会議を責任主体とするが、教学マネジメントに関する内容については、教育の質保証委員会が改善を検討する。	1. 授業評価アンケート結果の評価体制を検討し、適切に授業評価アンケート結果を評価する。	(学部) 後期の授業評価を実施した。 (修士) 後期の授業評価を実施した。	達成継続	
		(2) 教学 I R の取組み計画				内部質保証推進規程を定め基本方針や実施方法について定義した。 2-1 (学部) 学修時間・学修成果の調査を実施した。IR 室にて分析を行う。	達成継続		
						学部同様、内部質保証推進規程を定め基本方針や実施方法について定義した。 2-2 (修士) 修了時アンケートを実施した。	達成継続		
						学修時間及び学修成果に関する調査を実施した。IR 室にて分析を進める。	達成継続		
						学習ポートフォリオプロジェクトメンバーと業者で打ち合わせを進め、ポートフォリオに掲載する項目案を確定した。	達成継続		
		3. カリキュラムマップに基づくディプロマポリシーごとの GPA を算出し、入試方法と卒業時の学修の到達度を評価する。				ディプロマサプリメントを卒業生に発行した。 ディプロマポリシー毎の GPA を算出した。 4 月委員会へ報告予定。	達成継続		
	2. 赤十字の特色ある教育の推進と人材育成	(1) 赤十字の理念に基づく教育の充実	赤十字教育・災害看護教育などの教育実践力の維持・向上	教務委員会 カリキュラム WG	学務課	カリキュラムの教養科目に「赤十字」を位置付け、専門科目に「災害看護学」を置き、赤十字の理念に基づく教育を実施する。	1. 明治村の日本赤十字社中央病院棟（現日本赤十字社医療センター）の見学を通して、日本赤十字社の歴史を学び、小集団活動で、赤十字の大学で看護学を学ぶ意義を考える。	次年度の「赤十字総合セミナー」の日程および授業計画を立案した。	達成継続
							2. 教育課程において赤十字の原則や国際人道法についての教育を行う。	次年度の「赤十字と活動」の日程および授業計画を立案した。	達成継続
							3. 災害看護学に関する教育を実施する。	次年度の赤十字・災害看護学関係科目の授業計画を立案した。 開学 20 周年事業の一環で災害看護学領域の授業で使用する物品の予算計画を立案し、予算申請を行った。	達成継続
							4. 本学卒業生が赤十字病院で活躍するイメージを育む。	次年度の「看護プロフェッショナルセミナー」の授業計画を立案した。 本学 SNS を活用し、中部圏の赤十字病院で働いている卒業生のインタビューを複数掲載し、卒後赤十字病院で活躍するイメージを可視化した。	達成継続
5. 学部生が、赤十字大会に参加することにより、自分たちも赤十字社の一員であることの意識の高揚を図る。また、赤十字思想の普及や赤十字事業に功績のあった方々の活動について学ぶ機会とする。	学生委員会で赤十字大会参加の振り返りをし、参加しない学生を減らす対策や当日持参した方がよい物品等について意見交換を行った。	達成							
(2) 保健・医療・福祉の現場を支える人材の育成	より広い地域で活躍する人材の育成	学生委員会	学務課	卒業生 70%以上が赤十字病院に就職することを目指す。	令和 4 年度卒業生の 70%以上が赤十字病院へ就職するよう、病院説明会の映像等を病院関係者より入手し、オリエンテーション時に学生に紹介し、奨学金受給を検討する機会を設ける。 医療施設で開催される各種イベントを学生に向けて周知し、参加を勧奨する。	次年度の奨学金説明会開催にあたり、各病院の奨学金関係資料の収集を開始した。説明会の内容について、学生委員会にて確認を行った。 在学生等に向けて、本学 SNS に赤十字病院で活躍する卒業生の特集を掲載した。	達成継続		
					(3) 赤十字ネットワークとの連携	国際交流委員会	総務課	海外の赤十字看護大学との交流協定締結に向けて、対象大学の拡大と交流の深化を促進する。	1. 英国語学研修についてはオンラインでの実施方法を検討し、交流方法を決定する。
2. タイ赤十字看護大学との交流を継続していく。 (受入・派遣)	タイ赤十字看護大学と受入および派遣について、日程や人数等細かな調整を行っている。 共同研究についても現地にて情報収集と発表、交流を行った。	達成継続							

	計画項目			担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等
Ⅱ 教育課程 ・ 学修成果	3. 質の高い教育の実践	(1) 学部の教育	①学生の学修活性化及び効果的な教育	教務委員会 カリキュラムWG	学務課	豊かな人間性を培い、正解のない問題に直面する社会の中で自ら判断して答えを導きだす能力を育むため、専門科目を効果的に組合せた教育課程の編成に努める。	全科目のシラバスに時間外学習（予習・復習）、その他準備学習の内容を記載し、学生の主体的な学習の促進を図る。	3月の在学生オリエンテーション、4月の新入生オリエンテーションに向けてシラバス公開の準備を進めた。 STEAM 教育の一環（Arts）としてクラシックコンサートを計画している。	達成 継続
			②学生の学修成果の修得状況の把握・評価	I R 委員会	学務課	学生の学修時間と学修成果について調査を実施し、調査データの分析、公表を行う。	I R 委員会において、学生の学修時間と学修成果についての調査を実施する。 実施した調査データを同委員会で分析し、公表をする。また、ディプロマサプリメントの発行をとおして、学生の正課内外の学修成果修得状況の可視化を図るとともに、卒業時のディプロマポリシーごとの GPA 値について分析・評価を行う。	1～2月に学修時間と学修成果の調査を実施した。IR 室にて分析を進めている。	達成 継続
	(2) 大学院の教育	①修士課程	大 学 院 教 務 ・ 学 生 委 員 会 カリキュラムWG 大学院 研究科委員会	学務課	大学院修士課程の専門看護師コース（新教育課程38 単位）（小児看護学領域、精神看護学領域）及び新たに設置した認定看護管理者コース（看護管理学領域）の教育の充実を図る。また、履修証明プログラムを新教育課程に合わせて改編し、文部科学省から職業実践力育成プログラム（BP）として認定された。令和2 年度から受講生の受け入れ、適切に運用する。さらに、移転したサテライトキャンパス（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 日赤愛知災害管理センター棟）を有効的に活用する。	1. 修士課程の夜間・土曜開講、長期履修制度を継続する。	修士課程の夜間・土曜開講を継続した。	達成 継続	
						2. 専門看護師（小児・精神）38 単位の教育課程を継続する。	令和4 年度は専門看護師コース（小児）に2 名が在学している。 令和6 年度からの老年看護専門看護師コースの開設準備を進めた。	達成 継続	
						3. 認定看護管理者コースの教育課程を継続する。	令和4 年度は認定看護管理者コースに3 名が在学しており、うち2 名が修了した。	達成 継続	
						4. 看護教育・技術学領域に臨床指導者育成コースの設置を検討する。	看護教育・技術学領域に臨床指導者育成コースについて設置を検討している。	達成 継続	
						5. 開講時間を短縮した履修証明プログラムを継続する。	令和5 年度開講の履修証明プログラム生を募集し、1 名の応募があった。	達成 継続	
						6. 令和4 年度より「災害看護実践プログラム」を開始する。	「災害看護実践プログラム」を開講した。	達成 継続	
						7. サテライトキャンパスを有効的に活用する。	令和5 年度のサテライトキャンパスでの授業実施計画をたてた。 情報処理室についても院生が継続的に利用している。	達成 継続	
	(3) 多様なメディア（ICT）を活用した教育	①情報通信教育（ICT）を活用した教育の推進	学務課 経理課 総務課 ネットワーク支援室	学務課	共同看護学専攻博士後期課程における教育の質向上を図る。	1. 赤十字学園5 大学での共同看護学専攻に参画する。	共同看護学専攻、各委員会に参画し、責任校（秋田）を中心に運営を進めている。	達成 継続	
						2. 研究指導教員、科目担当教員を増やし、教育体制を強化する。	令和5 年度の共同看護学の教育体制について、研究科長会議、教務委員会、連絡協議会で準備を進めた。	達成 継続	
						1. 学生・教職員の学内情報通信環境の安定運用の推進を図り、動画配信システムを利用した講義を実施する。	令和5 年度の動画配信システム利用について、教務委員会を中心に確認をした。また、学生・教職員へのタブレット端末貸出について引き続き進めた。	達成 継続	
		DX 推進プロジェクト	教務委員会	学務課	共同看護学専攻においては、赤十字の5 大学が協働し、専門領域の垣根を越えてあらゆる看護現象に対してアプローチすることができる研究者・教育者・実践者など、看護の発展に寄与できる人材、ならびにそれぞれの地域において保健・医療・福祉の分野でリーダーとなる人材、国内外において人道的任務を果たすことのできる人材の育成を継続する。	2. Z o o m等の遠隔教育システムを効果的に活用し、オンデマンド教材の作成と活用を促進する。	令和5 年度の授業開講にあたり、オンデマンド等を利用した授業計画を進めている。	達成 継続	
						3. DX 推進に向けて、令和3 年度に立ち上げたプロジェクトチームを中心に教材の検討を行い、導入と効果測定を行う。	各取り組みにおいて得られた実績・成果を取りまとめ、次年度の更なる教育効果の向上に関してプロジェクトチームにおいて方向性を共有することができた。	達成 継続	
	②学園内大学間における遠隔教育システムを活用した教育の推進				共同看護学専攻の授業において、遠隔授業システムを活用する。	共同看護学専攻の講義を遠隔授業システム（Zoom）を活用して実施をしている。現状、Zoomの授業で不具合は発生していない。	達成 継続		
③他大学等との単位互換の促進				I C T を利用した単位互換制度について学園本部とともに検討を進める。	赤十字学園内大学間での単位互換構想について引き続き検討をする。	日本赤十字学園ブランドデザイン策定等検討委員会で検討をしている。 経営会議において学園の構想について情報共有を行った。	達成 継続		

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等		
Ⅱ 教育課程 ・ 学修成果	4 優秀な学生の受け入れ（社会人を含む）	(1) 学生の受け入れ方針の適切な設定	アドミッション・オフィス入試・広報委員会・大学院入試・広報委員会	企画・地域交流課	アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）は既に設定したが、その適切性について継続的に検討する。	1. 指定校推薦制度を継続し、優秀な学生の確保に努める。	指定校からの一般入試への出願状況を確認した。偏差値の高い指定校からの出願数が減少しているため、本学からの指定校に向けた情報発信について検討した。	達成継続	
						2. 大学入学共通テストの前期 A、前期 B 及び後期試験を継続し、受験者への門戸を拡大する。	前年度と同様に前期 A 6 名、前期 B 6 名、後期 6 名とした。	達成継続	
		(2) 学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定				大学入学者選抜改革の導入を見据えた入試方法について、継続的に検討する。	1. 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価について、「多面的・総合的な評価のための申告書」を用い評価する。また、本申請書は、高等学校長推薦選抜、赤十字特別推薦選抜、大学独自選抜、社会人特別選抜において合否判定に使用する。特に大学独自選抜においては、加点する方法で使用する。	入学前成績と国家試験成績を検証し、推薦選抜基準を検討した。また、英語の外部検定試験および配点について審議した。配点は 3 点とし、英語資格・検定試験にかかるスコア等について決定した。	達成継続
						(3) 入学定員及び収容定員の適切な管理	文部科学省の入学定員厳格化、愛知県内における看護学部の増設、18 歳人口の減少を踏まえ、入学定員を管理する。	1. 文部科学省による入学定員の厳格化及び設置等にかかる認可の基準から平均入学定員超過率が平成 31 年度以降 1.15 倍未満と定められていることから、本学では 1.12 倍の 134 名（入学定員 120 名）を確保する。	大学独自選抜受験者は 252 名のうち合格者 122 名、大学入学共通テスト利用選抜（前期 A）受験者は 123 名のうち合格者 33 名、大学入学共通テスト利用選抜（前期 B）受験者は 96 名のうち合格者は 26 名となった。大学入学共通テスト利用選抜（後期）受験者は 8 名のうち合格者 1 名となった。大学独自選抜については歩留り 32%、大学入学共通テスト利用選抜については歩留り 10% 程度を想定し、合格者を決定した。
		大学院修士課程及び共同看護学専攻の入学定員を管理するとともに入学定員の確保に努める。	2. 大学院修士課程及び共同看護学専攻の入学定員を確保するため、大学院説明会等を実施する。	第 2 回大学院入学試験では、修士課程 3 名、博士課程 1 名の受験者であった。合否結果は、修士課程 3 名、博士課程 1 名となり、第 1 回と併せて修士課程 4 名、博士課程 1 名となり、修士課程については、定員を満たすことはできなかった。赤十字病院の教育担当副部長と面会し情報交換を行った。	達成継続				
				次年度に向けた広報計画を策定した。	達成継続				
	5 教員・教員組織	(1) 教員・教員組織編成	－	総務課	教員組織計画に基づき適切に運用する。また、カリキュラム改正に伴う領域別の教員定数の妥当性と教員組織編成について継続的に検討する。さらに、教員の選考基準を明示し、公募により適任者を広く求める。	カリキュラム改正や臨地実習日数増減等に伴い適宜見直される領域別教員配置を人事委員会や経営会議において適正な配置となるよう随時見直しを行い、配置に合わせて募集・採用を実施する。	人事委員会ならびに教授会において、公募がかなわなかった領域の配置について次年度の募集が計画された。経営会議において過配置についても検討された。	達成継続	
						(2) 教職員の資質向上（FD・SD の高度化）	FD・SD 委員会	総務課	FD・SD マップを充実させて、企画を実施し、教学マネジメントに関する教職員の資質向上を図る。
				2. FD・SD マップ実施計画に沿った運用を行い、教育力・研究力・マネジメントの向上を図る。	2 月 22 日（水）に「学生支援機構奨学金基礎知識」、3 月 9 日（木）に「コロナ禍の影響を受けた新人看護師の受け入れとその実態」をテーマに Zoom にて FD・SD 研修会を実施した。また、「利益相反」「研究倫理」研修会に関しては、オンライン配信にて実施した。				達成継続
					研究時間を含む研究環境を整備する。	3. 研究時間の確保についての改善に向けた検討及び研究環境の効果的な整備品の検討を始める。	研究時間を確保するため、実習施設等の出張先から会議等に参加することを可とする等移動時間の短縮について検討を始めた。また、それに向けた Wifi の整備について検討している。	達成継続	

	計画項目		担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
Ⅱ 教育課程 ・ 学修成果	6 学生支援	(1) 奨学生制度・特待生制度の適切な活用と外部支援の獲得	学生委員会	学務課	奨学生制度及び特待生制度を適切に活用する。(赤十字病院を中心とした奨学金制度を広報することにより、優秀な学生の確保に努める。また、本学独自の特待生制度の効果的な運用を図る。)	1. 全国の赤十字病院の奨学金制度について、広く在学生に周知し、学業継続困難者を支援する。	在学生に対し、赤十字病院の奨学金制度を周知している。	達成継続	
						2. 本奨学生制度を利用する学生について資質、成績向上に向けて支援する。	1月11日（水）に3年生向け「履歴書・面接」を実施し、実習・就職に向けての意識付けを行った。	達成継続	
						3. 愛知県支部特別奨学金制度を有効活用し、学業継続困難者への支援につなげる。	2月18日（土）に愛知県支部にて令和5年度入学予定者に向けてＣ特別奨学生説明会を実施した。本学の学生2名、職員1名が参加した。	達成継続	
						4. 特待生制度を活用し、学業成績優秀者を経済的側面から支援する。	A 特待生候補者に書類を送付し、2名が特待生候補者として入学の意思を示している。	達成継続	
						5. 奨学金を受けている学生の追跡調査を行い評価する。	奨学金制度を利用する学生の調査方法について検討している。	達成継続	
		(2)さめ細かな学生支援	①修学支援	教務委員会	学務課 総務課	入学前教育の実施等の高大連携を継続すると共に、その方法について継続的に検討する。	1. 教務委員会を中心に入学前の学生を大学の講義に受入を行う。	令和5年度の入学予定者に授業見学を実施した。	達成継続
							2. 高大連携促進方略を決定し、具体計画を立案する	令和5年度版の基礎学力テスト案を作成し、高大連携協定に基づき豊田高等学校長に点検を依頼した。点検結果を受けて修正し、令和5年度版基礎学力テストを完成させた。	達成継続
				プロジェクトチーム	国家試験対策委員会	3. 国家試験対策委員会を中心に、新卒者の看護師・保健師国家試験の100%合格を目指す。また、既卒者への支援を行い国家試験の合格率向上を目指す。	受験直前対策として、集団及び個別学習支援、直前講座の受講支援を行った。3年生に向けて低学年模試および卒業生講話を実施し、国家試験対策について意識づけを行った。	達成継続	
						4. 成績不良者に対して基礎力を向上させる支援を全学的に取り組む。	国家試験の直前対策として、東京アカデミーの「やまかけゼミ」の受講を推奨し35名の学生が参加をした。	達成継続	
			②生活支援	学生委員会	1. チューター教員を中心に、学部長、科目担当教員の相談・支援ラインを強化し、職員間の情報共有を密にしながら学生の抱える問題に迅速に対応する。	チューターを中心に学生のさまざまな相談に対応をしている。	達成継続		
	2. 就業しながら修学をすすめる大学院生の相談については、研究指導教員を中心に対応していく。	院生からの相談に対して、研究指導教員を中心に対応をしている。			達成継続				
	(3) 校友ネットワークの確立	学生委員会	学務課 経理課 総務課	ハラスメント防止のための研修会を継続して実施する。	3. 学生相談のカウンセラーと学部長、学生キャリア支援担当との情報交換を密にし、学生ニーズに応じた相談およびハラスメント相談員を配置することにより、適切な支援へ繋ぐ。	4－3月の相談件数については以下の通り。 学生相談 79件 母性相談 0件 ハラスメント相談 0件 次年度の啓発のためパンフレットの見直しを行った。	達成継続		
				大学生協が学生の食育環境改善及び必要物品購入の利便性に資するように、運営を支援する。	4. 生協の福利厚生への向上を図る。また、安定的な運営を目指す。	売店ならびに食堂の営業時間を定期的に周知し利用を促進した。	達成継続		
				赤十字病院と連携して、キャリア支援体制を整備する。	チューター教員を中心に学生の奨学金採用試験、就職試験の対策や相談に随時対応する。また、チューター教員を中心に卒業後の臨床等でのキャリアアップについて、随時相談に応じる。	チューターを中心に就職や進学等に関する様々な相談に対応している。	達成継続		
				学生の自治会活動・クラブ・サークル活動について、学生委員会を中心に支援を行う。	学生の自治会活動・クラブ・サークル活動について、学生委員会を中心に支援を行う。	4-3月は引き続き警戒状態であり、クラブ・サークル活動オンラインのみ許可した。	達成継続		
(3) 校友ネットワークの確立				学生委員会	学務課 経理課 総務課	日本赤十字学園の6看護大学の学生間の相互交流を積極的に支援する。	日本赤十字学園の6大学交流会を実施する。	9月5日（月）10：00～16：30で6大学交流会をZoomで実施した。26名の参加状況であった。	達成継続
	平成30年度に同窓会規程が改定されて、会員資格の拡大、会員管理システムが導入された。同窓会組織の運営が順調に機能するように支援する。	1. 大学事務局に委託されている同窓会事業について、未加入の卒業生にPR活動を行い、新規の会員を獲得する。また、在学生会員でもある自治会メンバーも同窓会役員となり、在学生と卒業生が協力して活動できるよう支援を行う。	11月12日（土）10：00～同窓会総会が実施され、規約改正、役員改正、事業計画、予算が承認された。同日10：30～卒業生渡邊直子さんによる講演会（里帰りイベント）が開催され、56名が参加した。			達成継続			
		2. 元学長及び名誉教授、寄付者等を卒業式等式典に招き、本学の支援へつなげる	コロナ禍による制限があったため、無理のない範囲で招待のお声がけをすることができた。			達成継続			

I 年度事業計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
Ⅲ 教育研究等環境	1 教育研究等環境の方針	(1) 整備方針	－	経理課	大学設置後 20 年を見据え、空調、給排水、外壁等、計画的に整備する。	建物および建物付属設備の整備計画を具体的に作成し、計画的に整備する。	次年度整備予定の固定資産（LED ビジョン、防災監視盤更新等）の整備時期等について業者との打ち合わせを行った。	達成 継続
					教育研究用機器備品について、10 年整備計画に基づき整備する。	教育研究用機器備品の 10 か年計画に基づき、予算ヒアリングにあわせて機器の稼働状況・状態を確認し整備の緊急度・優先度の評価を行う。また、現状のカリキュラムや教育活用内容に則したシミュレーター整備状況を検証した上で、教育研究等に必要環境整備を実施する。	年度内の備品整備の漏れ等がないかを確認し、次年度の整備に向けて、必要備品スケジュールを確認し、調整を行った。	達成 継続
					教育研究用機器備品について、領域を超えて共用して有効に活用する。	教育研究用機器備品等の共同使用の基盤を整え、有効活用を促す。	備品の在庫確認および次年度予算申請をもとに備品等共同使用可能なものについて、確認を行った。	達成 継続
		(2) 定期的な点検・評価			中長期補修計画に基づき、空調、給排水、外壁等を計画的に更新整備する。	大規模修繕計画（5 ヶ年）に基づき、予算編成時に更新の必要性や適切性について検討を重ねたうえで、整備を実施する。	経年劣化等の緊急性及び必要性の高いものを順次、修繕を実施した。	達成 継続
					教育研究用機器備品について、定期的に点検し運用する。	固定資産（医療器械・演習用モデル人形等）整備計画（10 ヶ年計画）に基づき、予算編成時に更新の必要性や適切性について検討を重ねたうえで、整備を実施する。	固定資産の点検を実施した。	達成 継続
	2 研究活動の充実強化と社会還元	－	学術情報センター・図書館	学術情報センター・図書館を中心に、研究活動充実強化のための「研究費を獲得できる支援」「研究を遂行できる支援」「研究成果を公表できる支援」の体制を構築する。	助成金データベースを更新しつつ再構成する。 また、研究支援を実施するため CINAHL・MEDLINE 検索講習会の実施や申請書レビューの取次を実施する。 さらに、研究成果論文ををリポジトリ掲載することで成果の公開を目指す。	新 4 年生オリエンテーションにおいて「データベース検索講習」の案内を行った。 看護学部 1 年生を対象とした感染対策についての教材 1 件を、リポジトリに新規搭載した。	達成 継続	
	3 競争的外部研究資金等の確保	(1) 科学研究費補助金の獲得と体制の整備	研究推進・紀要委員会	学務課 学術情報センター・図書館 経理課	外部研究資金を確保するため、全教員が科学研究費助成事業へ申請する。また、学術情報センター・図書館事業として、計画調書作成を支援する。	1. 科学研究費助成事業について、令和 4 年度（令和 5 年度採択分）には全員が応募する。（研究代表者・分担者） 2. 研究推進・紀要委員会および経理課を中心に、研究計画書作成上の留意点等についての説明会・相談会を開催し、学術情報センター・図書館で研究計画書のレビューを行うことで、採択率の向上を図る。	赤十字研究費の応募要件が広がり、赤十字研究費を先行研究として、その他の外部資金を獲得するためのモデルケースを形成できる体制となった。（赤十字研究費の採択件数が向上した）なお、科研費自体の採択は 9 件中 4 件となった。 採択される研究計画調書の傾向について、担当部署間で共有した上で、令和 5 年度 8 月に科研費獲得に係る研修会を実施することとなった。	未達成 継続 達成 継続
		(2) 大学教育改革支援事業への積極的応募	教育の質保証委員会	経理課	私立大学等改革総合支援事業（タイプ 1～3）の評価要件を把握して学内体制を整備し、積極的に応募する。	私立大学等総合改革支援事業（タイプ 1～3）に応募し、採択を得る。	得点が見込める項目について、関係部署と綿密に連携し、遅滞なく制度設計及び機関決定を実施することができた。	達成 継続
		(3) 学園研究助成金の効果的な配分	教育の質保証委員会	経理課	教員が競争的資金を確保するよう積極的に申請するための方策を図る。	1. 赤十字と看護・介護に関する研究について、応募数を前年度以上に増やす。 2. 日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金について、若手研究者の応募数を前年度以上に増やす。 3. 学生支援事業についても学生向けに周知を行い、応募が増えるよう支援を行うとともに、学生の活動の幅を広めることができるよう体制を整える。	採択件数が向上した。（採択件数は 4 件） 採択件数が向上した。（採択件数は 1 件） 6 大学交流会の実施に向けて学生を支援した。	達成 継続 達成 継続 未達成 継続

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
Ⅳ 社会連携・社会貢献	1 地域社会との連携強化	(1) 自治体等との連携・協力の促進	地域連携委員会	企画・地域交流課 総務課 学務課 経理課	豊田市、大学、高専の地域包括連携協定に基づき、連携の充実を図る。また、地域包括連携協定に基づくプラットフォーム形成大学との共催による公開講座、合同での入試説明会及び F D ・ S D 研修の実施について検討する。	1. 市内大学と形成したプラットフォームにて、合同入試説明会を開催する。	昨年の 9 月にプラットフォームにて合同の入試説明会の実施を実施したことにより、補助金の算定基準を満たしている。	達成継続
						2. 市内大学と形成したプラットフォームにて、合同 F D ・ S D を実施する	9 月 29 日（金）に「大学における外部資金獲得についての意見交換」と題し、オンラインにて SD 研修会を実施した。豊田市経営戦略課、中京大学、愛知工業大学、豊田高専の参加があった。	達成継続
						3. 市内大学と形成したプラットフォームにて、防災に関する履修証明プログラムを実施する。	2 月 18 日（土）、19 日（日）に愛知工業大学自由ヶ丘キャンパスにて「防災士養成研修講座」が開催され、本学より長尾講師が講義を行った。	達成継続
						4. 市内大学と形成したプラットフォームにて、施設利用を促進する。	コロナ禍のため学生ならびに一般の施設利用を制限しており、プラットフォーム内の本学施設利用実績はなかった。	未達成
						5. 豊田市や市内大学と大学等が行う地域課題解決の取り組みを知ってもらい、大学等との連携のきっかけにつなげ、更なる連携事業への意識を高めることを目的とし、豊田市が開催するシンポジウムに参加する。	10 月 14 日（金）に豊田市民文化会館小ホールにて開催し、489 名の参加者があった（対面 166 名、Zoom ライブ配信 323 名）。基調講演、事例発表＆パネルディスカッション、アフターセッションを行い、本学は事例発表とアフターセッションに松田講師が参加し、「地域の介護施設の感染対策力と向上するための行政・大学・施設の三者協働による取り組み」を発表した。	達成
		(2) 地域社会への貢献	豊田高校 医療看護コース検討会議	企画・地域交流課	高大連携協定に基づき、愛知県立豊田高等学校「医療・看護コース」への連携を継続する。	愛知県立豊田高等学校との高大連携協定を締結したことから、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の充実と相互の教育・研究活動を活性化させる。	3 月 27 日に会議を開催し、令和 4 年度科目が無事に終了したことを確認した。また、次年度の「医療・看護コース」における次年度科目について検討した。学習指導要領の改訂に伴い、新 2 年生科目から評価基準や方法の検討を開始することとなった。	達成継続
	2 地域住民への生涯学習の場の提供	地域連携委員会	企画・地域交流課 総務課 学務課 経理課	ヘルスプロモーションセンターの事業計画を検討する。また、地域住民を対象とした公開講座を開催する。さらに、地域で働く専門職向け研修会を開催する。	1. 逢妻交流館、宮口上区、宮口一色地区のイベントに参加する。	宮口上フェスタは 11 月 5 日（土）に開催され、教護要員として 1 名参加した。宮口一色健康測定会は 11 月 19 日（土）に開催され、本学から 4 名の教員、2 名の学生が参加し、健康測定を行った。25 名の参加者があった。	達成継続	
					2. ブラジル人学校 EAS で身体測定を行う。	3 月 8 日（水）に EAS において身体計測を実施した。身長、体重、SpO2、握力を測定した。45 名の参加者があった。	達成継続	
					3. 豊根村教育委員会と共同で地域住民への健康教育等の生涯学習講座を行う。	8 月 30 日（火）に三沢いこいのサロン健康講座「避難所での対応とリラククス方法などについて」と題し、開催した。18 名の参加者があった。また、3 月 16 日（木）に豊根村保健福祉センターにて「癒しの軽療法」と題し、開催した。10 名の参加者があった。	達成継続	
					4. 健康寿命延伸に関する高齢者の摂食嚥下障害予防リスク評価システムを推進する。 ツバメ体操を普及する。	12 月 8 日（木）にスカイワードあさひ 5 階くすのきホールにて摂食嚥下障害予防のための講義とつばめ体操を実施した。37 名の参加者があった。	達成継続	
					5. 専門職向けの研修会や地域住民を対象とした公開講座を開催する。	専門職向け研修会として、9 月 17 日（土）に Zoom を利用し、基礎看護学「はじめての実習指導～病院編～」を開催した。62 名の参加者があった。 10 月 29 日（土）に対面にて専門基礎英語「英語での患者さんとのコミュニケーション」を開催した。7 名の参加者があった。 12 月 17 日（土）に Zoom を利用し、岐阜大学医学教育開発研究センター 併任講師 川上ちひろ氏による「対応に配慮が必要な看護師の育成」を開催した。75 名の参加者があった。 2 月 25 日（土）に Zoom を利用し、「臨床における研究倫理」を開催した。41 名の参加者があった。 公開講座として、3 月 18 日（土）に「第 1 部 安心できる子育てのヒント」[第 2 部 子どもの歯と口の健康]を開催した。17 名の参加者があった。	達成継続	
					3 社会的活動の促進	経営会議	総務課 企画・地域交流課	裁量労働制に基づき、兼職申請について適切に対応する。 豊田市の審議会委員等への就任について適切に対応する。
1. 地域診断について助言を行う。	森田教授が対応している。	達成継続						
2. 豊田市子どもにやさしいまちづくり推進協議会で助言を行う。	野口教授が対応している。	達成継続						
3. 豊田市感染症診断協議会で助言を行う。	下間教授が対応している。	達成継続						
4. 豊田市不良な生活環境を解消するための審議会で助言を行う。	原田准教授が対応している。	達成継続						

I 年度事業計画

計画項目				担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等
V 業務運営・財務	1 法人・大学ガバナンスの維持・向上	(1) 法人・大学運営体制	①効率的な大学運営	教育の質保証委員会	総務課	学長直下の経営会議、教育の質保証委員会及び人事委員会を適切に運営し、大学運営及び経営を安定化させる。また、教育の質保証のPDCAサイクルを円滑に循環させ、改善を図る。	学長直下の経営会議、教育の質保証委員会及び人事委員会を適切に運営し、大学運営及び経営を安定化させる。また、教育の質保証のPDCAサイクルを円滑に循環させ、改善を図る。	評価体制図のとおり適切な時期に内部ならびに外部からの評価を行った。自己点検評価委員会から内部質保証推進規程案を提案し実施体制について具体化した。	達成継続
				経営会議	総務課	平成 28 年度～ 30 年度に主要な規程の改訂が終了したので、残る規程を整備する。	学園本部の定めた諸規程の見直しを受け、大学の諸規程・内部規則等についても本部の準則等に照らし必要な改正を進める。また、一部未修整の規程の整備を進める。	学則準則の改正を受け、本学の学則改正を行った。	達成継続
				—	総務課	令和 5 年度に開学 20 周年を迎えるため、20 周年記念事業を実施する。	開学 20 周年記念事業の実施に向けて関連する団体と連携し、実施に向けて準備を進める。	開学 20 周年記念事業に関連する団体と具体的な事業内容について調整をしている。進捗状況を経営会議、教授会、教員会議、事務局会議にて報告している。	達成継続
				経営会議	経理課	本学の将来構想について方向性（移転または現状維持）を決定する。	本学の将来構想について方向性（移転または現状維持）を検討する。	令和 5 年度に予定している開学 20 周年事業について、今後 10 年間はこの地にとどまる前提で計画を策定している。	達成継続
				—	総務課	会議資料を電子化保存し、会議のペーパーレスを目指す。	D X の推進として、令和 4 年度以降、教授会を始めとする主たる会議の会議資料をペーパーレス化し、電子保存する。	教授会、研究科委員会資料のペーパーレス化に伴い資料閲覧用のタブレット等の機器を希望する声が挙がったため、予算の範囲内で iPad の整備を行った。委員会資料についても Teams にて電子保存を進めている。	達成継続
	(2) コンプライアンスの維持・向上			—	総務課	専門業務型裁量労働制を継続して実施し、適切な労働環境を維持する。	整備した労働環境（裁量労働制）の精査を行う。	専門業務型裁量労働制を適用している労働者からは苦情がなかった。職員の時間外の削減に向けて検討するよう指示された。	達成継続
				教育の質保証委員会	総務課	公的研究費不正防止のための環境整備として、備品・予算執行管理・内部監査等を適正に実施し、啓発のための研修会を実施する。	コンプライアンス（科研費）に関する学内研修会を実施する。	次期開催に向けて内容を検討している。不正使用等の情報提供は適宜行っている。	達成継続
				教育の質保証委員会	経理課		公的研究費の管理・監査のガイドラインに則り、本学の関係する規程の改正、制定を実施したため、その規程等理解度を深めるためコンプライアンス講習会を実施する。	旅費にかかる内部監査を実施した。	達成継続
				人事委員会	総務課	適正な定員管理を実施し、教員の任期制度を適正に運用する。	1. 任期制の適正運用	対象者への面接を実施し、以降を確認した。	達成継続
							2. 適正な定員管理	公募したものの未充足となった領域については教務補佐員や非常勤講師の採用で対応することを決定した。	達成継続
							3. 適正な教員選考人事	教員選考規程に則り公平公正な選考を行った。	達成継続
	(3) 広報の充実			入試・広報委員会 大学院入試委員会	企画・地域交流課	最新情報を随時ホームページに掲載する。	1. ホームページ及び大学案内のリニューアルをしたため、これらを活用し、本学に対する認知度等更なる向上を目指す。またスマートフォン対応Webサイトを作成したためこれらを活用し、情報発信を行う。(Twitterによる情報発信)	本学ホームページのトップ画面（スクロール）に大学独自選抜・大学入学共通テスト（前期 A・B）、大学入学共通テスト（後期）の広報（出願期間の掲載）を行った。	達成継続
							2. Webオープンキャンパスを継続して実施する。Zoomを用いた個別相談会を実施し、受験生と触れる機会を増やす。	HP上の動画コンテンツを整理し、動画を刷新することとした。また、Zoom個別相談会総括を作成し、次年度の改善点について共有した。	達成継続
							3. 進学説明会への積極的参加	次年度に向け参加する進学説明会について検討した。その結果、看護・医療に特化した進学説明会へ参加することとなった。	達成継続

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2022 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等		
Ⅴ 業務運営・財務	2 経営・財政基盤の確立	(1) 経営意識の醸成	－	経理課	教職員に対し、四半期ごとに決算報告、光熱水費使用量報告を行う。	大学経営の方策については最高決定機関（経営会議）からの迅速な意思決定のもと、各種会議等を通じて、その取り組みに対して教職員が邁進していけるような一体感を醸成する。	令和 5 年度予算案の報告を教職員に対しておこない、また、令和 3 年度第 3 四半期報告を教職員に対しておこない、大学経営状況の経営状況の理解を促した。	達成 継続	
			経営会議	企画・地域交流課	経営会議の審議結果を定期的に教職員に報告する。	教授会、教員会議にて報告する。	教授会、教員会議にて審議結果、報告事項を報告している。	達成 継続	
		(2) 経営基盤の確立	経営会議	企画・地域交流課	経営会議を月 1 回開催し、経営に関する迅速な意思決定をする。	経営会議を月 1 回開催して迅速な意思決定をし、教職員の経営意識の醸成を促進する。	経営会議を月 1 回開催し、教員会議等で情報を提供した。	達成 継続	
			－	経理課	18 歳人口減少を踏まえ、将来の収支予測を作成し、減収対策を検討する。また、私立学校等経常費補助金の獲得に努める。	事業実績と収入と経費の検証・分析を行い、健全な経営と事業活動におけるコストパフォーマンスを考慮したスクラップ＆ビルドを実行する。共有可能な物品は、学内全体で共有し、無駄な整備を排除する。また、より多くの私学助成金獲得に努める。	補助金要綱を経営会議にて共有し、次年度、注力すべき取り組みについて確認した。	達成 継続	
		(3) 教育研究向上のための財源確保	教育の質保証委員会	経理課	寄付を促進する仕組みを検討し、寄付募集を行う。	大学経営に貴重な収入源となる寄付金確保に向けて、継続的な寄付の勧奨やサポーター募金の導入を検討するとともに、広報活動としてホームページ上で寄付の勧奨を併せて行う。	クレジットカードの利用、振込票の作成など、寄付の窓口が広がる対策を実施した。	達成 継続	
					科学研究費へ申請し、公的研究費の確保に努める。	科研費等外部資金応募者を増加させる	科研費の執行、次年度の運用計画について相談を受け付けた。	達成 継続	
	3 教職員の確保と質的向上	(1) 適切な人事交流等	－	総務課	愛知県支部及び愛知県内日赤施設との職員の人事交流を維持する。	愛知県支部を始め管内赤十字施設、法人本部・赤十字 5 大学との人事交流の検討及び実施。	日本赤十字社愛知県支部と次年度人事について調整を行った。	達成 継続	
					中部ブロック内赤十字病院と連携して、看護職員を期限付き教員として受け入れ連携することを推進する。	教員において、臨床と教育を密接に繋ぐ関係性を構築するため、中部ブロック内赤十字病院と出向制度を活用した人事交流を行う。	人事委員会で次年度教員配置について検討した結果、令和 5 年度は出向制度を活用した教員配置は行わないことが決定している。	達成 継続	
					(2) 教職員モラル・人権意識の維持・向上	倫理委員会 自己点検・評価委員会	総務課	ハラスメント防止のガイドラインに基づき、ハラスメント防止研修会（学部学生向け・大学院学生向け・教職員向け）を開催する。	「キャンパスハラスメント防止ガイドライン」により、教職員及び学生への啓発活動及び継続的な研修会を実施する。
		4 危機管理体制の構築等	(1) 危機管理と安全管理	災害対策委員会	総務課	日赤愛知災害管理センター（令和 2 年度開設）において、災害時には生活拠点支援が実施できるように体制を整備する。	日赤愛知災害管理センターにおいて、災害時には生活拠点支援が実施できるように体制を整備する。	生活拠点支援について検討を始めた。	未達成
				衛生委員会 教務・学生委員会	総務課 学務課	感染症対策フローの見直しを行い、適切に運用する。	新型コロナウイルスを始めとした感染予防対策を継続する。	本学の新型コロナウイルス感染予防対策指針について見直しを行った。	達成 継続
						学生への啓発活動を継続する。	啓発活動内容や、感染予防対策の視点も含めた巡視結果について産業医に報告し、評価をいただいた。	達成 継続	
	(2) 環境意識の向上とエコ対策	経営会議	経理課	光熱水費節約を継続的に実施する。	ECO マニュアルを作成し、教員、学生へ周知している。また、各講義室には未使用時の電灯 OFF を促すよう、カードを貼り、周知する。	四半期光熱水費利用状況（前年度対比）を四半期ごとに教員会議において報告し、節電状況を周知した。	達成 継続		

II 組織・運営

1. 2022 年度 教員一覧

【専任教員】

職位		氏名	任期
学長	教 授	鎌 倉 やよい	2016 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日
学部長	教 授	山 田 聡 子	2022 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日
研究科長	特任教授	百 瀬 由美子	2022 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日
学術情報センター・図書館長	特任教授	下 間 正 隆	2018 年 9 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日
ヘルスプロモーションセンター長	教 授	松 浦 正 子	2020 年 8 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日

【看護学部】

領域	職位	氏名
一 般 教 養	特任教授	森 久 子
	講 師	鈴 木 寿 摩
専 門 基 礎	特任教授	下 間 正 隆
	教 授	森 田 一 三
	助 教	高 見 精一郎
	教 授	山 田 聡 子
基礎看護学	准教授	中 島 佳緒里
	准教授	巻 野 雄 介
	講 師	竹 内 貴 子
	助 教	近 藤 絵 美
	助 教	西久保 ひろみ
	助 手	高 下 翔
	助 手	福 岡 友理恵
	教 授	松 浦 正 子
	准教授	南 谷 志 野
看護管理学	教 授	東 野 督 子
	准教授	石 黒 千映子
成人看護学	講 師	棚 川 綾 子
	助 教	田 口 栄 子
	助 教	河 村 諒
	助 教	谷 口 純 平
	助 手	石 田 咲
	助 手	石 原 佳代子
災害看護学	特任教授	小 林 洋 子
	講 師	長 尾 佳世子
	講 師	藤 井 愛 海
老年看護学	教 授	小 林 尚 司
	准教授	清 水 みどり
	講 師	橋 本 亜 弓
	助 教	近 藤 香 苗
	助 教	臼 井 かおり
在宅看護学	特任教授	百 瀬 由美子
	講 師	松 田 優 子
	講 師	深 谷 由 美
母性看護学	教 授	野 口 眞 弓
	准教授	長 田 知恵子
	講 師	千 葉 朝 子
	助 手	草 深 真 菜
小児看護学	特任教授	大 西 文 子
	教 授	岡 田 摩 理
	准教授	神 道 那 実
	助 教	遠 藤 幸 子
	助 手	鳥 居 賀乃子
精神看護学	准教授	原 田 真 澄
	講 師	初 田 真 人
	助 教	飯 田 大 輔
	助 教	山 本 壮 則
公衆衛生看護学	教 授	長谷川 喜代美
	准教授	清 水 美代子
	助 教	廣 田 直 美

【大学院 修士課程】

領域・分野			職位	氏名
学長			教 授	鎌 倉 やよい
研究科長			特任教授	百 瀬 由美子
専 門 科 目	基盤育成看護学	看護管理学	教 授	松 浦 正 子
			准教授	南 谷 志 野
		看護教育・技術学	教 授	山 田 聡 子
			准教授	中 島 佳緒里
			准教授	巻 野 雄 介
		ケア創生看護学	成人看護学	教 授
	准教授			石 黒 千映子
	母性看護学		教 授	野 口 眞 弓
			准教授	長 田 知恵子
	小児看護学		特任教授	大 西 文 子
			教 授	岡 田 摩 理
	地域共生看護学	老年・在宅看護学	特任教授	百 瀬 由美子
			教 授	小 林 尚 司
			准教授	清 水 みどり
		精神看護学	准教授	原 田 真 澄
			教 授	長谷川 喜代美
		地域看護学	教 授	森 田 一 三
			災害看護学	特任教授
		講 師		長 尾 佳世子
講 師		藤 井 愛 海		
共通科目			特任教授	下 間 正 隆

【大学院 博士後期課程】

職位	氏名
教授 (学長)	鎌 倉 やよい
特任教授 (研究科長)	百 瀬 由美子
教 授	山 田 聡 子
教 授	野 口 眞 弓
特任教授	大 西 文 子
教 授	東 野 督 子
教 授	森 田 一 三
教 授	松 浦 正 子

2. 2022 年度 職員一覧

【事務局】

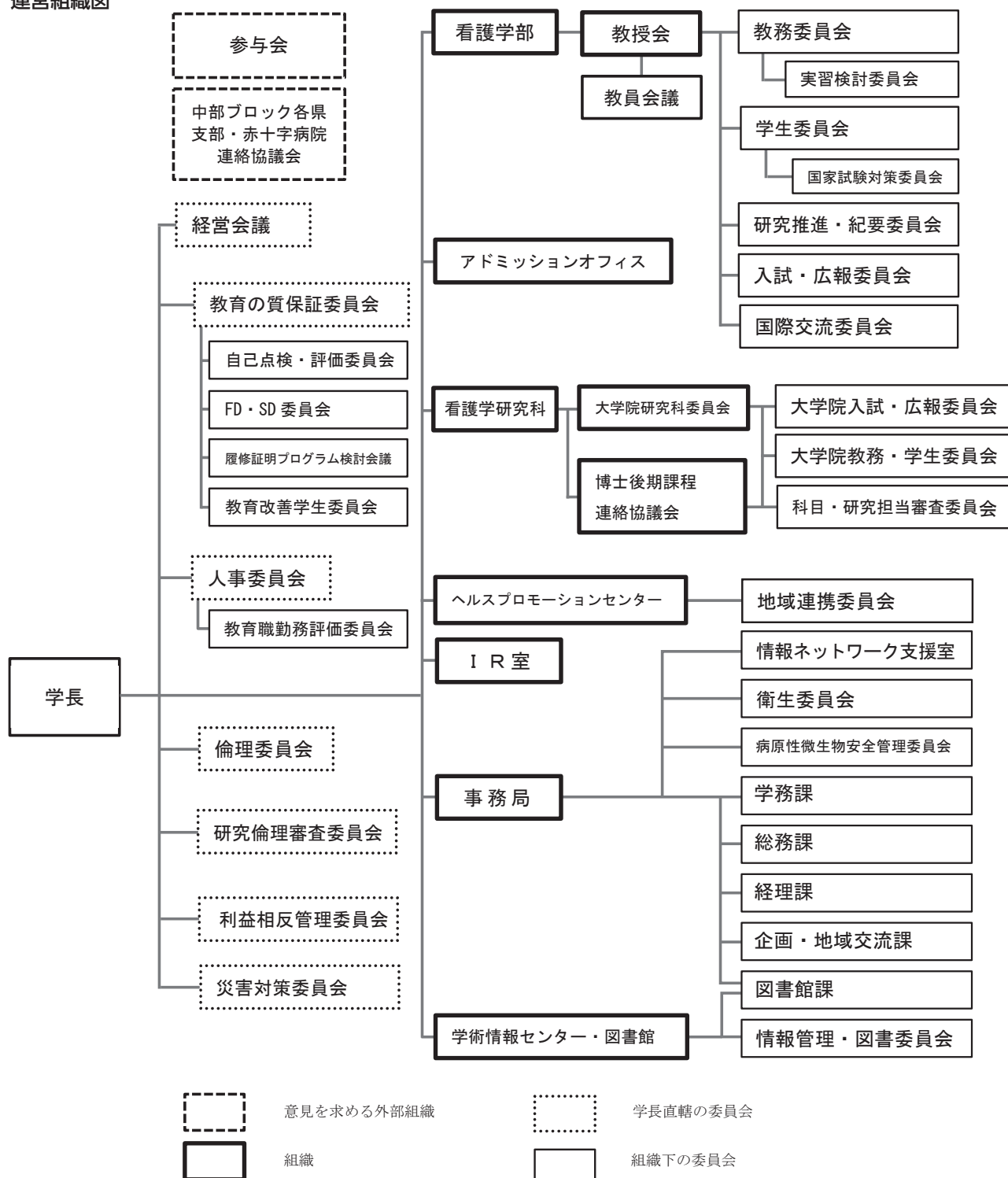
職名	氏名
事務局長	山 田 誠
学務課長	平 野 二 郎
係長	鳥 居 貴 代
係長	木 村 美 希
主事	芝 口 太 一
主事	賀 茂 綾 子
主事	松 原 なつほ
一般（契約）	三 木 幸 子
総務課長	恒 川 美智子
係長	谷 川 歩
主事	中 谷 瞭
主事	寺 本 庄 吾
経理課長（兼）	恒 川 美智子
係長	櫛 田 堅 二
主査	安 井 康 介
主事	洞 口 詩織里
主事	澤 村 瑛 美
一般（契約）	岩 田 高 人
企画・地域交流課長	中 島 伸 一
係長	中 根 春 波
主事	奥 映理菜

【学術情報センター・図書館】

職名	氏名
学術情報センター・図書館長	下 間 正 隆
図書館課長（兼）	山 田 誠
司書	村 瀬 悠香代
司書（嘱託）	水 野 真理子
一般（嘱託）	池 上 健 二

3. 運営組織

運営組織図



(2022. 8. 22 経営会議承認)

4. 内部質保証

1) 今年度の取り組み

学校法人日本赤十字学園第三次中期計画（2019～2023年度）に基づき、教育の質保証委員会が内部質保証に関する自己点検評価として達成状況を評価し、年度内の進捗管理を実施した。

令和4年度（2022年度）は、中期計画の「内部質保証」に4項目、「全学的な教学マネジメント」に2項目を設定した。その目標は、前者では①評価体制に基づくPDCAサイクルの円滑な実施、②年報の作成、③学生評価、教育改善学生委員会の意見等、教育改善へ意見反映、④データの蓄積であった。後者では①授業評価アンケートの評価体制の検討と適切な評価、②アセスメントポリシーに基づく各評価の適切な実施であった。

教育の質保証システム体系図に基づき、内部評価の具体的方法として、授業評価、学修成果に関するルーブリック評価、教育改善に関する学生評価が実施された。また、外部評価として参与会及び中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会が各年2回開催され、意見が聴取された。

（1）第三次中期計画における令和4年度目標の達成状況

内部質保証・教学マネジメントとも、評価体制図に基づき順調に実施され全て達成された。年度計画について四半期ごとに達成状況を確認し、PDCAサイクルが円滑に動くように進捗管理を実施した。アセスメントポリシーに基づき、学修成果に関するルーブリック評価、授業評価アンケート、キャンパスライフアンケート、看護技術自己評価を実施し、結果をホームページに掲載した。また、教育改善学生委員会は2回開催され、学部各学年代表、大学院代表が参加し意見交換し、院生室PCの問題等の指摘に関して早急に対応し解決した。

（2）学修ポートフォリオプロジェクトの開始

学生の学修成果を可視化し、さらなる自律的な学修を導くために、学修ポートフォリオを構築することを決定し、プロジェクトチームが始動した。現行の学務システム「メソフィア」に機能を追加することが決定され、具体的な追加項目が検討された。システムの構築は令和5年度に行い、令和6年度からの運用を予定している。

（3）ディプロマポリシー要約案の確定

本学のディプロマポリシーについて、文章で表現され複数の要素が含まれるので、ルーブリックによる達成度評価が難しいとの課題に対し、各ディプロマポリシーで求める能力を要約することとした。検討の結果、「尊厳と権利を擁護する力」、「生命・生活を支える力」、「人間を理解する力」、「問題を解決する力」、「看護を実践する力」、「多職種と協働する力」、「自ら学び続ける力」、「グローバルに視る力」、「災害時のニーズを理解する力」を決定した。これに伴い、カリキュラムマップを再検討し、各ディプロマポリシーと紐づける授業科目を再設定し、令和5年度から適用することとした。

（4）授業科目ナンバーリングの検討

授業科目のナンバーリングルールを確定し、令和5年度から教育課程表、シラバスに科目ナンバーを記すことが決定された。

（5）GP・GPAによる授業科目間の成績評価基準の平準化検討の開始

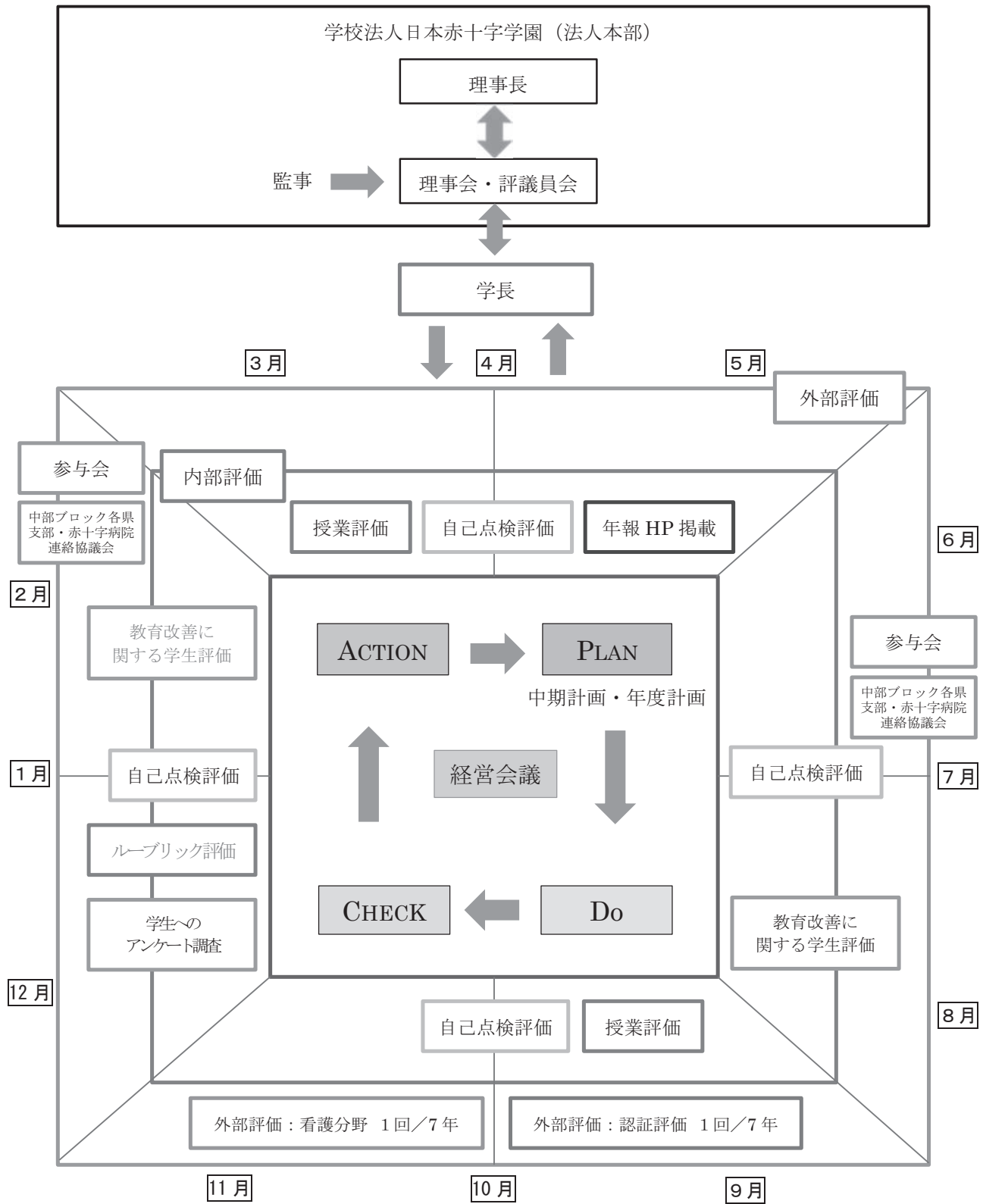
GP 平均値による成績評価基準の平準化について検討した。科目ごとに該当するディプロマポリシーを示し、S、A、B、C、D、の人数構成、GPの科目平均値、科目区分別、ディプロマポリシー別、学年別のGPA平均値を検討した。今後、資料を蓄積し、成績評価の平準化の検討を進めることが決定された。

2) 次年度に向けての課題

ディプロマポリシーの要約版を受けて、学修成果に関するルーブリック評価指標を確定すること、看護技術自己評価等の検討を行い、メソフィアにポートフォリオを構築することについて次年度の課題とした。

また、公益財団法人大学基準協会認証評価受審のための書類を完成させることも、次年度の課題である。

3) 評価体制図



4) 内部質保証システム体系図



5. 大学運営

1) 今年度の取り組み

経営会議のもとに、第三次中期計画に基づく2022年度計画を策定し、大学運営に関する方針を明示した。さらに、四半期ごとのアクションプランを示して、各委員会等による実施結果を評価し、PDCAサイクルを動かした。また、第三次中期計画の中間評価として2021年度末時点における目標達成状況について、日本赤十字学園から依頼があり、進捗状況を確認して報告した。進捗確認の結果、2023年度までには目標達成されることが見込まれた。

2022年度の重点事項は、将来構想としての方針決定、開学20周年記念事業に向けての準備、規程類の検討であった。

(1) 将来構想

将来構想を確定するために昨年度実施した建物診断の結果、コンクリートの状況は非常に良好であり、100年以上の維持が可能であるとの結論であった。15～16年毎に空調関係、給排水関係、ネットワーク関係の改修に関する見通しを確認し、現段階としては大学を名古屋に移転するのではなく、現大学の建物をメンテナンスする方針となった。

(2) 開学20周年記念事業の準備

開学20周年記念事業として、2023年11月11日（土）に記念式典、記念講演会、シンポジウムを企画し、関連事業として、講堂にLEDビジョン設置、教育システムe-ポートフォリオの構築、災害看護教育環境の充実、「赤十字学」の立ち上げに向けての赤十字史料の整理、いとすぎプロジェクト、記念誌の発行が決定された。

(3) 大学規程の点検評価

大学規程について、大学の組織・機能等に照合して確認し、学則の改正、リポジトリ規程、内部質保証推進規程を新規に定めた。さらに、IR室規程、特待生規程、障がいのある学生に対する支援規程、研究倫理審査委員会規程を改正した。また、宮口一色自治区「自主避難場所利用に関する覚書」の対応マニュアルを確定した。

(4) ガバナンスコードの点検評価

ガバナンスコードの点検評価を行い、第4章44(2)についてのみ未達成であった。「ハラスメントに関する受付窓口及び研究不正にかかる窓口は明示されている。しかし他の法令違反に関する窓口は総務課であるが規程にとどまり明示されていなかった。また、外部の窓口を設定する必要がある。」を含む評価結果をホームページ上に報告した。

(5) 助成金の獲得

令和4年度私立大学等改革総合支援事業について、タイプ1とタイプ3を申請し、前年選定されなかったタイプ3のみが選定され、タイプ1の評価項目達成に関する課題が残された。

次に、科学研究費の獲得は共通経費の獲得につながるため、全教員の科研費申請を目標に示しているが、目標は達成されず課題が残された。

2) 次年度に向けての課題

開学20周年記念事業の成功、大学院修士課程と博士課程の定員の確保、私立大学等改革総合支援事業の助成金の獲得、科学研究費への申請率の向上について次年度の課題とした。

また、規程類の整備として、倫理規程の改正、教員資格審査基準規程に実務家教員を位置づける等の改正、研究データの保管については運用を開始しているが規程を制定する必要がある、これらを次年度の課題とした。

3) 大学運営委員会組織および委員一覧

委員会名		備考	委員
経営会議			◎学長、学部長、研究科長、事務局長、学術情報センター・図書館長、ヘルスプロモーションセンター長、森田教授、ロベル参事
人事委員会	(人事委員会)		◎学長、学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、事務局長
	教育職勤務評価委員会		◎学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、事務局長
倫理委員会			◎学長、学部長、研究科長、事務局長、総務課長
教育の質保証委員会	(教育の質保証委員会)		◎学長、学部長、研究科長、事務局長、学術情報センター・図書館長、教務委員会委員長、大学院・教務学生委員会委員長、FD・SD委員会委員長、自己点検・評価委員会委員長、その他学長が指名する者、学務課長、総務課長、ロベル参事
	自己点検・評価委員会		◎百瀬特任教授、大西特任教授、松浦教授、山田教授、事務局長、総務課長
	FD・SD委員会		◎長谷川教授、事務局長、松浦教授、岡田教授
	履修証明プログラム検討会議		◎研究科長、学部長、大学院・教務学生委員会委員長、永田ゆかり（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院）、石川真理子（刈谷豊田総合病院）、佐野マズミ（トヨタ記念病院）
	教育改善学生委員会		◎学長、学部長、研究科長、看護学部生各学年2名、修士・博士課程学生1名
研究倫理審査委員会			◎小林（洋）特任教授、東野教授、長谷川教授、森田教授、山田教授、小林（尚）教授、百瀬特任教授、岡田教授、稲垣委員、児玉委員、平野二郎
利益相反管理委員会			◎学長、学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、ヘルスプロモーションセンター長、その他委員長が必要と認めた者、総務課長
災害対策委員会			◎小林（洋）特任教授、長尾講師、松田講師、河村助教、飯田助教、総務課
新型コロナウイルス感染予防対策本部			◎学長、下間特任教授、学部長、研究科長、事務局長、小林（洋）特任教授、松浦教授、長谷川教授、小林（尚）教授、東野教授、森田教授、学務課長、総務課長、企画・地域交流課長、ロベル参事、総務課
DX推進プロジェクト			◎学長、山田教授、東野教授、小林（尚）教授、森田教授、荻野准教授、原田准教授、竹内講師、棚川講師、橋本講師、高下助手、事務局長、経理課長、学務課長、経理課
高大連携プロジェクト			◎学部長、岡田教授、中島准教授、南谷准教授、荻野准教授、近藤（絵）助教、高見助教、学務課、森田教授（準メンバー）、学長（オブザーバー）
学修ポートフォリオプロジェクト			◎長谷川教授、小林（尚）教授、岡田教授、原田准教授、学務課長

4) 大学運営関係委員会 2022 年度活動報告

(1) 経営会議

活動目的	1) 本学の中期計画及び毎年度の事業計画に関すること 2) 教育研究組織の適切性の評価に関すること 3) 本学職員の人事・サービス管理等の方針に関すること 4) 本学が定める重要な規程の制定又は改廃に関すること 5) 予算の作成及び執行並びに決算に関する重要な事項 6) 本学の財産に関する重要な事項 7) 教授会及び研究科委員会の審議等に付される重要な事項 8) その他本学の経営に関する重要な事項（経営に影響する場合は、教育研究に関するものを含む）
構成員	委員長：鎌倉やよい 委 員：山田聡子、百瀬由美子、下間正隆、松浦正子、山田誠、森田一三、ロベル智子 事務局：企画・地域交流課 中島伸一、中根春波
委員会 開催回数	17 回
活動概要	経営会議にて、以下の事項を審議した。 第 1 回 2022 年度第三次中期計画（案）について 重点事業について ・ 創立 20 周年記念事業 ・ 将来構想 ・ 規程の検討 2022 年度点検評価について 第 2 回 創立 20 周年記念事業 ・ 建物診断の結果 ・ 20 周年における本学の将来構想 ・ プロジェクトチームメンバー（教員、担当事務部署） いとすぎ祭の実施について 第三次中期計画の修正 2022 年度自己点検評価について 第 3 回 学校法人日本赤十字学園第三次中期計画（2019 年度～2023 年度）の 2021 年度末における進捗状況について （自己点検中間評価） 看護学部特待生規程の改正について 第 4 回 中長期計画第 1 四半期報告について 創立 20 周年記念事業 リポジットリ規程等 第 5 回 運営組織図について 2023 年度入学式・学位記授与式の日程について 私立大学等経常費補助金、改革総合支援事業タイプ 1・タイプ 3 について 臨時 組織分掌規程の改正について 私立大学等経常費補助金、改革総合支援事業タイプ 3 について 第 6 回 2023 年度事業運営方針（案）について 2023 年度予算編成方針（案）について 私立大学等経常費補助金 改革総合支援事業タイプ 1・タイプ 3・教育の質にかかる客観的指標 学校法人日本赤十字学園第三次中期計画（2019 年度～2023 年度）の 2021 年度末における進捗状況について （自己点検中間評価） 開学 20 周年記念事業について IR 室規程 情報ネットワーク支援室規程 公的研究費の不正防止について 「学校法人日本赤十字学園大規模災害被災学生奨学費」事業に関する規程の改正について 2024 年度看護学部及び看護学研究科の入学試験日程について 2023 年度夏季全館休館の日程について 第 7 回 中長期計画第 2 四半期報告について 令和 5 年度保健師教育課程専攻選抜試験スケジュール（案） 宮口一色自治区との「自主避難場所利用に関する覚書」に関する対応マニュアルについて 改正労働契約法に基づく雇止め問題について

活動概要	第8回	学則の改正について 宮口一色自治区「自主避難場所利用に関する覚書」に関する対応マニュアル（案）
	第9回	2023 年度事業計画書（案） 2023 年度予算書（案） 学則の改正について 宮口一色自治区「自主避難場所利用に関する覚書」に関する対応マニュアル（案） 特待生規程の改正について 障がいのある学生に対する支援規程の改正について 大学院入試業務日程（案） 2023 年度各種委員会一覧（案） 2023 年度予算書（案）
	臨時 第10回	令和 5 年度収支予算（案）の見直しについて 収支改善策・取組計画の策定について 中長期計画第 3 四半期報告について 学則の改正について 愛知学長懇話会「2026 年アジア競技大会・アジアパラ競技大会専門委員会」の参加大学募集について 「豊田クラシックを聴く会」について
	臨時 第11回	開学 20 周年記念事業について 収支改善策・取組計画について 講堂 LED ビジョンの仕様書について インボイス制度について 2023 年度年間スケジュールの追加日程について
	臨時 第12回	収支改善策・取組計画について 2022 年度中長期計画第 4 四半期報告について 2023 年度第三次中期計画について ガバナンスコードの点検評価報告書について 令和 5 年度年間スケジュールの追加日程について 研究倫理審査委員会規程の改正について 組織分掌規程の改正について
	臨時	日本赤十字豊田看護大学内部質保証推進規程（案）について
	次年度の 課題	1) 大学院修士課程の定員（10 名）、大学院博士課程の定員（2 名）確保 2) 研究力の強化 3) 第 3 次中期計画の 2023 年度計画が順調に進むよう進捗管理を行う。

(2) 人事委員会

活動目的	1) 教員等の採用、昇任、任期、解雇、懲戒等に関する事項 2) 当事者の意に反する降任、配置換、兼務、休職に関する事項 3) 任期終了時における業績評価及び再任可否に関する事項 4) 任期終了時の処遇に関する事項 5) 前各号に規定するもののほか、学長の指示に基づきその権限に属する事項
構成員	委員長：鎌倉やよい 委 員：山田聡子、百瀬由美子、下間正隆、山田誠 事務局：総務課 恒川美智子、谷川歩
委員会 開催回数	14 回
活動概要	以下の事項を審議した。 1) 新規配置に伴う公募について（1 件） 成人看護学領域 2) 退職に伴う公募について（6 件） 一般教養（英語）、看護管理学領域、母性看護学領域、老年看護学領域、在宅看護学領域、公衆衛生看護学領域 3) 「教員の任期に関する規程」に基づく面接等手続きについて 4) 教員の昇任について 一般教養（英語）1 名、小児看護学領域 1 名、成人看護学領域 1 名
次年度の 課題	1) 実務家教員採用基準に関する検討

(3)教育の質保証委員会

活動目的	1) 人材育成目標及び教育プログラム編成の基本的事項に関すること 2) 教職員の資質・能力の向上と開発の基本的事項に関すること 3) 中長期計画及び年度計画、自己点検・評価に関すること 4) カリキュラム検討及び改正に関すること 5) 履修証明プログラム検討に関すること 6) その他全学的な教学マネジメント及び内部質保証に関すること
構成員	委員長：鎌倉やよい 委員：山田聡子、百瀬由美子、下間正隆、長谷川喜代美、小林尚司、山田誠、ロベル智子、平野二郎、恒川美智子 事務局：総務課 中谷瞭
委員会 開催回数	12回
活動概要	以下の事項を審議した。 第1回 2021年度キャンパスライフアンケートの結果について 修士課程 DP 評価の方法について（アセスメントポリシー・教育課程レベル・DP） 単位互換制度に関する学内運用について 令和3年度委員会総括について 卒業生のメールアカウントの扱いについて 第2回 教職員の外部研修受講者調整について 第3回 ディプロマポリシーのルーブリック評価について 授業評価アンケートに関する評価委員について 「（仮称）学修ポートフォリオプロジェクト」について 学生教育委員会からの課題について 第4回 ディプロマポリシー要約案について アセスメントポリシー機能レベル（卒業生・修了生関係調査について） メソフィア ポートフォリオ機能の追加について 第5回 令和4年度 私立大学等改革総合支援事業について 卒業生・修了生関係調査について 令和4年度 ルーブリック評価尺度の検討について メソフィア ポートフォリオ機能の追加について 令和5年度 ルーブリック評価尺度の検討について 大学基準協会認証評価について 第6回 GP・GPAによる授業科目間の成績評価基準の平準化について カリキュラム編成の改善、検証について（カリキュラムマップの改正） 令和4年度 私立大学等改革総合支援事業について 教育の質に係る客観的指標調査票④「IR機能の整備」について 入学前課題と基礎学力テストについて 評価体系図について ルーブリック評価尺度の検討について 第7回 ルーブリック評価更新の方向性について 学修ポートフォリオ作成の方向性および検討課題について 第8回 大学設置基準等の一部を改正する省令等の公布について 令和4年度前期授業評価アンケートと科目別 GP について 令和4年度前期授業評価結果及び科目別 GP 平均について 令和4年度後期授業評価アンケート結果について（修士） 第9回 学部・大学院準則変更について 看護学部カリキュラムマップの改編について 「教育課程等に係る特例制度」意向調査について 第10回 「教育課程等に係る特例制度」意向調査について 第11回 ナンバリングルールについて GPA 制度の活用について 内部質保証推進規程について 第12回 キャンパスライフアンケート結果について 内部質保証推進規程について 令和4年度委員会活動報告について 【決定事項】 1) 新プロジェクトの立ち上げについて 新たに高大連携推進プロジェクト、学修ポートフォリオプロジェクトを立ち上げ、メンバーを決定した。 2) メソフィア ポートフォリオ機能の追加について 学生の学修状況を記録するものとして、e ポートフォリオをメソフィアの機能に追加することを決定した。

活動概要	3) 評価体系図について ルーブリック評価の時期を2月に移動すること、教育改善に関する学生評価を2月に追加することが決定された。 4) 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度について 教務委員会を中心に見直しを進めることを決定した。 5) ディプロマポリシーのルーブリック評価について 看護学部のディプロマポリシーをどのように評価するかを検討課題として従来のルーブリック評価の見直しを含めて議論した。 6) カリキュラムマップの改編について 実情に合わせたカリキュラムマップの改編について検討し、確定した。令和5年度学生便覧から掲載する。 7) 入学前教育について（高大連携推進プロジェクト） 令和5年4月入学者から理数科目に関する新課題を用いること、入学予定者の本学の学術情報センター・図書館利用を許可することが決定された。 8) キャンパスライフアンケートの実施について 回答率をあげるため、実施時期を繰り上げてアンケートを実施した。 9) ナンバリングルールについて ナンバリングルールを確定し、令和5年度から教育課程表、シラバスに科目ナンバーを掲載することが決定した。 10) GPA制度の活用について 私立大学等改革総合支援事業への次年度申請に向け、以下のとおり活用することを決定した。 ①卒業判定への活用（私立大学等改革総合支援事業タイプ1 - ⑦イ） 卒業判定の目安をGPA2.0（8セメスターまでの累計GPA）とする。 令和4年度4年生から確認した。 ②保健師選抜試験への活用（私立大学等改革総合支援事業タイプ1 - ⑦ウ） 保健師課程出願に必要なGPAを2.5（2セメスターまでの累計GPA）とする。 11) 内部質保証推進規程について 新たに内部質保証推進規程を制定した。
次年度の課題	1) 公益社団法人大学基準協会認証評価受審のための準備 2) ポートフォリオの構築 3) ルーブリック評価指標の修正

(4) 自己点検・評価委員会

活動目的	1) 教育、研究に関する事項 2) 施設、設備に関する事項 3) 文部科学大臣の認証を受けた評価機構の受審に関する事項 4) 評価結果の公表及び改善に関する事項 5) その他学長が必要と認める事項
構成員	委員長：百瀬由美子 委員：大西文子、松浦正子、山田聡子、山田誠、恒川美智子 事務局：総務課 寺本庄吾
委員会開催回数	5回
活動概要	1) 教育、研究に関する事項 (1) 2022年1月に実施したキャンパスライフアンケートの結果を2022年6月に学部生・大学院生に公開した。 (2) 2023年1月にキャンパスライフアンケートをMicrosoft office365 formsで実施した。なお、経年変化を確認するため、調査の内容は昨年と同じものとした。 メソフィア配信および講義時の呼びかけを実施し、昨年に比べアンケート回収率が増加した（37.5%→48.0%）。 (3) 内部質保証推進規程案を提案し、実施体制について具体化した。 2) 施設、設備に関する事項 該当事項なし。 3) 文部科学大臣の認証を受けた評価機構の受審に関する事項 2024年度大学基準協会認証評価受審に向けて申請前準備を開始した。 4) 評価結果の公表及び改善に関する事項 自己点検・評価に係るデータの継続的積み重ねが出来るよう構成の改善を行った。発行した2021年度年報は、赤十字関係施設および実習施設等へ送付した。 2022年度年報については7月発行（納品）を目標として作成スケジュールをたて、2023年1月に各事務担当課・各委員会委員長あてに原稿を依頼した。 5) その他学長が必要と認める事項 該当事項なし。
次年度の課題	1) 学生の声を反映したキャンパスライフを目指し、アンケートの回収率を上げるため、実施時期や周知方法等の変更を検討する。 2) 2022年度年報を、作成スケジュールに基づき早期に発行する。

(5) FD・SD委員会

活動目的	1) FD（ファカルティディベロップメント）に関する事項 2) SD（スタッフディベロップメント）に関する事項 3) その他学長が必要と認める事項																																							
構成員	委員長：長谷川喜代美 委員：松浦正子、岡田摩理、山田誠、恒川美智子 事務局：総務課 寺本庄吾																																							
委員会 開催回数	5回																																							
活動概要	1) FD（ファカルティディベロップメント）に関する事項 FD研修を表1・2のとおり実施した。 表1 2022年度FD研修（学内）実施状況（一部SDを含む） <table> <tr> <th></th><th>研修テーマ</th><th>実施状況</th></tr> <tr> <td rowspan="9">FD</td><td>新入教職員オリエンテーション 及びTA・教務補佐員研修</td><td>開催日：2022年4月1日（水）・9月8日（木） 参加者：新入教職員10名及びTA・教務補佐員3名</td></tr> <tr> <td>「科研費申請書のブラッシュアップ」研修会</td><td>開催日：2022年8月9日（火） 参加者：18名</td></tr> <tr> <td>ハラスメント防止研修</td><td>開催日：2022年4月15日（金）・7月6日（水） 参加者：1名（新入教職員）</td></tr> <tr> <td>情報セキュリティ・リテラシー研修</td><td>開催日：2022年5月18日（水）・12月21日（水）Zoom 参加者：60名・39名</td></tr> <tr> <td>研究に関する研修（若手研究者向け）</td><td>開催日：2022年12月23日（金） 参加者：31名</td></tr> <tr> <td>学生支援機構奨学金の基礎知識</td><td>開催日：2023年2月22日（木） 参加者：52名</td></tr> <tr> <td>FD・SD研修会 「コロナ禍の影響を受けた新人看護師の受け入れとその実態－臨床実践能力評価と社会人基礎力評価の結果より－」</td><td>開催日：2023年3月9日（木）Zoom 参加者：35名</td></tr> <tr> <td>研究倫理研修</td><td>開催日（オンデマンド配信日）： 2023年3月6日（月）～3月24日（金） 参加者：43名</td></tr> <tr> <td>利益相反研修</td><td>開催日（オンデマンド配信日）： 2023年3月6日（月）～3月24日（金） 参加者：47名</td></tr> </table> 表2 2022年度FD研修（学外）実施状況（一部SDを含む） <table> <tr> <th></th><th>研修テーマ</th><th>実施状況</th></tr> <tr> <td rowspan="6">FD</td><td>第6回大学評価研究所公開研究会</td><td>主催：大学基準協会 開催日：2022年7月7日（木） 参加者：7名</td></tr> <tr> <td>新任教員向け研修会「大学教育とは」</td><td>主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年8月14日（日） 参加者：12名</td></tr> <tr> <td>2022年度第1回研究セミナー</td><td>主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年9月17日（土） 参加者：14名</td></tr> <tr> <td>学校法人のガバナンス改革とこれからの私立大学の経営戦略</td><td>主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年10月24日（月） 参加者：15名</td></tr> <tr> <td>ダイバーシティの視点に立った教育（日本・海外の実践例を学ぶ）</td><td>主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年11月5日（土） 参加者：4名</td></tr> <tr> <td>入学者育成研究会 Web セミナー 2022</td><td>主催：進研アド 開催日：2022年11月10日（木）・11日（金） 参加者：10名</td></tr> </table>			研修テーマ	実施状況	FD	新入教職員オリエンテーション 及びTA・教務補佐員研修	開催日：2022年4月1日（水）・9月8日（木） 参加者：新入教職員10名及びTA・教務補佐員3名	「科研費申請書のブラッシュアップ」研修会	開催日：2022年8月9日（火） 参加者：18名	ハラスメント防止研修	開催日：2022年4月15日（金）・7月6日（水） 参加者：1名（新入教職員）	情報セキュリティ・リテラシー研修	開催日：2022年5月18日（水）・12月21日（水）Zoom 参加者：60名・39名	研究に関する研修（若手研究者向け）	開催日：2022年12月23日（金） 参加者：31名	学生支援機構奨学金の基礎知識	開催日：2023年2月22日（木） 参加者：52名	FD・SD研修会 「コロナ禍の影響を受けた新人看護師の受け入れとその実態－臨床実践能力評価と社会人基礎力評価の結果より－」	開催日：2023年3月9日（木）Zoom 参加者：35名	研究倫理研修	開催日（オンデマンド配信日）： 2023年3月6日（月）～3月24日（金） 参加者：43名	利益相反研修	開催日（オンデマンド配信日）： 2023年3月6日（月）～3月24日（金） 参加者：47名		研修テーマ	実施状況	FD	第6回大学評価研究所公開研究会	主催：大学基準協会 開催日：2022年7月7日（木） 参加者：7名	新任教員向け研修会「大学教育とは」	主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年8月14日（日） 参加者：12名	2022年度第1回研究セミナー	主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年9月17日（土） 参加者：14名	学校法人のガバナンス改革とこれからの私立大学の経営戦略	主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年10月24日（月） 参加者：15名	ダイバーシティの視点に立った教育（日本・海外の実践例を学ぶ）	主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年11月5日（土） 参加者：4名	入学者育成研究会 Web セミナー 2022	主催：進研アド 開催日：2022年11月10日（木）・11日（金） 参加者：10名
	研修テーマ	実施状況																																						
FD	新入教職員オリエンテーション 及びTA・教務補佐員研修	開催日：2022年4月1日（水）・9月8日（木） 参加者：新入教職員10名及びTA・教務補佐員3名																																						
	「科研費申請書のブラッシュアップ」研修会	開催日：2022年8月9日（火） 参加者：18名																																						
	ハラスメント防止研修	開催日：2022年4月15日（金）・7月6日（水） 参加者：1名（新入教職員）																																						
	情報セキュリティ・リテラシー研修	開催日：2022年5月18日（水）・12月21日（水）Zoom 参加者：60名・39名																																						
	研究に関する研修（若手研究者向け）	開催日：2022年12月23日（金） 参加者：31名																																						
	学生支援機構奨学金の基礎知識	開催日：2023年2月22日（木） 参加者：52名																																						
	FD・SD研修会 「コロナ禍の影響を受けた新人看護師の受け入れとその実態－臨床実践能力評価と社会人基礎力評価の結果より－」	開催日：2023年3月9日（木）Zoom 参加者：35名																																						
	研究倫理研修	開催日（オンデマンド配信日）： 2023年3月6日（月）～3月24日（金） 参加者：43名																																						
	利益相反研修	開催日（オンデマンド配信日）： 2023年3月6日（月）～3月24日（金） 参加者：47名																																						
	研修テーマ	実施状況																																						
FD	第6回大学評価研究所公開研究会	主催：大学基準協会 開催日：2022年7月7日（木） 参加者：7名																																						
	新任教員向け研修会「大学教育とは」	主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年8月14日（日） 参加者：12名																																						
	2022年度第1回研究セミナー	主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年9月17日（土） 参加者：14名																																						
	学校法人のガバナンス改革とこれからの私立大学の経営戦略	主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年10月24日（月） 参加者：15名																																						
	ダイバーシティの視点に立った教育（日本・海外の実践例を学ぶ）	主催：日本私立看護系大学協会 開催日：2022年11月5日（土） 参加者：4名																																						
	入学者育成研究会 Web セミナー 2022	主催：進研アド 開催日：2022年11月10日（木）・11日（金） 参加者：10名																																						

活動概要

FD	看護学研究の倫理審査 - 倫理審査委員への研修を考える -	主 催：日本看護倫理学会 開催日：2022 年 11 月 18 日（金） 参加者：8 名
	教育 DX の推進による学習者本位の教育	主 催：大学基準協会 開催日：2022 年 11 月 22 日（火） 参加者：7 名
	第 44 回私立大学の教育・研究充実に関する研究会（大学の部）	主 催：私学研修福祉会 開催日：2023 年 11 月 24 日（木） 参加者：6 名
	入学者育成研究会 医療系 Web セミナー	主 催：進研アド 開催日：2022 年 12 月 9 日（金）・12 日（月） 参加者：7 名
	高等学校における数理・データサイエンス・AI 教育の現状	主 催：日本私立看護系大学協会 開催日：2023 年 1 月 29 日（日） 参加者：11 名
	災害支援対策委員会企画災害フォーラム	主 催：日本看護系大学協議会 開催日：2023 年 2 月 19 日（木） 参加者：6 名
	2022 年度第 2 回研究セミナー	主 催：日本私立看護系大学協会 開催日：2023 年 2 月 25 日（土） 参加者：5 名
	After コロナも SCENARIO と共に	主 催：日本私立看護系大学協会 開催日：2023 年 2 月 28 日（火） 参加者：9 名
	看護のエビデンスを施策推進に結び付けよう	主 催：日本看護系大学協議会 開催日：2023 年 3 月 3 日（水） 参加者：6 名

2) SD（スタッフディベロップメント）に関する事項
SD 研修を表 3 のとおり実施した。

表 3 2022 年度 SD 研修実施状況

SD	業務効率化・改善にかかるワーキング	開 催 日：2022 年 5 月 23 日（月）・7 月 14 日（木） 2023 年 1 月 18 日（水）・3 月 10 日（金） メンバー：6 名（事務各課若手職員） 開催回数：4 回
	豊田 PF 共同 SD 研修会 「大学における外部資金獲得についての意見交換」	開 催 日：2022 年 9 月 29 日（木） 参 加 者：9 名
	日本赤十字学園 新任教職員研修	開 催 日（オンデマンド配信日）： 2022 年 12 月 6 日～2023 年 1 月 20 日 参 加 者：27 名

3) その他学長が必要と認める事項
該当事項なし

次年度の課題

1) 学修ポートフォリオの効果的な活用に向けて、研修等を実施していく。

2) 業務効率化・改善ワーキングにおいて、昨年度に引続き「データの整理・保管方法」の検討を継続。新たに「慢性化している時間外労働の削減に向けた方法」を検討し、取り組んでいく。

3) SD 研修の実施状況を確認し、効果的な研修の実施について検討する。

FD・SD マップー求められる教職員像の実現に向けた研修等ー

《教育力》		学 内 研 修	日常業務を通して	学 外 研 修
レベル 1	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を理解 ・ 赤十字の理念を理解 ・ 本学の3つのポリシーを理解 ・ 本学の3つのポリシーの関係性（一貫性）を理解 ・ カリキュラムマップ等により、各授業科目の関連を理解	・ 新入教員オリエンテーション ・ TA 研修、プレ FD		・ 学園本部の研修
レベル 2	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を実践 ・ ディプロマポリシーをふまえて担当授業科目の位置づけを理解、シラバスを作成 ・ シラバスの記載内容にそった授業を実践	・ シラバス作成研修（教務委員会）	・ 教員間授業見学	・ 日本学生支援機構の各種研修 ・ 看護学教育ワークショップ（千葉大文科省委託）
レベル 3	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を振り返り、課題を見出し改善 ・ 学修成果・教育成果を把握・可視化 ・ 学修成果・教育成果に基づき教育活動の課題を分析 ・ 教育活動の課題に関する改善方を立案	・ 教育活動の評価（アセスメントポリシー、ルーブリック評価）研修	・ 授業評価アンケート、成績評価をふまえた教育活動の改善	・ 日本学術会議公開シンポジウム（分野別保証等） ・ JANPU の研修（看護学教育評価等）

《研究力》		学 内 研 修	日常業務を通して	学 外 研 修
レベル 1	研究デザインを理解 質の良い RQ を持って文献検討、研究計画立案	・ 文献検索（EBSCO、医中誌） ・ 科研費申請説明会（研究推進・紀要委員会）	・ 研究促進・支援体制の整備	
レベル 2	研究計画に基づく研究の実践 外部の競争的研究資金の獲得	（必須研修） ・ 研究倫理 ・ 利益相反 ・ 科研費コンプライアンス		
レベル 3	研究結果をプロダクト（論文）として社会に還元			

《マネジメント力》		学 内 研 修	日常業務を通して	学 外 研 修
レベル 1	大学のマネジメントを支える基盤の理解	・ 新入職員オリエンテーション ・ 情報セキュリティ・情報リテラシー		・ 学園本部の研修
レベル 2	大学のマネジメントを支える方法の理解および実践	（必須研修） ・ ハラスメント防止研修		・ 働き方改革セミナー等 ・ 愛知労働局の研修
レベル 3	大学のマネジメントに関する課題の見出し改善策の提言	・ 業務効率化に関するワーキング（具体的課題のリストアップ） ⇒課題解決方法検討（研修会企画、業務改善策立案等）		

(6) 研究倫理審査委員会

活動目的	1) 研究を実施することの倫理的及び科学的見地からの妥当性に関する審査 2) 審査を行った研究についての倫理的妥当性及び科学的合理性の観点からの調査と学長への報告 3) 侵襲を伴い介入を行う研究を実施する場合の研究実施の適正性及び研究結果の信頼性確保のための調査と学長への報告 4) 研究倫理意識高揚のための倫理教育・研修の実施 5) その他、学長および委員会が必要と認める事項
構成員	委員長：小林洋子 委 員：森田一三、長谷川喜代美、山田聡子、東野督子、小林尚司、百瀬由美子、岡田摩理、稲垣恵一（外部委員）、 児玉由加（外部委員）、平野二郎 事務局：学務課 鳥居貴代、賀茂綾子
委員会 開催回数	2022 年度は、18 回開催した。 定例：12 回、臨時：6 回
活動概要	1) 審査件数 前年度からの引継ぎ件数：2 件 新規申請件数：35 件 研究計画変更申請件数：11 件 のべ審査件数（研究計画変更申請を含む）：101 件（内、前年度からの引継ぎ件数：6 件） 承認件数（研究計画変更申請を含む）：44 件（内、前年度からの引継ぎ件数 2 件） 2) 定例委員会： 第 1 回 研究倫理審査 5 件（迅速審査 3 件、研究計画変更審査 2 件） 2022 年度の取り組み課題について 2022 年度研究倫理審査委員会開催予定について 第 2 回 研究倫理審査 7 件（迅速審査 3 件、研究計画変更審査 4 件） 第 3 回 研究倫理審査 3 件（迅速審査 2 件、研究計画変更審査 1 件） 第 4 回 研究倫理審査 7 件（迅速審査 6 件、研究計画変更審査 1 件） 第 5 回 研究倫理審査 3 件（迅速審査 3 件） 第 6 回 研究倫理審査 8 件（一般審査 1 件、迅速審査 7 件） 第 7 回 研究倫理審査 7 件（一般審査 2 件、迅速審査 5 件） 第 8 回 研究倫理審査 3 件（一般審査 2 件、迅速審査 1 件） 「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会規程」、「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会運用細則」の 改正について 第 9 回 研究倫理審査 3 件（一般審査 1 件、迅速審査 2 件） 「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会規程」、「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会運用細則」の 改正について 第 10 回 研究倫理審査 3 件（一般審査 1 件、迅速審査 2 件） 「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会規程」、「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会運用細則」の 改正について 第 11 回 研究倫理審査 3 件（一般審査 2 件、迅速審査 1 件） 「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会規程」、「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会運用細則」の 改正について 第 12 回 研究倫理審査 5 件（一般審査 2 件、迅速審査 1 件、研究計画変更審査 2 件） 「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会規程」、「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会運用細則」の 改正について 2022 年度研究倫理審査委員会活動報告（案）について 2023 年度 4 ～ 6 月研究倫理審査委員会開催日程について 3) 臨時委員会： 第 1 回 研究倫理審査 3 件（迅速審査 2 件、研究計画変更審査 1 件） 第 2 回 研究倫理審査 2 件（迅速審査 2 件） 第 3 回 研究倫理審査 3 件（迅速審査 3 件） 第 4 回 研究倫理審査 6 件（迅速審査 6 件） 第 5 回 研究倫理審査 1 件（迅速審査 1 件） 第 6 回 研究倫理審査 1 件（迅速審査 1 件） 「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会規程」、「日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会運用細則」の 改正について 4) 研究倫理研修 開催日（オンデマンド配信日）：2023 年 3 月 6 日（月）～ 3 月 24 日（金） 参加者：47 名
次年度の 課題	1) 研究倫理審査過程、規程・運用細則・様式を整備する。 2) 教職員の研究倫理教育・研修を検討する。 3) 研究倫理審査のペーパーレス化を検討する。

(7) 災害対策委員会

活動目的	1) 災害情報の収集とその分析に関すること 2) 想定されるリスクの抽出、評価及び優先順位付けに関すること 3) 順位付けたりリスクへの対応策の検討、立案、実施に関すること 4) 危機管理マニュアルの作成、見直し、学内への周知に関すること 5) 教職員及び学生等への教育・訓練の実施に関すること 6) 緊急時の情報伝達システムの整備に関すること 7) 災害時における危機対策本部を設置するときの場所の確保、備品、通信機器の準備に関すること 8) その他災害対策に関すること
構成員	委員長：小林洋子 委 員：長尾佳世子、松田優子、河村諒、飯田大輔、恒川美智子 事務局：総務課 中谷瞭
委員会 開催回数	11 回
活動概要	以下の事項を審議した。 第 1 回 2022 年度災害対策委員会年間計画 災害対策委員会の役割分担 第 2 回 「住民受け入れマニュアル（案）」の加筆修正について 新入生に向けた事前安否確認アンケートの実施について 第 3 回 一色自治区との「住民受け入れマニュアル（案）」打ち合わせについて 本学備蓄食料ローリングストック計画について 1) 食糧購入・配備計画、2) 配備済みペットボトル飲料の取扱い 第 4 回 ローリングストック案について（学内在籍想定人数） 今年度非常食の購入について 防災訓練について 災害時の掲示物作成について 第 5 回 年報「活動概要」記載追加について 飲料水確保について 防災訓練について 来年度予算について 第 6 回 来季予算申請内容について 防災訓練について 宮口一色自治区との合同訓練について 第 7 回 防災訓練について 安否確認アンケートについて 宮口一色自治区との避難マニュアルについて 宮口一色自治区との合同訓練について 第 8 回 防災訓練結果について 宮口一色自治区との避難マニュアルについて 第 9 回 AC カード作成の進捗について 宮口一色自治区緊急避難場所見学の日程について 第10回 AC カード作成の進捗について 2023 年度防災訓練の日程について 携帯マニュアル改版について 2022 年度委員会活動報告 第11回 避難経路見直し 消防訓練振り返り 以下のとおり活動した。 2022 年 6 月 15 日 新入生及び新入教職員に対し Forms を使用した安否確認訓練を行った。 2022 年 11 月 17 日 学生及び教職員に対し Forms を使用した安否確認訓練を行った。 2023 年 3 月 23 日付で宮口一色自治区との自主避難場所利用に関する覚書を更新した。
次年度の 課題	1) 災害対応個別マニュアル第 1 版の見直し 2) アクションカードの活用を含めた防災訓練の実施 3) 防災研修の実施（年に 2 回）

(8) DX 推進プロジェクト

活動目的	大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の推進および成果評価
構成員	リーダー：鎌倉やよい 委員：山田聡子、東野督子、小林尚司、森田一三、巻野雄介、原田真澄、竹内貴子、棚川綾子、橋本亜弓、高下翔、山田誠、恒川美智子、平野二郎 事務局：経理課
プロジェクト 開催回数	4 回
活動概要	大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択され 10,000,000 円の交付を受けた。以下を事業計画とした。 1. 携帯型超音波画像診断装置を用いた臨床推論力の育成（担当領域：基礎看護学） 2. ハイブリッドシミュレーションによる臨床判断力の育成（担当領域：成人看護学） 3. タブレット PC を用いた多地点遠隔実習指導の推進（担当領域：老年看護学・在宅看護学・精神看護学） なお、下記のプロジェクトミーティングにより進捗確認と情報共有を図った。 第 1 回 補助対象物品の整備状況について 補助金事業実施計画について 第 2 回 補助対象物品の整備状況について 補助金事業の各領域における進捗状況について 第 3 回 実施報告書「実績および具体的な成果」について その他の DX 取り組みの実施状況について 第 4 回 実施報告書「実績および具体的な成果」について 次年度 DX にかかる取り組みについて
次年度の 課題	事業概要を整理し 2022 年度紀要に成果報告を行った。2023 年度は成果評価を進めていく。

(9) 高大連携推進プロジェクト

活動目的	本学看護学部入学前教育から初年次教育への高大接続をシームレスに効果的に進める方略を計画し推進する。
構成員	リーダー：山田聡子 委員：岡田摩理、中島佳緒里、南谷志野、巻野雄介、近藤絵美、高見精一郎、森田一三（準メンバー） 鎌倉やよい（オブザーバー） 事務局：学務課
プロジェクト 開催回数	6回
活動概要	1. ミーティング開催（以下、主たる検討事項） 第1回 7月12日 ・プロジェクト主旨説明とプロジェクトに係る意見交換 ・入学前課題と基礎学力テストの見直し予定 第2回 8月25日 ・入学前課題と基礎学力テストに関する課題検討 ・初年次教育内容の検討 ・関連調査結果の共有 第3回 10月3日 ・教育の質保証委員会審議結果報告 ・英語科目の事前課題に関する情報共有 ・理系科目の入学前課題内容の検討 第4回 10月28日 ・推薦合格者の授業参加体験について ・入学前課題内容の検討 第5回 12月1日 ・入学前課題内容の検討 ・入学前課題の提出・添削、正答開示時期・方法 ・今後の進め方の確認 第6回 1月20日 ・基礎学力テスト内容・方法の検討 ・問題作成分担計画の立案 ・入学前交流会への参加について 2. 入学前課題（理系科目）の見直しと作成 プロジェクト活動目的に沿って看護学の学修に向けた必要事項を楽しく学べるよう課題作成を行った。看護学に関連付けたコラムやイラストを多用しカラーでの印刷物とした。本学入学金納付者全員に発送した。 3. 基礎学力テスト問題の作成 入学前課題の内容と同等のテスト問題を作成した。問題の妥当性は豊田高等学校櫛田校長の協力を得て確認したものを最終版として整備した。
次年度の 課題	1. 基礎学力テスト結果のフィードバック 2. 基礎学力テスト結果に基づく入学前課題およびテスト問題の検討 3. 本学入学前教育と初年次教育の連携に関する検討

以上

(10) 学修ポートフォリオプロジェクト

活動目的	学生が自ら学修成果の達成状況を整理・点検するとともに、教員や大学が教育の成果を評価するため、学修ポートフォリオを作成する。
構成員	リーダー：長谷川喜代美 委員：小林尚司、岡田摩理、原田真澄、平野二郎 事務局：学務課
プロジェクト 開催回数	4回
活動概要	第1回 会議 令和4年9月26日 学修ポートフォリオ作成の目的及び活用の方性の検討 学修ポートフォリオ作成における検討課題の確認 第2回 会議 令和5年2月3日 学修ポートフォリオのシステム設計及び作成スケジュールについて、業者と打合せ 第3回 会議 令和5年2月15日 学修ポートフォリオの項目の検討 第4回 会議 令和5年3月6日 学修ポートフォリオの項目の検討
次年度の 課題	令和6年度からの学修ポートフォリオ活用に向けて、作成作業を進める。

5) アドミッションオフィス

活動目的	1) 多面的・総合的な入学者選抜方法の検討に関すること 2) 入学者の追跡調査等による選抜方法の妥当性の検証に関すること 3) 日本赤十字学園内における入学者選抜に係る連携に関すること 4) その他入試改革に関し必要な事項に関すること
構成員	委員長：鎌倉やよい 委員：山田聡子、百瀬由美子、森田一三、中島佳緒里、山田誠、ロベル智子、中島伸一 事務局：企画・地域交流課
開催回数	3回
活動概要	以下の事項を審議した。 第1回 6看護大学連携併願制度について 第2回 入学前成績と国家試験成績の関係について 第3回 高等学校学習指導要領改訂にかかる入試科目について 英語の外部検定試験にかかる配点について 合格基準の見直し（英語）について
課題	6看護大学による連携併願制度について、他大学と協働して実施する。

6) 外部資金獲得状況

(1) 2022 年度私立大学等改革総合支援事業

タイプ3:「地域社会への貢献（プラットフォーム型）」について採択された。

(2) 日本赤十字豊田看護大学 私立大学等経常費補助金獲得状況

(単位: 千円)

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
計	120,177	124,745	117,296	123,455	116,455

(3) 科学研究費等競争的外部研究資金獲得状況

(単位: 千円)

No.	研究者名	種類	研究題名	事業年度	当年度補助金額
1	中 島 佳緒里	基盤研究 (C)	身体接触技術における情動評価尺度の開発と臨床応用	2017 ~ 2022	—
2	東 野 督 子	基盤研究 (C)	在宅で療養が必要な要介護高齢者に実施する効果的な口腔ケア教育プログラムの開発	2017 ~ 2022	—
3	石 黒 千映子	基盤研究 (C)	糖尿病とがんの multimorbidity 患者のニーズと外来看護支援モデルの構築	2018 ~ 2022	—
4	千 葉 朝 子	基盤研究 (C)	母乳育児継続支援を目指した母乳育児中の母親の comfort 測定尺度の開発	2018 ~ 2022	—
5	野 口 眞 弓	基盤研究 (C)	マタニティ・ヨガの産後うつへの低減効果とその最適化に関する研究	2018 ~ 2022	—
6	初 田 真 人	基盤研究 (C)	精神科訪問看護における利用者のエンパワメントに影響を与える訪問看護師の支援	2018 ~ 2022	520
7	清 水 美代子	基盤研究 (C)	労働者のワーク・ファミリー・コンフリクト、職場環境と健康関連 QOL との関連	2018 ~ 2022	—
8	長 田 智恵子	基盤研究 (C)	母乳育児支援専門のアドバンス助産師育成のための習熟度が判断できる搾乳モデルの開発	2019 ~ 2022	260
9	巻 野 雄 介	基盤研究 (C)	新たにエコーを導入した基礎看護技術演習の学習効果	2020 ~ 2023	260
10	岡 田 摩 理	基盤研究 (C)	障害児と家族全体の生活を支える訪問看護の調整機能を活かすアセスメントガイドの開発	2020 ~ 2023	1,170
11	森 田 一 三	基盤研究 (C)	ディープラーニングを応用した口腔画像識別技術の解明	2021 ~ 2024	780
12	野 口 眞 弓	基盤研究 (C)	育児をする父母のソーシャル・キャピタルを醸成するアクション・リサーチ	2021 ~ 2024	390
13	百 瀬 由美子	基盤研究 (C)	認知症対応型グループホームを拠点とした災害時要援護者防災・減災対策モデルの構築	2021 ~ 2023	1,170
14	石 黒 千映子	基盤研究 (C)	婦人科がんサバイバーの Transition を促進する心理教育プログラムの構築	2022 ~ 2025	2,080
15	巻 野 雄 介	若手研究 (B)	わが国の末梢静脈穿刺におけるウェアラブル静脈透過デバイスの有用性	2017 ~ 2022	—
16	河 村 諒	若手研究 (B)	広域避難した高齢被災者に対する継続支援の実態と生活再建支援モデルの構築	2017 ~ 2022	—
17	南 谷 志 野	若手研究	協働意識醸成を目指した短時間勤務制度運用プログラムの開発と有用性の検証	2020 ~ 2023	1,300
18	棚 川 綾 子	若手研究	糖尿病足病変患者の入院時における看護実践モデル構築に向けた基盤研究	2020 ~ 2022	390
19	藤 井 愛 海	若手研究	災害時要配慮者を中核とするインクルーシブデザインによる地域減災モデルの構築	2020 ~ 2022	—
20	近 藤 絵 美	若手研究	急性期病棟における高齢者と看護師の「応答性」の観点からみたケアプロセスの解明	2022 ~ 2024	390
合 計					8,710

(4) 学校法人日本赤十字学園関連の研究資金獲得状況

(単位:千円)

	研究者名	種類	研究課題名	事業年度	当年度 補助金額
1	小 林 洋 子	学校法人日本赤十字学園 赤十字と看護・ 介護に関する研究助成	地域住民の主体性を基盤にした健康な暮らしを維持する 地域防災支援システム構築の課題をめざす実践研究	2022	860
2	下 間 正 隆	学校法人日本赤十字学園 赤十字と看護・ 介護に関する研究助成	新型コロナの時代の「イラストで良くわかる高齢者介護 施設のための感染対策マニュアル&動画」の作成と介護 施設現場の感染対策力の底上げシステムの構築	2021- 2022	1,300
3	飯 田 大 輔	学校法人日本赤十字学園 教育・研究及び 奨学費基金に係る研究支援事業	場面緘黙を抱える成人当事者と家族に有効なサポートの 検討	2021- 2022	—
4	近 藤 香 苗	学校法人日本赤十字学園 教育・研究及び 奨学費基金に係る研究支援事業	看護学実習における看護学生に求める主体性尺度の開発 に関する研究	2021- 2022	—

6. 学部運営

2022 年度もコロナ禍における教育活動の 1 年となった。昨年度までの経験等を踏まえて、対面授業を基本とし、看護学教育および看護専門職養成を担う赤十字看護大学として、感染拡大防止に努めながらより効果的な教育活動を模索し実践した。

1) 今年度の取り組み

(1) 学修成果の評価に向けたディプロマポリシーの整理とカリキュラムマップの改編

看護学部新教育課程開始後 3 年目となった。学修成果の評価に向けてディプロマポリシー (DP) の要素を確認し、「尊厳と権利を擁護する力」「生命・生活を支える力」「人間を理解する力」「問題を解決する力」「看護を実践する力」「多職種と協働する力」「自ら学び続ける力」「グローバルに視る力」「災害時のニーズを理解する力」に整理した。さらに、これら DP の要素と各科目との関連も整理し、カリキュラムマップを改編した。次年度以降は、各 DP 別関連科目の GPA の算出により学修成果を客観的に評価する計画である。

(2) ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業

文部科学省の「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に応募し採択された。①ポータブル超音波診断装置を用いた臨床推論力育成、②ハイブリッドシミュレーターによる状況判断力と臨床実践力の育成、③タブレット端末等を用いた WEB 会議システムによる多地点統合型実習指導に取り組んだ。事業成果の取りまとめを進めているところである。

(3) e-ポートフォリオの構築

効果的な学修支援を目指し、本学学務システムに e-ポートフォリオシステムを搭載すべくプロジェクトチームを立ち上げて取り組みを進めている。2022 年度は e-ポートフォリオの目的と内容の検討を進め、関係業者とのミーティングを重ねた。

(4) 高大連携推進事業

入学前から入学後の初年次教育そして看護学教育へのシームレスに学修できるよう、プロジェクトチームを立ち上げて取り組みを進めている。2022 年度は理数系科目に関する入学前課題の見直しと入学時の基礎学力テストの刷新に取り組んだ。

2) 課題

上記 (1) ～ (4) の取り組みについて成果評価を進めることが課題である。さらに、学部新教育課程 4 年目を迎える 2023 年度は、新教育課程の効果を見極めることが最重要課題となる。アセスメントポリシーに沿って順次データ収集を進めて評価を行う計画である。

3) 学部委員会組織および委員一覧

委員会名		メンバー
教授会		◎学部長、事務局長、大西特任教授、小林（尚）教授、小林（洋）特任教授、下間特任教授、野口教授、長谷川教授、東野教授、松浦教授、森特任教授、森田教授、百瀬特任教授、岡田教授、中島准教授、原田准教授、ロベル参事（オブザーバー）、学長（オブザーバー）
教員会議		◎学部長、下間特任教授、森田教授、森特任教授、山田教授、松浦教授、東野教授、小林（洋）特任教授、小林（尚）教授、百瀬特任教授、野口教授、大西特任教授、岡田教授、長谷川教授、中島准教授、荻野准教授、南谷准教授、石黒准教授、清水（み）准教授、長田准教授、神道准教授、原田准教授、清水（美）准教授、鈴木講師、竹内講師、棚川講師、長尾講師、藤井講師、橋本講師、松田講師、深谷講師、千葉講師、初田講師、高見助教、近藤（絵）助教、西久保助教、田口助教、河村助教、谷口助教、近藤（香）助教、臼井助教、遠藤助教、飯田助教、山本助教、廣田助教、高下助手、福岡助手、石田助手、石原助手、草深助手、鳥居助手、学長（オブザーバー）
教務委員会	（教務委員会）	◎小林（尚）教授、東野教授、岡田教授、長谷川教授、百瀬特任教授、原田准教授、中島准教授、ロベル参事、学務課長
	実習検討委員会	◎東野教授、清水（み）准教授、南谷准教授、神道准教授、千葉講師、棚川講師、竹内講師、深谷講師、初田講師、廣田助教、学務課長
学生委員会	（学生委員会）	◎松浦教授、岡田教授、石黒准教授、清水（美）准教授、鈴木講師、橋本講師、近藤（香）助教、長尾講師、深谷講師、遠藤助教、ロベル参事、学務課長
	国試対策委員会	◎石黒准教授、大西特任教授、長田准教授、清水（美）准教授、臼井助教、西久保助教、学務課長
研究推進・紀要委員会		◎野口教授、大西特任教授、石黒准教授、長田准教授、学務課長、経理課
入試・広報委員会		◎中島准教授、森田教授、南谷准教授、鈴木講師、清水（美）准教授、神道准教授、松田講師、橋本講師、棚川講師、企画・地域交流課長、アドミッションオフィサー、事務局長（オブザーバー）、ロベル参事
国際交流委員会		◎森特任教授、百瀬特任教授、長田准教授、鈴木講師、近藤（絵）助教、ロベル参事、総務課長、村瀬司書

4) 教授会

活動目的	教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。 1) 学生の入学、再入学、及び復学に関すること 2) 卒業認定及び学位の授与に関すること 前項各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものは、次のとおりとする。 (1) 教育課程の編成に関すること (2) 学生の履修に関すること (3) 学生の休学、退学、除籍、その他学籍の変更にに関すること (4) 学生の厚生補導及び賞罰に関すること (5) 人事委員会の要請に基づく教員人事に関すること (6) 図書館の運営に関すること (7) 本学の国際交流に関すること (8) 本学が定める諸規程の規定により教授会での審議等を定めているもの (9) 学則の改正（本学の経営に関するものを除く）に関すること (10) 教育又は研究に関する重要事項に関すること (11) その他学長が必要と認める事項
構成員	委員長：山田聡子学部長 委員：百瀬由美子、下間正隆、山田誠、森久子、森田一三、松浦正子、野口眞弓、東野督子、小林尚司、大西文子、岡田摩理、長谷川喜代美、小林洋子 オブザーバー：鎌倉やよい、ロベル智子 その他構成員：中島佳緒里、原田真澄 事務局：総務課 谷川歩
委員会 開催回数	17回
活動概要	第1回 既修得単位の認定について 遠隔授業用端末貸出要綱について 第2回 教員の公募について 非常勤講師の委嘱について 既修得単位の認定について 遠隔授業用端末貸出要項（案）について オープンキャンパスの実施案について 第3回 教員選考委員会構成について 既修得単位の認定に関する規程の改定について 第4回 人事について B 特待生選考結果について 日本学生支援機構貸与奨学生の適格認定にかかる学内基準について 日本学生支援機構貸与奨学金申請手続きについて 第5回 人事について 第6回 人事について 第7回 令和4年度保健師教育課程選抜試験結果について 人事について 第8回 令和4年度前期成績について 学籍異動（復学）について 出願資格審査結果について 第9回 人事について 令和5年度からの「統合実習」「技術特別演習」について 第10回 令和5年度日本赤十字豊田看護大学 高等学校長推薦選抜・赤十字特別推薦選抜・社会人特別選抜入学試験結果について 人事について 令和5年度卒業研究の配置方法について 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度の改訂への対応について 障がい学生支援制度の整備について 第11回 人事について 令和5年度学部委員会委員について カリキュラムマップの改編について 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度の改訂への対応について 令和5年度卒業研究配置方法について

活動概要	第12回	人事について 令和5年度学部委員会委員について
	第13回	令和5年度大学独自選抜入学試験結果について
	第14回	令和5年度大学入学共通テスト利用選抜（前期A・B）結果について
	第15回	令和5年度大学入学共通テスト利用選抜（中期）について 令和4年度4年生後期成績認定および卒業判定について 学籍異動（復学）について 障がいのある学生に対する支援（入学前）聞き取り票について
	第16回	令和5年度 大学入学共通テスト利用選抜（後期）結果について
	第17回	令和4年度後期成績について（1、2、3年生） 学籍異動（復学）について

5) 学部委員会の活動報告

(1) 教務委員会

活動目的	1) 教育課程に関する事項 2) 試験及び単位認定に関する事項 3) 復学及び除籍に関する事項 4) 特別教育計画（行事等）に関する事項 5) 実習に関する事項 6) 非常勤講師等に関する事項 7) その他教育運営に関して必要な事項
構成員	委員長：小林尚司 委 員：百瀬由美子、長谷川喜代美、東野督子、岡田摩理、中島佳緒理、原田真澄、ロベル智子、平野二郎 事務局：学務課 芝口太一、松原なつほ
委員会開催回数	2022年度は25回（この内、文書による審議4回、メールによる審議7回）開催した。
活動概要	1) 教育課程に関する事項 (1) 卒業研究・初年次教育の実施支援 卒業研究：教員アンケート内容の見直しおよび担当教員と学生のマッチングのための希望調査方法の変更を行い、次年度の授業開始に向けたオリエンテーションを開催した。看護プロフェッショナルセミナー：計画・運営する教員ワーキンググループを編成し、授業の実施を支援した。 (2) 保健師教育課程専攻の選抜 選抜のための面接試験を9月20日に実施し、22名を選抜した。 (3) 授業評価 半期ごとに、学生による授業評価を実施し、結果を教員の自己評価と共に学内掲示板で1か月間開示した。 (4) 時間割 次年度の授業の日程を時間割で表記することとし、教員との開講日程を調整するとともに、学生が学内ポータルシステムで確実にスケジュールを把握できるようにシステム改修を行った。 (5) 看護師教育の技術到達度 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（厚労省）の改訂を受け、本学の状況に照らして項目および評価基準、評価方法を検討し、2年生から適用を開始した。 2) 試験及び単位認定に関する事項 試験日程および試験監督の調整を行った。科目担当教員から提出された評価に基づき、成績および単位認定を審議した。 3) 復学及び除籍に関する事項 退学（2名）・復学（6名）および休学（8名）について、提出書類を基に審議・確認した。 4) 特別教育計画（行事等）に関する事項 令和5年度入学予定者を対象に、授業見学（1月17日～2月16日）と交流会（2月16日）を開催した。授業見学参加者は合計9名であった。交流会参加者は13名であった。高大連携推進プロジェクトチームが中心となって、入学前学習課題を作成し送付した。 5) 実習に関する事項 実習計画作成のため、学籍異動・単位修得状況を実習検討委員会と共有した。補習実習について、提出書類を基に、欠席日、欠席理由、補習実習計画を確認した。 6) 非常勤講師等に関する事項 非常勤講師の依頼（5件）と、科目内時間講師・学外協力講師（21件）の審査を行った。 7) その他教育運営に関して必要な事項 教育改善学生委員会から出された、出席管理方法と卒業研究領域配置に関する意見について、対応を検討しフィードバックを行った。 配信教材の契約タイトルについて、希望調査を行い決定した。 愛知学長懇話会の単位互換制度の実施に向け、開放科目を決定した。 在学生オリエンテーションを計画・実施した。
次年度の課題	1) 卒業研究の領域配置方法について評価する。 2) 授業・行事・試験スケジュールの学生への周知方法について、評価・改善をはかる。 3) 内部質保証に活用するデータの収集方法について改善をはかる。 4) GPAの活用および下年次の科目の履修について規程類の見直しを行う。

(2) 実習検討委員会

活動目的	1) 看護学実習の運営に関する事項 (1) 年間の実習計画と調整 (2) 実習要項検討 2) 関連教育施設等との看護学実習に関する連絡調整に関する事項 3) その他看護学実習に関する事項
構成員	委員長：東野督子 委 員：清水みどり、南谷志野、神道那実、千葉朝子、棚川綾子、竹内貴子、深谷由美、初田真人、廣田直美、平野二郎 事務局：学務課 松原なつほ
委員会 開催回数	12 回
活動概要	1) 看護学実習の運営に関する事項 (1) 16 回生の臨地看護学実習計画表（2021 年度後期～ 2022 年度前期）は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて各領域で期間や施設の変更を取りまとめた。 (2) 臨地実習開始前の学生へのオリエンテーションにおいて、感染予防対策およびワクチン接種に関する実習施設の受け入れ状況の説明を行った。 (3) 臨地実習を行う学生に対して、「予防接種確認表」は常に携帯するよう指導した。 (4) 17 回生の臨地看護学実習計画表（2022 年度後期～ 2023 年度前期）は、学生数や学生の新型コロナウイルス感染症のワクチン接種状況、実習施設の実習生受け入れ基準を考慮してグループ編成を行った。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって随時変更した。 (5) 18 回生～ 21 回生の臨地看護学実習計画表について、学生数を考慮し案を作成した。 (6) 2023 年度の統合実習に向けて、学生の希望調査の実施と配置案を作成した。 (7) 2022 年度～ 2023 年度実習要項を見直し、作成した。 2) 関連教育施設等との看護学実習に関する連絡調整に関する事項 (1) 臨地実習において、新型コロナウイルス感染予防の観点より、各実習施設と綿密な調整・確認・修正を行った。 (2) 健康観察記録の修正を行った。「令和 5 年度（2023 年）【感染対策チェックリスト（臨地実習を行う学生用）】」「令和 5 年度（2023 年）【臨地実習を行う学生への感染対策に関する指導】」 3) その他看護学実習に関する事項 (1) 看護師教育における卒業時の技術到達度自己評価、および保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度自己評価について報告した。 (2) 「看護師教育における卒業時の技術到達自己評価について（改正案）」に沿った内容の変更を確認した。 (3) 16 回生領域別統合実習の総括を取りまとめた。 (4) 次年度学生に配布する実習関連物品の選定と配布時期の検討を行った。 (5) 学生の新型コロナウイルスワクチン接種に関する情報を共有した。 (6) 事故・ひやりはっと報告は 31 件（事故 6 件、ひやりはっと 25 件）であった。
次年度の 課題	1) 18 回生の臨地看護学実習計画（2023 年度後期～ 2024 年度前期）および学生人数表の策定 2) 新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴う各実習施設の実習生受け入れ要件の確認と要件に応じた、学生のワクチン接種状況の把握と実習配置を検討 3) 学生に配布する感染対策物品、感染対策冊子の検討 4) その他

(3) 学生委員会

活動目的	1) 学生の福利厚生に関する事項 2) 学生の健康管理に関する事項 3) 学生の課外活動に関する事項 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 6) 奨学金に関する事項 7) 国家試験対策に関する事項 8) その他学生の福利厚生等に関して必要な事項
構成員	委員長：松浦正子 委 員：岡田摩理、石黒千映子、清水美代子、鈴木寿摩、長尾佳世子、橋本亜弓、深谷由美、近藤香苗、遠藤幸子、ロベル智子、平野二郎 事務局：学務課 鳥居真代
委員会開催回数	11 回
活動概要	1) 学生の福利厚生に関する事項 (1) 学生相談 毎週月、木曜日 午前 11 時 30 分～午後 1 時、午後 2 時～午後 6 時で実施した。 対面だけでなく、オンラインでの相談も行った。 春季休暇（3 月）1 か月は閉室とした。 (2) 障がい学生支援 障がい学生支援規程を見直し、各種様式を整えた。 次年度の在学生・新入生オリエンテーションで配布するリーフレットを作成した。 (3) 消費者教育 成人年齢の引き下げに伴い、全学生を対象に消費者教育 DVD の視聴を行い、延べ 425 名程度が参加した。 2) 学生の健康管理に関する事項 (1) 定期健康診断 2022 年 4 月 13 日（水）、4 月 14 日（木）に実施した。 (2) 小児感染症・B 型肝炎・インフルエンザ予防接種 予防接種スケジュールに沿って接種を行った。 (3) 予防接種説明会の実施 2022 年 6 月 6 日（月）に 1 年生を対象とした予防接種に関する講義、感染抗体結果確認、予防接種確認表記入および予防接種の進め方の説明会を実施した。 3) 学生の課外活動に関する事項 (1) 自治会支援 総会の開催や選挙の実施等、自治会の規約に則って活動できるよう支援した。 (2) いとすぎ祭支援 2022 年 5 月 27 日（金）に開催されたいとすぎ祭の企画・運営を支援した。 (3) 六大学交流会支援 2022 年 9 月 5 日（月）に本学を幹事校として開催された六大学交流会の企画・運営を支援した。 (4) クラブ・サークル活動支援 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりサークル活動をオンラインのみとしていたが、対面での活動再開時の手続きを整えた。 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 (1) 学生表彰 2022 年度の表彰者は、個人 7 名および 1 団体とした。 4 年生は学位記授与式、1 ～ 3 年生は在学生オリエンテーションで表彰を行った。 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 (1) 学生の進路 2022 年度卒業生（133 名）の進路状況は以下のとおりであった。 就職（看護師）125 名 就職（保健師）2 名 進学 4 名 その他 2 名 (2) 就職ガイダンスの実施 2 年生から 4 年生を対象に対面で 4 回実施した。 6) 奨学金に関する事項 (1) 奨学金説明会 2022 年 4 月 19 日（火）に奨学金説明会を実施した。 併せて病院紹介パンフレット配布、病院紹介 DVD 視聴を行った。 (2) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金の申請手続き 貸与奨学金の申請手続きを見直し、学生に計画的な利用を促すことを目的として、チューターによる面接の手順を追加した。 (3) 特待生規程 看護学部特待生規程の見直しを行い、選考手続きおよび様式を整えた。

活動概要	7) 国家試験対策に関する事項 国家試験対策委員会参照 8) その他学生の福利厚生等に関して必要な事項 (1) 愛知県赤十字大会への参加支援 2022年11月2日に開催された愛知県赤十字大会に本学の2年生が運営補助および歌唱で参加する支援を行った。
次年度の課題	1) 奨学金の適切な貸与に関する支援を推進する。 2) 障がい学生支援規程を見直したことに伴い支援を推進する。 3) クラブ・サークル再開に伴い支援を推進する。

(4) 国家試験対策委員会

活動目的	1) 国家試験対策に関する事項 2) 学生の個別指導の調整に関する事項 3) 国家試験受験手続に関する事項 4) その他国家試験に関して必要な事項
構成員	委員長：石黒千映子 委員：大西文子、長田知恵子、清水美代子、臼井かおり、西久保ひろみ、平野二郎 事務局：学務課 賀茂綾子
委員会開催回数	11回
活動概要	1) 国家試験対策に関する事項 (1) 国家試験模擬試験（4年生対象）：看護師国家試験の模擬試験は7回、保健師国家試験の模擬試験は3回、実施した。未受験者と自宅受験者が多く、全員・個別に学内受験を度々促した。 (2) 試験対策補講（4年生対象）：教員による国家試験対策補講は8セメスターから実施した。 2023年2月3日（金）10：00～16：00に、直前オンライン講座を受講できるようにした。 (3) 受験後の自己採点（4年生対象）：昨年度と同様、感染対策・事務処理の効率のためWebを用いた。 (4) 国家試験過去問題および模擬試験（2、3年生対象） ①国家試験ガイダンス（3年生対象）：2023年1月24日（火）15：30～17：00、看護師及び保健師国家試験ガイダンスを実施した。 ②低学年対象模擬試験（3年生対象）：2023年2月24日（金）9：00～12：00学年対象模擬試験後、13：00～15：30に模擬試験の解説動画を視聴した。 ③第112回看護師国家試験過の実施（2、3年生対象） 2023年3月30日（木）、3年生：全問、9：00～16：00、2年生：必須問題を10：40～12：00に実施した。 ④卒業生講話（2、3年生対象） 2023年3月31日（金）13：00～14：20に、卒業生（4名）による試験対策の講話会を開催した。 2) 学生の個別指導の調整に関する事項 (1) 国家試験対策用質問ボックスの開設：学生の要望よりFormsによる学習支援「国家試験対策用質問ボックス」を開設し、オンラインでも学生の質問に答えられるようにした。 (2) 模擬試験成績不振者への対応 複数回、試験勉強への動機付けを含む学習支援をチューター教員全員に依頼した。 国家試験対策委員会から、補講への参加や学内での自己学習を促した。 (3) 国家試験直前の支援強化：2023年1月24日（火）～2月10日（金）、成績不振が続いている学生を中心に、学内もしくはZoomによる学習支援を行った。 (4) 既卒生への支援：昨年度の看護師国家試験の不合格者への支援は、チューターに依頼した。 3) 国家試験受験手続に関する事項：例年と同様に、看護師国家試験、保健師国家試験の受験手続きのとりまとめ等を実施した。国家試験の別室受験希望者に対し、申請手続きを説明した。コロナ禍の為、受験票の配布は原則対面（郵送希望者は郵送）とし、感染防止対策に留意した受験を説明した。 4) その他国家試験に関して必要な事項：国家試験壮行会は、感染対策の観点から、学生および教職員の応援メッセージの動画配信にて執り行った。
次年度の課題	1) 新卒者の看護師・保健師国家試験の100%合格 2) 早期からの国家試験対策への支援 3) 国家試験対策の学習環境支援 4) 模擬試験手続き等の業務の適正化

(5) 研究推進・紀要委員会

活動目的	1) 教育研究活動の推進に関する事項 2) 教育研究費の予算配分に関する事項 3) 教育研究費の決算審査に関する事項 4) 紀要の発行に関する事項 5) その他、紀要に関して必要な事項
構成員	委員長：野口眞弓 委 員：大西文子、石黒千映子、長田知恵子、平野二郎、安井康介 事務局：学務課 賀茂綾子
委員会 開催回数	8 回
活動概要	1) 教育研究活動の推進に関する事項 2022 年 8 月 9 日（火）9：00～10：15 まで、主に若手教員を対象として「研究背景、目的の書き方」と「研究手法の書き方」のワークショップを行った。それぞれの題材は、「研究背景、目的の書き方」が草深真菜先生、「研究手法の書き方」が石黒千映子先生のものを用いた。これらの題材をもとに意見交換をし、その後質疑に応答した。ワークショップには、教授 1 名、准教授 1 名、講師 3 名、助教 5 名、助手 5 名の 15 名が参加した。本研修は、FD・SD 委員会との共催であった。 2) 教育研究費の予算配分に関する事項 科学研究費の採択状況から、間接経費の予算を確認した。 3) 教育研究費の決算審査に関する事項 間接経費の使途について、質的研究や混合研究法に用いるソフトウェア購入についてアンケートを実施し、大学院の情報処理室に NVivo を整備した。また、量的研究で使用する SPSS とそのオプションが可能な限り最新版が使用できることを確認した。 4) 紀要の発行に関する事項 (1) 紀要の特集 2022 年度の特集は「デジタルトランスフォーメーション（DX）による学習方法の実践」とし、基礎看護学領域、成人看護学領域、老年、精神、在宅看護学領域に執筆依頼をし、本学における DX による学習方法の具体的な教育内容を掲載した。 (2) 投稿論文 2022 年度は総論 1 編を掲載した。 (3) 編集委員会 編集委員会を 4 回開催した。
次年度の 課題	1) 教育研究活動の推進と競争的資金（科学研究費）の間接経費の使途 研究活動を推進するよう教育活動をするとともに、研究活動を推進する環境を整備するために競争的資金（科学研究費）の間接経費の使途について検討する。 2) 紀要の発行 日本赤十字豊田看護大学紀要 19 巻を発行する。次年度の特集は、DX による学習効果とする。

(6) 入試・広報委員会

活動目的	1) 学生募集及び入学試験の広報に関する事項 2) 学力検査の試験科目及びその実施に関する事項 3) 出題、採点及び合否判定の基準等に関する事項 4) 面接及び健康診断等の方法に関する事項 5) 合否判定資料の作成に関する事項 6) その他入学試験に関して必要な事項 7) 広報誌等の発行に関する事項 8) ホームページに関する事項 9) その他広報に関して必要な事項
構成員	委員長：中島佳緒里 委員：森田一三、南谷志野、神道那実、清水美代子、鈴木寿摩、棚川綾子、松田優子、橋本亜弓、ロベル智子、中島伸一 事務局：企画・地域交流課 中根春波、奥映理菜 オブザーバー：山田誠
委員会開催回数	18 回
活動概要	1) 学生募集及び入学試験の広報に関する事項 (1) 進学説明会 愛知県外（静岡県・大阪府）含め計 9 回の進学説明会に参加した。 (2) オープンキャンパス 感染症拡大防止の観点から人数制限を設けたオープンキャンパスを 2 日間（午前・午後 / 日）開催した。高校生・既卒者 407 名が参加した。 オープンキャンパス mini を 1 日（午前・午後）開催し、高校生 23 名が参加した。 (3) 施設見学 随時個別の施設見学を受け付け、高校生合計 6 名の来校があった。 (4) WEB オープンキャンパス 各領域の紹介や入試等についての動画をホームページ上で公開した。 (5) 進学情報交換会 高校教員を対象とした進学情報交換会をオンライン開催し、11 校の参加があった（県外より 6 校参加）。 (6) 高校訪問 5 月に 53 校、6～7 月に 81 校、9 月に 21 校に高校訪問を行い、進路指導教諭に大学案内や入試過去問題集、入試情報等を提供した。 (7) 推薦選抜対策 Zoom 受験相談会として、推薦選抜試験の受験生を対象としたオンライン相談会を計 3 回開催し、高校生 20 名が参加した。 中部ブロック県支部課長会議にて、授業紹介動画の配信や Zoom 受験相談など受験生の確保のために大学が協力できることを提案した。授業紹介動画は 1 件の要望があった。 (8) 独自選抜対策 12 月に学習管理アプリを使用した広告及び進学情報サイトでのリターゲティング広告を実施した。 2) 学力検査の試験科目及びその実施に関する事項 英語の 4 技能を評価するために、外部検定の利用について検討した。 3) 出題、採点及び合否判定の基準等に関する事項 アドミッションポリシーに基づき問題作成要領の見直しと修正を行った。 順位付けの原則について審議し、決定した。 4) 面接の方法に関する事項 昨年と同様の方法で面接を行った。 5) 合否判定資料の作成に関する事項 過去の歩留まりや倍率を参考とし、合否判定資料を作成した。 6) その他入学試験に関して必要な事項 新型コロナウイルス感染症にかかる受験機会確保のため、以下の追試日程を設けた。 推薦選抜・社会人特別選抜：12 月 10 日（出願者 0 名） 大学独自選抜：大学入学共通テスト利用選抜中期（出願者 2 名） 障がいのある学生に対する支援規程の見直しをおこない、入学前の支援に関する聴取項目（第 4 条 2 項）を整えた。 7) 広報誌等の発行に関する事項 広報紙『いとすぎの丘』を年 2 回（5 月・11 月）に計 7200 部発行した。 8) ホームページに関する事項 大学行事や授業等も記事として掲載し、更新頻度を高めた。 9) その他広報に関して必要な事項 (1) 公開授業の実施 公開授業を 3 つの高校で実施した。テーマは「看護師としてのキャリア」とし、看護管理領域の教員が担当した。

活動概要	(2) スーパーサイエンス校（SSH）発表会への参加 豊田市内の SSH 発表会に教員 2 名が参加し、卒業研究や看護研究を紹介した。 (3) 献血ルームゲートタワー 26 への展示 献血ルームゲートタワー 26 の展示スペースに、学生のサークル活動（7 月）と赤十字史料室の資料（12 月）の展示を行った。 (4) ソーシャルネットワークによる広報 SNS（Twitter、LINE、Instagram）による情報発信を実施し、卒業生インタビューをシリーズ化して掲載した。
次年度の課題	1) 志願者の確保 優秀な受験生を確保するため、豊田市を中心とした近隣の高校への公開授業、SSH 発表会への参加をすすめる。さらに、中部各県支部と受験に関する情報共有を行い、進学説明会への共同参加、各県支部が行う高校生を対象としたイベントへの大学参加を検討する。 2) 入試改革に対する対応 文部科学省・大学入試センターからの通知をもとに 2024 年度入試について検討する。

(7) 国際交流委員会

活動目的	日本赤十字豊田看護大学 国際交流委員会規程第 2 条に定める以下の事項を審議する。 1) 教員の国際学術交流に関する事項 2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 4) その他学長が必要と認める事項
構成員	委員長：森久子 委員：百瀬由美子、長田知恵子、鈴木寿摩、近藤絵美、ロベル智子、恒川美智子、村瀬悠香代 事務局：総務課 寺本庄吾
委員会開催回数	8 回
活動概要	1) 教員の国際学術交流に関する事項 タイ赤十字看護大学（STIN: Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing）との共同研究を希望する教員を募集し、3 件のプロジェクトを STIN に提示した。双方の教員をマッチングし、共同研究が開始された。 2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 本学から STIN に学生を派遣する計画をしていたが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け実施できなかった。 3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 STIN とは対面での交流の代わりとして、2020 年度よりオンラインによる交流を実施している。 今年度は 2022 年 11 月 11 日（金）に実施し、本学からは計 14 名、STIN からは約 80 名と多くの学生が参加した。事前に準備したパワーポイントを使って互いの国の文化や挨拶等について英語で発表し合い、和気藹々とした雰囲気で行った。参加した学生へのアンケートでも回答者全員が「満足」「ほぼ満足」と答えており、満足度が高かった。 英国語学研修を今年度も計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け実施できなかった。 4) その他学長が必要と認める事項 該当事項なし。
次年度の課題	1) 教員の国際学術交流に関する事項 プロジェクトについて、今後も継続的にフォローを実施する。 2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 STIN からの学生受入を引き続き継続し、より良い活動になるように検討する。 3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 次年度も英国での実施が難しいことが判明したため、次年度は英国に限らず海外語学研修として新たな交流先を検討していく。 STIN とのオンラインによる交流の機会を増やすとともに、より多くの学生が参加できるよう開催時期や募集方法等を検討する。 学生及び教職員が国際交流活動に触れる機会を提供できるよう、他の国際関連施設との交流の可能性を探る。

7. 研究科運営

1) 今年度の取り組み

(1) 履修証明プログラムの履修期間短縮の決定

修士課程科目を活用した履修証明プログラムとして、文部科学省にBP（Brush up program for professional）として認定を受け、2020年度から「看護研究プログラム」「看護教育プログラム」を開講し、各60時間以上のプログラムを開講している。今年度から本学の強みを生かし、医療機関の看護職者のみならず、地域で活躍する看護職者が地域の防災・減災および発災時の看護活動に貢献できるよう在宅看護等に従事する人々のニーズにも応えるために、新たに「災害看護実践プログラム」を開講した。全プログラムの累積入学生数は6名、累積修了生数は今年度1名を含め3名となった。

今年度は、履修期間の変更を行うことを検討し、1年にすることにより厚生労働省の教育訓練給付金（特定一般教育訓練給付）制度の講座指定を受ける要件が満たされ、受講生の経済的負担が軽減できることを考慮し、次年度より1年間に短縮することとした。履修証明プログラム検討会議においても、「教育訓練給付が受けられるようになることでスタッフへも勧めやすくなる」、「期間が2年から1年に短縮されることで、受講しやすくなる」などの肯定的意見が聞かれた。なお、仕事との両立、調整の都合により申請により2年履修も選択できるように制度を整えた。本制度の適用は、変更後の期間での修了生が出てからとなる。

(2) 修士課程における「特別枠」の新設

定員充足対策の一環として、本学学部生を対象として学部卒業後にストレートで修士課程に進学できる入試制度として「特別枠」を新設した。この制度を利用する受験者は、学部の成績評価結果を入学試験に代えることや、成績優秀者には学費の減免等の特典を付与するとともに、看護学を6年間継続して学修する本制度は、科学的根拠に基づく看護実践者の育成につながり、看護学の発展にも寄与するものである。しかしながら、今年度は志願者がなかった。奨学金を受けている学生も多いことが要因として考えられるが、引き続き、広報活動を行っていく必要がある。

(3) 専門看護師養成コース（老年看護学分野）の新設に向けた準備

少子超高齢社会における高齢者の健康課題に対応できる高度実践者の育成に向け、老人看護専門看護師を養成するコースを新設することを決定し、次年度養成課程申請に向けて準備を開始した。

(4) 共同看護学専攻（博士後期）修了者の輩出

かねてより修了者輩出が課題となっていたが、今年度、博士課程設置後初の修了者を出すことができた（9月修了1名、3月修了1名の計2名）。これに伴い、同窓会からの寄付により学位授与式に修了者が着用するアカデミックガウンを購入した。

2) 課題

(1) 修士課程の定員充足について

上述の新入試制度の活用を促進する方法の検討を引き続き行う。また、専門看護師コースの設置に向けて計画的に申請の準備を行い、受験者獲得に向け、赤十字病院並びに近隣の保健・医療・福祉機関等に広報活動を積極的に行うことが課題である。併せて、各教員のネットワークによる優秀な学生の確保に尽力する。

(2) 共同看護学専攻（博士後期課程）におけるアドミッション・ポリシー（AP）の見直し

共同運用をしている秋田、広島が今年度、認証評価を受審し、その結果、入学者に求める能力について、現在のAPでは不十分との指摘を受けたことから、改善に向けた見直しが必要である。加えて、内部質保証の推進に向けた具体的な点検・評価・改善に向けた実施方法の検討も喫緊の課題である。

3) 研究科委員会組織および委員一覧

委員会名	メンバー
大学院研究科委員会	◎研究科長、事務局長、大西特任教授、小林（尚）教授、小林（洋）特任教授、下間特任教授、野口教授、長谷川教授、山田教授、東野教授、松浦教授、森田教授、岡田教授、長田准教授、清水（み）准教授、中島准教授、南谷准教授、原田准教授、清水（美）准教授、巻野准教授、神道准教授、長尾講師、学長（オブザーバー）、参事（オブザーバー）
大学院入試・広報委員会	◎森田教授、岡田教授、南谷准教授、清水（み）准教授、巻野准教授、企画・地域交流課長、アドミッションオフィサー
大学院教務・学生委員会	◎長谷川教授、小林（尚）教授、東野教授、岡田教授、学務課長、参事

4) 研究科委員会

活動目的	1) 学生の入学、再入学、及び復学に関すること 2) 修了認定及び学位の授与に関すること 3) 教育課程の編成に関すること 4) 学生の履修に関すること 5) 学生の休学、退学、除籍、その他学籍の変更にに関すること 6) 学生の厚生補導及び賞罰に関すること 7) 人事委員会の要請に基づく教員人事に関すること 8) 本学が定める諸規程の規定により研究科委員会での審議等を定めているもの 9) 大学院学則の改正（本学の経営に関するものを除く）に関すること 10) 教育又は研究に関する重要事項に関すること 11) その他学長が必要と認める事項
構成員	委員長：百瀬由美子 委員：山田聡子、山田誠、下間正隆、森田一三、松浦正子、東野督子、小林尚司、野口眞弓、大西文子、岡田摩理、長谷川喜代美、小林洋子、中島佳緒里、南谷志野、清水みどり、長田知恵子、原田真澄、清水美代子、巻野雄介、神道那実、長尾佳世子 オブザーバー：鎌倉やよい、ロベル智子 事務局：総務課、学務課
委員会開催回数	2022年度は13回開催した。
活動概要	研究科委員会にて、以下の事項を審議した。 第1回 修士課程 既修得単位の認定について 修士課程 2022年度前期履修登録について 修士課程 授業評価アンケート項目の変更について 修士課程 研究指導担当教員について 第2回 修士課程 特別研究・課題研究の授業評価アンケートの実施方法の変更について 第3回 修士課程 研究計画発表会の参加方法について 修士課程 既修得単位の認定に関する規程の改正について 第4回 履修証明プログラム生の履修証明書の発行時期について 第5回 （臨時）修士課程 2022年度後期 科目等履修生の受け入れについて 博士課程 学籍異動について 専門看護師教育課程のコース新設について 第6回 （臨時）2023年度日本赤十字豊田看護大学看護学研究科看護学専攻（修士課程）第1回入学試験の判定 第7回 修士課程 2022年度後期履修登録について 修士課程 2022年度前期成績認定について 博士課程 学籍の異動について 「看護学研究科修士課程学位審査規程」の改正について 修士課程 次年度行事日程・審査スケジュールの検討について 第8回 履修証明プログラムの履修期間の変更について 博士課程 2022年度9月修了生の学術情報リポジトリ登録延期申請について 第9回 科目・研究担当審査について（教授のみ） 履修証明プログラムの履修期間変更に伴う規程の改正について 第10回 科目・研究担当審査について（教授のみ） 研究計画発表会および論文発表会について 第11回 修士課程 「コンサルテーション論」の科目担当について（教授のみ） 博士課程 2年生の長期履修学生申請について

活動概要	第12回 修士課程 「小児の病態と治療」の科目担当について 2023 年度日本赤十字豊田看護大学看護学研究科共同看護学専攻（博士課程）および 2023 年度日本赤十字豊田看護大学看護学研究科看護学専攻（修士課程）第 2 回入学試験の合否判定について 修士課程 修了にかかる判定について 修士課程 2023 年度前期科目等履修生等の受入について 修士課程 2023 年度時間割および講義スケジュールについて 修士課程 審査委員について
	第13回 2022 年度後期 在学生の成績認定について 職員の退職に伴う研究指導教員の変更について 2023 年度研究生の受入について 2023 年度入学予定者 長期履修学生の申請について 「修士課程学位審査規程」の改正について

5) 大学院委員会の活動報告

(1) 大学院入試・広報委員会

活動目的	1) 学生の確保、学生募集に関する事項 2) 学生募集要項に関する事項 3) 入学者の選抜方法に関する事項 4) 入学試験の実施に関する事項 5) その他入学試験に関する事項
構成員	委員長：森田一三 委員：岡田摩理、南谷志野、清水みどり、荻野雄介、中島伸一 事務局：企画・地域交流課 中根春波、奥映理菜
委員会 開催回数	12 回
活動概要	1) 学生の確保、学生募集に関する事項 (1) 大学院説明会 2022 年 6 月 11 日（土）及び 2022 年 11 月 5 日（土）に、オンラインと対面を併用して開催した。参加者は、6 月は修士課程 10 名、11 月は修士課程 10 名、博士課程 1 名であった。 (2) 大学院説明会の案内の作成と配布 大学院説明会のチラシデザインについて、内容と構成を変更した。 大学院説明会の案内は、国公立大学（43 大学）、私立大学（178 大学）、中部圏の専門学校（86 校）、赤十字病院（77 病院）、県内病院（230 病院）、実習施設（69 施設）に送付した。 (3) 広報戦略に関する検討 ①大学院生（修士課程）18 名を対象にアンケート調査を行い、11 名から回答を得た。その結果、情報源として受験に際し大学院説明会チラシを見た人が多かったことからチラシ配布を継続とした。 ②卒業生宛での広報として、卒後 5 年目以降の学年を対象に SMS を利用して行うこととした。 ③学部生への学内進学の説明を新入生及び在学生に向けて行う機会の確保を行った。 ④大学の領域 HP から SNS 等の情報発信媒体へのリンクの設置について、情報管理・図書委員会へ適切な掲載方法の検討を依頼した。 ⑤専門職向け研修会のアンケートにおいて、回答送信後のページに本学 HP 大学院サイト URL を記載した。 ⑥大学院等の情報提供を行うために、専門職向け研修会等の参加申込者の個人情報の収集を行った。 2) 学生募集要項に関する事項 今年度より、冊子体での配布を中止し、ホームページから必要書類をダウンロードする方法に変更した。 3) 入学者の選抜方法に関する事項 2018 年度に試験問題作成要領・面接実施要領を作成し、継続して活用した。 4) 入学試験の実施に関する事項 2022 年 9 月 3 日（土）及び 2023 年 2 月 18 日（土）の 2 回実施した。受験者は 5 名（修士課程 4 名、博士課程 1 名）であった。 5) その他入学試験に関する事項 特になし
次年度の 課題	1) 大学院説明会の開催について 2) 学生募集活動の展開について

(2)大学院教務・学生委員会

活動目的	1) 教育課程及び履修に関する事項 2) 学生の試験及び単位の認定に関する事項 3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍に関する事項 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 6) 非常勤講師等に関する事項 7) その他教務、学生の指導等に関して必要な事項
構成員	委員長：長谷川喜代美 委 員：小林尚司、東野督子、岡田摩理、平野二郎、ロベル智子 事務局：学務課 木村美希
委員会 開催回数	22 回（文書審議 11 件含む）
活動概要	1) 教育課程及び履修に関する事項 (1) 履修証明プログラムの履修期間の短縮に関する検討 教育訓練給付金対象講座への申請を見据え、要件に適合するよう履修期間の短縮について検討し、関係規程を改正した。 (2) 新規 CNS コースの開設にかかる検討 老年・在宅看護学領域から提出された「老年看護 専門看護師コース」の内容について検討を行った。 (3) 研究計画発表会 研究計画発表会を以下のとおり実施した。 第 1 回 開催日：2023 年 1 月 20 日（金）発表者：2 名 (4) 修士論文・課題研究論文発表会 修士論文・課題研究論文発表会を以下のとおり実施した。 第 1 回 開催日：2023 年 1 月 20 日（金）発表者：5 名 (3)、(4) の学生の遠隔参加について検討し、発表者や役割のある学生を除き遠隔参加を可能とした。 (5) 研究計画審査 研究計画審査件数は、2 件であった。 (6) 修士論文・課題研究論文審査 修士論文及び課題研究論文審査件数は、5 件であった。 (7) 論文審査等に係る書類手続き方法の見直し 教育改善学生委員会からの意見を受け標記項目について見直しを行い、一部様式のメール提出が可能になるよう関係規程を改正した。 (8) 履修の確認 学生の履修計画及び履修登録申請内容を確認し、各科目の開講にかかる事前調整を行った。 (9) 授業評価の実施 評価項目を見直し、2021 年度に検討・決定した修了時の学生アンケートの設問と重複する設問を削除した。 授業評価アンケートを実施・集計し、学生評価及び教員の自己評価の内容を確認し、対象科目の結果を公表した。 研究科目の授業評価アンケートの実施単位について、教員自己評価をより効果的に実施するため、実施単位の見直しを行った。 (10) ディプロマポリシーの評価 2021 年度修了生におけるディプロマポリシー毎の GPA 及び修了時の学生アンケート結果を用いて評価を行った。 (11) オンライン開講を活用した学生の履修支援 新型コロナウイルス感染症に伴い自宅待機となった学生の遠隔参加等を調整した。 県外在住学生に対するオンライン開講（ハイブリッド開講含む）の活用について調整した。 2) 学生の試験及び単位の認定に関する事項 (1) 既修得単位の確認 既修得単位認定申請に基づき、既修得単位の認定について確認した。 学部の規程改正に合わせ、既修得単位の認定に関する規程を改正した。 (2) 単位修得状況の確認 各科目担当教員から提出された成績評価に基づき、科目の単位修得状況を確認した。

活動概要

3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍に関する事項

(1) 学生の入学、退学、休学、復学

学生の入学、退学、休学、復学者数は表 1 のとおりであった。

表 1 2022 年度 学生の入学、退学、休学、復学者数

	修士課程	博士課程
入学	9	1
退学	0	0
休学	0	3
復学	0	4
長期履修申請	3	2

(2) 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生の受入れ

研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生の受入れは、表 2 のとおりであった。

表 2 2022 年度 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生受入数

	前期	後期
研究生	0	
履修証明プログラム履修生	2	
科目等履修生	1	5
聴講生	1	0

研究生の受入れについて、本学研究科修了予定者からの接続性が向上するよう、出願の期間を変更することを検討し、次年度募集要項に反映させた。

4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項

学内での健康診断を案内した。

5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項

修了生の学位論文の投稿・掲載状況および認定看護管理者・専門看護師の資格取得者数を確認した。

修了生アンケートを実施し、修了後のキャリア状況等の把握を行った。

6) 非常勤講師等に関する事項

『組織経営・経済論』、『コンサルテーション論』および『小児の病態と治療』の次年度開講にかかる新規非常勤講師について、大学院科目・研究担当審査委員会に申請した。

『災害看護実践論』の科目時間内講師について審査を行った。

7) その他教務、学生の指導等に関して必要な事項

(1) 大学院特別講演会の開催

テーマ：ウェブ調査のデータの質を高めるために

講師：慶應義塾大学 看護医療学部 教授 増田 真也 氏

日時：2023 年 2 月 8 日（水）13：00～14：30

開催方法：オンライン（Zoom 使用）

参加人数：67 名（内訳：本学大学院生 15 名、教職員 24 名、学外参加者 28 名）

次年度の課題

1) 審査手続きのペーパーレス化等、社会人学生がより学びやすいような手続きの合理化について検討する。

8. 事務局運営

1) 今年度の取り組み

第三次中期計画の4年目の取り組みとして、通常業務に加え以下の事務局運営を行なった。

(1) 開学 20 周年記念事業

開学 20 周年記念事業案を示し、趣意書等の書類作成の手続きを進めた。

2022 年度の主な取り組み内容としては、講堂に設置する LED ビジョンの仕様確定、赤十字思想 100 周年を記念して植樹・移植された「いとすぎ」の子孫を残すための挿し木の業務委託が挙げられる。

また、中部ブロック院長連盟会議等で大学の現況について説明する中で、開学 20 周年を迎えることについても言及し、支援を依頼した。

(2) 会議資料のペーパーレス化

2022 年度途中より、教授会、研究科委員会資料を teams で共有した。資料閲覧のためのタブレット整備要望が多くあったため、整備・貸出を開始した。

これにより、教授会、研究科委員会以外の各種委員会やプロジェクト会議等にも波及し、会議資料のペーパーレス化が一気に加速した。

(3) SD 研修

新型コロナウイルス感染症により、2020 年度より開催が見送られていた法人本部主催の日本赤十字学園新任教職員研修がオンデマンドで開催された。教員 16 名、職員 11 名の計 27 名が受講した。

(4) 講義室の音響設備更新等

新型コロナウイルス感染症による社会経済への影響等が考慮され移行期間が延長されたものの、電波法関連法令「無線設備規則の改正」による旧スプリアス規格で製造されたワイヤレス機器が近い将来使用できなくなることを見据え、大講義室 1・2・3 の音響機器、映像・音声制御装置、カメラ、プロジェクター、マイクの更新整備を行った。あわせて、看護実習室や会議室等、学内で使用しているワイヤレスマイクの更新を行った。中講義室ならびに小講義室の音響機器、映像制御装置、プロジェクターの更新は、2023 年度に予定されている。

2022 年度に行われた主な設備更新としては、ワイヤレスマイク更新の他に、電話交換機や中央監視設備及び照明制御盤更新整備が行われた。

また、前年度末に調査診断した建物躯体については、非常に良好な状態であることが報告された。

(5) 愛知県赤十字大会にかかる大学ご視察

2022 年 11 月 2 日（水）愛知芸術文化センター 愛知県芸術劇場 大ホールにおいて、日本赤十字社名誉副総裁 寛仁親王妃信子殿下の御臨席のもと、愛知県赤十字大会が開催され、本学の学生は「あこがれの赤十字」の事前録画の他、会場の受付・案内を担当した。その後妃殿下は、清家篤日本赤十字社社長、佐久間啓彰日本赤十字社愛知県支部事務局長随従のもと、本学において、血圧測定及び脈拍測定の演習の様子をご視察された。

ご視察にあたり、学内特別清掃や正面入口サイン他修繕工事を行った。

2) 課題

第三次中期計画の最終年度を迎えるにあたり、最終ゴール達成に向けて委員会事務局として進捗管理をするとともに、2024 年度から 5 年間の第四次中期計画の作成に取り組む。開学 20 周年記念事業の成功、ペーパーレス化した資料等電子データの保存ルールの作成が次年度の課題である。

III 看護学部教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

本学は、大学の目的である「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」(学校教育法第83条)と、建学の精神である人道を基盤とした赤十字の思想を備えた人材を涵養する。

それは、赤十字の理念に基づく全人的、科学的な看護を実践するための主体的な行動力、感性を兼ね備えた人間性と社会性豊かな個人を育み、さらには国内外の保健・医療・福祉・救護の場で個人を尊重した看護活動ができる基礎力を有し、看護の教育・研究の発展に資することができる看護専門職の育成をすることである。

【教育目標】

これらの教育理念と目的を達成するために、以下に(1)～(6)の目標を置く。

- (1) 赤十字の人道理念を実践できる看護専門職を育成する。
- (2) 人格的成熟・自立をはかり、他者との関係性を発展させることができる能力を培う。
- (3) 事実を的確に判断し、問題を抽出し、創造的に解決できる能力を育む。
- (4) 看護の基礎を踏まえ、科学的・倫理的判断に基づく看護を提供できる能力を養う。
- (5) 社会的責任を自覚し、生涯にわたって学習し、他の専門職と協働活動し得る能力を養う。
- (6) 常に世界に関心を持ち、看護実践を通じて国際貢献できる能力を養う。

2) ディプロマポリシー

本学の教育理念、教育目的、教育目標を実現することを意図したカリキュラムを編成し、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士(看護学)の学位を授与する。卒業までに以下に挙げるようなことを身に着けていることが求められる。

- (1) 赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護するために専門的立場から行動することができる。
- (2) コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支えることができる。
- (3) 一人の人間を身体的・精神的・社会的な側面から、統合的に理解することができる。
- (4) 事実を把握したうえで、専門的知識、先行研究、経験等を活用し、状況について多角的に分析・評価を行い、問題を創造的に解決することができる。
- (5) 健康問題に対する人間の反応を把握し、個別性を尊重した看護を的確かつ安全に実施することができる。
- (6) 地域社会における保健・医療・福祉・救護の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働して看護ケアを実施することができる。
- (7) 自己啓発力・自己学習力をもって、生涯にわたって学び続けることができる。
- (8) 国際社会における健康ニーズを把握するために異文化の理解に努め、グローバルな視野に立って、専門職としての看護の役割を認識することができる。
- (9) 災害時の救護、災害関連死の予防、防災教育などを実践するための基礎的能力を養い、被災者の生活に関する健康ニーズを理解することができる。

3) 教育課程表

教育課程表（2017 年度～ 2019 年度入学者適用）

区分		授業科目	単位数		時間数	履修方法 及び 卒業要件	履修年次及び単位数									
			必修	選択			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計	
							①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
教養科目	人間	心理学	2		30	必修 14 単位	2								2	
		教育学		2	30			2							2	
		人間発達論		2	30			2							2	
		倫理学		2	30			2							2	
		法学・日本国憲法		2	30			2							2	
		音楽論		2	30				2						2	
		英語Ⅰ	2		45			2							2	
		英語Ⅱ	2		45				2						2	
		英語Ⅲ	1		30					1					1	
		英語Ⅳ	1		30						1				1	
		上級英語		1	30							1			1	
		スペイン語		1	30				1						1	
		ポルトガル語		1	30				1						1	
		中国語		1	30		選択 7 単位以上 選択			1						1
		フランス語		1	30						1					1
	社会学	2		30					2					2		
	経済学		2	30				2						2		
	生活科学		2	30		2								2		
	環境	文化人類学		2	30		2							2		
		日本文化論		2	30			2						2		
		人間工学		2	30			2						2		
		健康						1						1		
		スポーツ健康科学	1		30				1					1		
		スポーツレクリエーション実技	1		30		1							1		
	専門基礎科目	人間	看護ふれあいセミナー	1		30	必修 26 単位	1								1
			スタディスキルズセミナー	1		30			1							1
			ボランティア活動論		1	30				1						1
小計			14	26	810	21		17	16	4	2	1	0	0	0	40
形態機能学Ⅰ			2		60			2								2
環境		形態機能学Ⅱ	2		60				2							2
		免疫学	1		15			1								1
		栄養代謝学	1		30			1								1
		生命倫理	1		15					1						1
		公衆衛生学	1		15				1							1
		社会福祉学	1		30				1							1
		保健医療福祉行政論Ⅰ ※	1		15					1						1
		保健医療福祉行政論Ⅱ ※		2	30						2					2
		情報基礎		1	15			1								1
		情報処理		1	15							1				1
健康	保健情報演習 ※	1		30			1							1		
	保健統計 ※	1		30				1						1		
	疫学Ⅰ ※	1		15						1				1		
	疫学Ⅱ ※		1	30						1				1		
	薬理学	1		30				1						1		
	微生物学	1		30		1								1		
	疾病・病態学	1		30			1							1		
	成人・老年疾病・治療論Ⅰ	2		60				2						2		
	成人・老年疾病・治療論Ⅱ	1		30					1					1		
	母性疾病・治療論	1		30						1				1		
赤十字	小児疾病・治療論	1		30						1				1		
	精神疾病・治療論	1		30				1						1		
	リハビリテーション論	1		30				1						1		
	臨床心理学		1	15			1							1		
	カウンセリング論		1	15				1						1		
赤十字	赤十字原論	1		15	26	1								1		
	赤十字と活動	1		15				1						1		
	赤十字救急法	1		30				1						1		
	国際救済と英語		1	30					1					1		
	小計	26	8	825		7	9	9	6	3	0	0	0	34		

区分			授業科目	単位数		時間数	履修方法 及び 卒業要件	履修年次及び単位数									
				必修	選択			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計	
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
専門科目	看護	基礎看護学	看護学概論	2		30	必修 77 単位	2								2	
			コミュニケーション論	1		15			1							1	
			看護過程Ⅰ	1		15				1						1	
			看護過程Ⅱ	1		30					1					1	
			ヘルスアセスメント	1		30					1					1	
			基礎看護技術Ⅰ	1		30		1								1	
			基礎看護技術Ⅱ	1		30		1								1	
			基礎看護技術Ⅲ	1		30			1							1	
			基礎看護技術Ⅳ	1		30				1						1	
			看護倫理学	1		15						1				1	
			基礎看護学実習Ⅰ	1		45			1							1	
			基礎看護学実習Ⅱ	2		90					2					2	
		成人看護学	成人看護学概論・保健	2		30				2						2	
			成人周手術期看護論	1		30					1					1	
			成人慢性期看護論	1		30					1					1	
			成人機能回復援助論		1	15						1				1	
			緩和・ターミナルケア援助論	1		15						1				1	
			感染予防看護論	1		15						1				1	
			感染予防看護演習		1	15						1				1	
			成人看護方法論Ⅰ	1		30					1					1	
			成人看護方法論Ⅱ	1		15						1				1	
	成人看護学実習Ⅰ		2		90							2			2		
	成人看護学実習Ⅱ		2		90							2			2		
	成人看護学実習Ⅲ		2		90							2			2		
	老年看護学	老年看護学概論・保健	2		30					2					2		
		老年看護学Ⅰ	1		30						1				1		
		老年看護学Ⅱ	1		30						1				1		
		介護福祉施設実習	1		45							1			1		
	母性看護学	医療・老人保健施設実習	3		135								3		3		
		母性看護学概論・保健	2		30				2						2		
		母性看護学Ⅰ	1		30						1				1		
		母性看護学Ⅱ	1		30						1				1		
	小児看護学	母性看護学実習	2		90								2		2		
		小児看護学概論・保健	2		30				2						2		
		小児看護学Ⅰ	1		30						1				1		
		小児看護学Ⅱ	1		30						1				1		
	精神看護学	小児看護学実習	2		90								2		2		
		精神看護学概論・保健	2		30					2					2		
		精神看護学Ⅰ	1		30						1				1		
		精神看護学Ⅱ	1		30						1				1		
	公衆衛生看護学	精神看護学実習	2		90								2		2		
		公衆衛生看護学概論 ※	2		30				2						2		
		保健指導方法論 ※		2	30					2					2		
		健康教育方法論Ⅰ ※	1		15					1					1		
		健康教育方法論Ⅱ ※		1	30					1					1		
		家族生活支援論 ※		2	30						2				2		
		産業看護論 ※		1	15					1					1		
		学校看護論 ※		1	15					1					1		
		地区活動論 ※		2	30							2			2		
		公衆衛生看護管理 ※		2	30							2			2		
	統合	地域診断論 ※		2	60					2					2		
		公衆衛生看護学実習 ※		5	225								5		5		
		在宅看護論Ⅰ	2		30					2					2		
		在宅看護論Ⅱ	2		30						2				2		
		在宅看護学実習	2		90							2			2		
		家族看護論	1		15						1				1		
		医療安全	1		15							1			1		
		医療・看護システム論		1	15					1					1		
		看護管理論	1		15								1		1		
		統合実習	2		90								2		2		
	研究	看護研究方法	2		30							2			2		
		看護活動と研究		2	30									2	2		
		卒業研究	4		120								4		4		
		赤十字・災害	赤十字災害看護学	1		15				1						1	
	赤十字災害看護学演習		1		30								1		1		
	国際救援看護論		1		15				1						1		
	国際救援看護論演習			1	30					1					1		
	赤十字健康生活支援演習			1	15						1				1		
	赤十字幼児安全演習			1	15							1			1		
	小計			77	27	2820		77	4	3	12	21	20	26	15	3	104
	※：保健師教育課程を専攻する学生は必修																
合計							124	28	28	25	29	24	26	15	3	178	

教育課程表（2020 年度以降入学者適用）

区分		授業科目	単位数		時間数	履修方法 及び 卒業要件	履修年次及び単位数										
			必修	選択			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計		
							①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
教養科目	人間	哲学		1	15	必修 15 単位 選択 7 単位 以上		1							1		
		教育学		2	30			2							2		
		生命倫理	1		15				1						1		
		人間発達論	1		15		1								1		
		家族論	1		15			1							1		
		法学・日本国憲法		2	30		2								2		
		音楽論		1	15			1							1		
		英語Ⅰ	1		30		1								1		
		英語Ⅱ	1		30			1							1		
		英語Ⅲ	1		30				1						1		
		英語Ⅳ	1		30					1					1		
		英語Ⅴ	1		30						1				1		
		上級英語		1	30									1	1		
		スペイン語		1	30			1							1		
		ポルトガル語		1	30			1							1		
	環境	社会学		2	30		2								2		
		環境問題と健康	1		15		1								1		
		文化人類学		2	30		2								2		
		日本文化論		1	15			1							1		
		情報リテラシー	1		15		1								1		
	健康	スポーツ健康科学	1		15			1							1		
		スポーツレクリエーション実技	1		30		1								1		
		遺伝と健康		1	15							1			1		
	赤十字	看護プロフェッショナルセミナー	1		30		1								1		
		ボランティア活動論		1	30			1							1		
		赤十字原論	1		15		1								1		
		赤十字と活動	1		15			1							1		
		赤十字総合セミナー		1	15			1							1		
	小計		15	17	645		22	13	13	2	1	1	1	0	1	32	
	専門基礎科目	人間	形態機能学Ⅰ	2			60	必修 21 単位	2								2
			形態機能学Ⅱ	2			60			2						2	
			形態機能学Ⅲ	1			15			1							1
免疫学			1		15	1									1		
栄養代謝学			1		30	1									1		
人間工学			1		30				1						1		
環境		公衆衛生学	1		15		1								1		
		社会福祉学	1		30		1								1		
		保健医療福祉行政論Ⅰ ※	1		15				1						1		
		保健医療福祉行政論Ⅱ ※		2	30					2					2		
		保健情報演習 ※	1		30		1								1		
		保健統計 ※	1		30				1						1		
		疫学Ⅰ ※	1		15						1				1		
		疫学Ⅱ ※		1	30						1				1		
		薬理学	1		30					1					1		
健康		微生物学	1		15	1									1		
		感染制御論	1		15					1					1		
		病理学	1		15		1								1		
		臨床検査概論	1		15					1					1		
		リハビリテーション論	1		30					1					1		
		臨床心理学	1		15				1						1		
		小計	21	3	540	21	6		8	6	2	2	0	0	0	24	

区分	分野	領域	授業科目	単位数		時間数	履修方法 及び 卒業要件	履修年次及び単位数										
				必修	選択			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計		
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
専門科目	基礎育成看護学	基礎看護学	看護学概論	2		30	必修 83 単位	2								2		
			コミュニケーション論	1		15		1								1		
			看護過程Ⅰ	1		15				1						1		
			看護過程Ⅱ	1		15					1					1		
			ヘルスアセスメント基礎	1		30					1					1		
			看護倫理学	1		15						1				1		
			基礎看護技術Ⅰ	1		30		1								1		
			基礎看護技術Ⅱ	1		30			1							1		
			基礎看護技術Ⅲ	1		30				1						1		
			基礎看護学実習Ⅰ	1		45			1							1		
			基礎看護学実習Ⅱ	2		90					2					2		
		看護管理学	看護管理学Ⅰ	1		15				1						1		
			看護管理学Ⅱ	1		15						1				1		
			医療安全論	1		15							1			1		
			看護キャリア開発論		1	15									1	1		
			看護管理学実習	1		45									1	1		
		ケア創生看護学	成人看護学	成人急性期病態・治療論Ⅰ	1			30			1							1
				成人急性期病態・治療論Ⅱ	1			30				1						1
				成人慢性期病態・治療論Ⅰ	1			30				1						1
				成人慢性期病態・治療論Ⅱ	1			30					1					1
				成人急性期看護学概論	1			15				1						1
				成人周術期看護論	1			30					1					1
				クリティカルケア論	1			30						1				1
				成人慢性期看護学概論	1			15				1						1
				成人慢性期援助論Ⅰ	1			30					1					1
				成人慢性期援助論Ⅱ	1			30						1				1
				成人看護学技術演習Ⅰ	1			30				1						1
				成人看護学技術演習Ⅱ	1			30						1				1
				成人看護学基盤実習	2			90							2			2
				成人急性期看護学実習	2			90							2			2
				成人慢性期看護学実習	2			90							2			2
	母性看護学	母性病態・治療論	1		30						1						1	
		母性看護学概論	2		30						2						2	
		母性看護学援助論	1		30							1					1	
		母性看護学技術演習	1		30								1				1	
		母性看護学実習	2		90								2				2	
		小児病態・治療論	1		30					1							1	
	小児看護学	小児看護学概論	2		30						2						2	
		小児看護学援助論	1		30							1					1	
		小児看護学技術演習	1		30								1				1	
		小児看護学実習	2		90									2			2	
		老年病態・治療論	1		30					1							1	
	老年看護学	老年看護学概論	2		30						2						2	
		老年看護学援助論	1		30							1					1	
		老年看護学技術演習	1		30								1				1	
		老年看護学実習Ⅰ	3		135									3			3	
		老年看護学実習Ⅱ	1		45									1			1	
	在宅看護学	在宅看護学概論	2		30						2						2	
		在宅看護学援助論	1		30							1					1	
		在宅看護学技術演習	1		30								1				1	
		在宅看護学実習	2		90									2			2	
	精神看護学	精神病態・治療論	1		30						1						1	
		精神看護学概論	2		30						2						2	
		精神看護学援助論	1		30							1					1	
		精神看護学技術演習	1		30								1				1	
		精神看護学実習	2		90									2			2	
		災害看護学概論	2		30					2							2	
	災害看護学	災害看護学援助論	1		30						1						1	
		災害看護学技術演習Ⅰ	1		30							1					1	
		災害看護学技術演習Ⅱ	1		15										1		1	
		国際救援看護論		1	15					1							1	
		国際救援看護論演習		1	30						1						1	
		国際救援看護論実習		1	45							1					1	
		国際救援と英語		1	15					1							1	

Ⅲ 看護学部教育活動

区分	分野	領域	授業科目	単位数		時間数	履修方法 及び 卒業要件	履修年次及び単位数								
				必修	選択			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
専門科目	地域共生看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ ※	1		15	必修 83 単位			1						1
			公衆衛生看護学概論Ⅱ ※		1	15					1				1	
			保健指導方法論 ※		2	30						2			2	
			健康教育方法論Ⅰ ※		1	15					1				1	
			健康教育方法論Ⅱ ※		1	30					1				1	
			家族生活支援論 ※		2	30						2			2	
			産業看護論 ※		1	15					1				1	
			学校看護論 ※		1	15					1				1	
			地区活動論 ※		2	30						2			2	
			地域診断論 ※		4	60					4				4	
			公衆衛生看護管理 ※		2	30							2		2	
			公衆衛生看護学実習 ※		5	225								5	5	
	知の統合	心のリハビリテーション		1	15						1			1		
		ヘルスアセスメント応用	1		15						1			1		
		技術特別演習	1		15							1		1		
		統合実習	1		45							1		1		
		卒業研究Ⅰ	1		15						1			1		
		卒業研究Ⅱ	2		60							2		2		
		小計	83	28	3045	83	4	3	14	31	20	25	12	2	111	
※：保健師教育課程を専攻する学生は必修																
合計						126	23	24	22	34	23	26	12	3	167	

科目担当教員一覧

授業科目	単位数		時間数	担当教員
	必修	選択		
哲学		1	15	村瀬雅俊
教育学		2	30	小嶋季輝
生命倫理	1		15	森下直貴
人間発達論	1		15	青柳真紀子
家族論	1		15	大西文子
法学・日本国憲法		2	30	早野暁
音楽論		1	15	中野里美
英語Ⅰ	1		30	森久子・鈴木寿摩
英語Ⅱ	1		30	森久子・鈴木寿摩
英語Ⅲ	1		30	森久子・鈴木寿摩
英語Ⅳ	1		30	森久子・鈴木寿摩
英語Ⅴ	1		30	森久子・鈴木寿摩
上級英語		1	30	Steeve Plante
スペイン語		1	30	ブストス・シアン カルロ
ポルトガル語		1	30	ヴァスコンセロス クラウディオ
社会学		2	30	加藤典子
環境問題と健康	1		15	谷地俊二・今井奈妙
文化人類学		2	30	渡辺道斉
日本文化論		1	15	永井博
情報リテラシー	1		15	森田一三・高見精一郎
スポーツ健康科学		1	15	三浦真理子
スポーツレクリエーション実技	1		15	三浦真理子
遺伝と健康		1	15	西垣昌和
看護プロフェッショナルセミナー	1		30	森田一三・松浦正子・小林尚司・野口眞弓・長谷川喜代美・南谷志野・岡田摩理・清水美代子・橋本亜弓・松田優子・深谷由美・千葉朝子・神道那実・初田真人・高見精一郎
ボランティア活動論		1	30	山田聡子・下間正隆・東野督子・高見精一郎・中村将洋
赤十字原論	1		15	小林洋子・河合利修・伊藤明子
赤十字と活動	1		15	小林洋子
赤十字総合セミナー		1	15	小林洋子・石黒千映子・清水みどり・竹内貴子・巻野雄介・棚川綾子・長尾佳世子
形態機能学Ⅰ	2		60	金澤寛明
形態機能学Ⅱ	2		60	金澤寛明
形態機能学Ⅲ	1		15	金澤寛明
免疫学	1		15	錦見昭彦
栄養代謝学	1		30	田口忠緒
人間工学	1		30	斎藤真
公衆衛生学	1		15	森田一三
社会福祉学	1		30	服部次郎
保健医療福祉行政論Ⅰ	1		15	日比野絹子・柴川ゆかり
保健医療福祉行政論Ⅱ		2	30	片岡博喜
保健情報演習	1		30	森田一三・高見精一郎
保健統計	1		30	森田一三・高見精一郎
疫学Ⅰ	1		15	森田一三
疫学Ⅱ		1	30	森田一三
薬理学	1		30	池田義明
微生物学	1		15	清水宣明
感染制御論	1		15	下間正隆
病理学	1		15	黒川景
臨床検査概論	1		15	下間正隆・山田雅之・今井泰
リハビリテーション論	1		30	横田元美・金田嘉清・鈴木めぐみ・谷川広樹・小山総市朗
臨床心理学	1		15	目黒達哉
看護学概論	2		30	山田聡子
コミュニケーション論	1		15	中島佳緒里
看護過程Ⅰ	1		15	山田聡子
看護過程Ⅱ	1		15	中島佳緒里・山田聡子・竹内貴子・巻野雄介
ヘルスアセスメント基礎	1		30	巻野雄介・山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ
看護倫理学	1		15	山田聡子
基礎看護技術Ⅰ	1		30	中島佳緒里・巻野雄介・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ・山田聡子
基礎看護技術Ⅱ	1		30	中島佳緒里・巻野雄介・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ・山田聡子
基礎看護技術Ⅲ	1		30	竹内貴子・中島佳緒里・巻野雄介・近藤絵美・西久保ひろみ・山田聡子
基礎看護学実習Ⅰ	1		45	山田聡子・中島佳緒里・巻野雄介・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ
基礎看護学実習Ⅱ	2		90	山田聡子・中島佳緒里・巻野雄介・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ
看護管理学Ⅰ	1		15	松浦正子・南谷志野
看護管理学Ⅱ	1		15	松浦正子・南谷志野
医療安全論	1		15	松浦正子・南谷志野
看護キャリア開発論		1	15	松浦正子・南谷志野
看護管理学実習	1		45	松浦正子・南谷志野
成人急性期病態・治療Ⅰ	1		30	下間正隆
成人急性期病態・治療Ⅱ	1		30	下間正隆

Ⅲ 看護学部教育活動

授業科目	単位数		時間数	担当教員
	必修	選択		
成人慢性期病態・治療論Ⅰ	1		30	下間正隆・黒川雄太・杉野安輝・花木芳洋・加藤哲則
成人慢性期病態・治療論Ⅱ	1		30	下間正隆・山本義浩・久保田恵章・太田喜久夫・一文字功・高杉浩司
成人急性期看護学概論	1		15	東野督子
成人周術期看護論	1		30	東野督子・鎌倉やよい・棚川綾子
クリティカルケア論	1		30	東野督子・棚川綾子・河村諒
成人慢性期看護学概論	1		15	石黒千映子
成人慢性期援助論Ⅰ	1		30	石黒千映子
成人慢性期援助論Ⅱ	1		30	石黒千映子
成人看護学技術演習Ⅰ	1		30	石黒千映子・棚川綾子・田口栄子・河村諒・東野督子
成人看護学技術演習Ⅱ	1		30	石黒千映子・棚川綾子・田口栄子・河村諒・東野督子
成人看護学基礎実習	2		90	棚川綾子・東野督子・石黒千映子・田口栄子・河村諒
成人急性期看護学実習	2		90	石黒千映子・東野督子・棚川綾子・田口栄子・河村諒
成人慢性期看護学実習	2		90	東野督子・石黒千映子・棚川綾子・田口栄子・河村諒
成人看護学実習Ⅰ（2017年度～2019年度入学者適用）	2		90	棚川綾子・東野督子・石黒千映子・田口栄子・河村諒
成人看護学実習Ⅱ（2017年度～2019年度入学者適用）	2		90	石黒千映子・東野督子・棚川綾子・田口栄子・河村諒
成人看護学実習Ⅲ（2017年度～2019年度入学者適用）	2		90	東野督子・石黒千映子・棚川綾子・田口栄子・河村諒
母性病態・治療論	1		30	小口秀紀・田中太平
母性看護学概論	2		30	野口眞弓
母性看護学援助論	1		30	野口眞弓・長田知恵子・千葉朝子
母性看護学技術演習	1		30	野口眞弓・長田知恵子・千葉朝子
母性看護学実習	2		90	野口眞弓・長田知恵子・千葉朝子
母性看護学実習（2017年度～2019年度入学者適用）	2		90	野口眞弓・長田知恵子・千葉朝子
小児病態・治療論	1		30	後藤芳充・田中太平・神田康司・石井睦夫・犬飼幸子・山田崇春・真島久和
小児看護学概論	2		30	大西文子
小児看護学援助論	1		30	岡田摩理・遠藤幸子・神道那実
小児看護学技術演習	1		30	神道那実・遠藤幸子・岡田摩理・大西文子
小児看護学実習	2		90	大西文子・岡田摩理・神道那実・遠藤幸子
小児看護学実習（2017年度～2019年度入学者適用）	2		90	大西文子・岡田摩理・神道那実・遠藤幸子
老年病態・治療論	1		30	小林尚司・鎌倉やよい・下間正隆・森田一三・安井敬三・伊藤彰博・近藤敬太・小笠原雅彦・加藤真二
老年看護学概論	2		30	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓
老年看護学援助論	1		30	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
老年看護学技術演習	1		30	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
老年看護学実習Ⅰ	1		45	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
老年看護学実習Ⅱ	3		135	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
医療・老人保健施設実習（2017年度～2019年度入学者適用）	3		135	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
介護福祉施設実習（2017年度～2019年度入学者適用）	1		45	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
在宅看護学概論	2		30	百瀬由美子・松田優子・深谷由美
在宅看護学援助論	1		30	松田優子・百瀬由美子・深谷由美
在宅看護学技術演習	1		30	深谷由美・松田優子・百瀬由美子
在宅看護学実習	2		90	百瀬由美子・松田優子・深谷由美
在宅看護学実習（2017年度～2019年度入学者適用）	2		90	百瀬由美子・松田優子・深谷由美
精神病態・治療論	1		30	平野千晶・水谷浩明
精神看護学概論	2		30	原田真澄・初田真人・飯田大輔
精神看護学援助論	2		90	原田真澄・初田真人・飯田大輔
精神看護学技術演習	1		30	初田真人・飯田大輔・山本壮則
精神看護学実習	2		90	原田真澄・初田真人・飯田大輔・山本壮則
精神看護学実習（2017年度～2019年度入学者適用）	2		90	原田真澄・初田真人・飯田大輔・山本壮則
看護管理論	1		15	松浦正子・南谷志野
災害看護学概論	2		30	小林洋子・花木芳洋
災害看護学援助論	1		30	小林洋子・長尾佳世子
災害看護学技術演習Ⅰ		1	15	小林洋子・長尾佳世子
国際救援看護論		1	15	小林洋子・長尾佳世子
国際救援看護論演習		1	30	小林洋子・長尾佳世子
国際救援看護論実習		1	45	小林洋子・長尾佳世子
国際救援と英語		1	15	森久子・鈴木寿摩
公衆衛生看護学概論Ⅰ	1		15	長谷川喜代美
公衆衛生看護学概論Ⅱ		1	15	長谷川喜代美
保健指導方法論		2	30	清水美代子・廣田直美
健康教育方法論Ⅰ		1	15	清水美代子・廣田直美
健康教育方法論Ⅱ		1	30	清水美代子・廣田直美
家族生活支援論		2	30	長谷川喜代美

授業科目	単位数		時間数	担当教員
	必修	選択		
産業看護論		1	15	清水美代子
学校看護論		1	15	長谷川喜代美・廣田直美
地区活動論		2	30	長谷川喜代美
地域診断論		4	60	清水美代子・廣田直美
公衆衛生看護管理		2	60	長谷川喜代美・清水美代子・廣田直美
公衆衛生看護学実習		5	225	長谷川喜代美・清水美代子・廣田直美
心のリハビリテーション		1	15	原田真澄・初田真人・飯田大輔
ヘルスアセスメント応用	1		15	巻野雄介・山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ
統合実習	2		90	看護専門教員全員
卒業研究Ⅰ	1		15	山田聡子・松浦正子
看護活動と研究		2	30	小林尚司・野口真弓・大西文子・東野督子・山田聡子・原田真澄・深谷由美・松浦正子
赤十字災害看護学演習	1		30	小林洋子・長尾佳世子
赤十字幼児安全演習		1	15	大西文子・岡田摩理
卒業研究		1	15	専門基礎・専門科目の講師以上

4) カリキュラムポリシー

- (1) 本学では、教育理念と教育目的に基づくディプロマポリシーを達成するために、カリキュラムは、次のように編成している。すなわち、「教養科目」、「専門基礎科目」では、本学の建学の精神である「赤十字」の基本原則と活動について学ぶとともに、「人間」と「環境」との相互作用において生じる「健康」の様々な段階について学ぶ。さらに、「専門科目」では、基盤育成看護学、ケア創生看護学、地域共生看護学、看護学の技と知の統合の分野から「看護」について学ぶことができるよう各科目を位置づけている。
- (2) 本学の建学の精神である赤十字に関する科目は教養科目として位置づけ、赤十字の理念と活動を理解したうえで、主体的に探求する「赤十字総合セミナー」と、赤十字の理念を行動に移す「ボランティア活動論」を設置している。
- (3) コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支える能力を育成することを目指したコミュニケーションツールである語学科目として英語と本学の地域性を活かしたスペイン語、ポルトガル語を設置し、特に英語は、「国際救援と英語」等、4年間、継続して学習できる機会を設け、各学年に配置している。
- (4) 看護の対象者と円滑なコミュニケーションを図るために、「コミュニケーション論」で基本を学び、そのうえで専門的なコミュニケーション技術を身につけることを目指して精神看護学領域の各科目を設置している。
- (5) 看護においては、一人の人間を統合的に理解することが重要である。そこで、人間のライフサイクルから変化を捉える「人間発達論」と「家族論」、遺伝やスポーツ、生活を営む社会や環境を知り、健康への影響を理解する「遺伝と健康」、「環境問題と健康」等、人間の身体的側面について理解する科目として、「形態機能学」、「病理学」、「感染制御論」等、精神的側面について理解する科目として「臨床心理学」を設置している。さらに、各看護学専門領域に病態・治療論を配置し、病態・治療と看護のつながりを強化していることも特徴である。
- (6) 看護のアセスメントの基盤となる検査・治療について理解する「臨床検査概論」、「薬理学」、「人間工学」、「リハビリテーション論」、さらに地域における看護を展開するために必要不可欠な「疫学」、「公衆衛生学」等も設置している。
- (7) 看護の専門性を追求するために基盤となる科目としては、「看護学概論」等と各看護学領域の援助論を設置し、「基礎看護学技術」をはじめとする各看護学領域における技術演習、実習、「技術特別演習」、「統合実習」で、看護の技と知の統合を目指す。また、保健・医療・福祉の場で看護の専門性を追求するための科目として、「看護管理学」等を設置し、地域社会における看護の役割を学ぶ科目にも力を入れ、「在宅看護学概論」、「公衆衛生看護学概論」等を設置している。
- (8) 赤十字の看護大学卒業生としての自負を持ち、看護師としてのキャリアイメージを強化するための「看護プロフェッショナルセミナー」やプロフェッショナルリズムの育成を目指した「看護キャリア開発論」、さらに生涯にわたって学び続けるための基礎力となる研究力を身につける科目として「卒業研究」も設置している。
- (9) 本学の教育課程の特長である国内外の救護の場における看護の役割を認識することと災害関連死の予防、防災教育を実践するための科目として、「災害看護学概論」、「国際救援看護論」等を設置している。

5)カリキュラムマップ

(1) 2017 年度～ 2019 年度入学者適用

特性の範囲	赤十字基本原則の行動化	コミュニケーション技術	人間理解	科学的な問題解決	看護実践	地域社会における協働	生涯学習	国際社会
卒業生特性 (Graduate Capability) ラーニングアウトカムの内容	赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護する専門的立場から行動することができる。	人の生命や生きる営みを支えるために、コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につける。	一人の人間を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解することができる。	事実を把握し、専門的知識、先行研究、経験等を活用してその状況の分析・評価に基づき問題を解決することができる。	健康問題に対する人間の反応を把握し、個別ケアを的確かつ安全に実施することができる。	地域社会における保健・医療・福祉の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働してケアを実践することができる。	自己啓発力・自己学習力をもって、生涯学習を自ら求め続けることができる。	国際社会における健康のニーズを把握する能力を持ち、看護の役割を認識できる。
履修の順次性	1 年次	赤十字原論	英語Ⅰ	心理学 人間発達論 倫理学 法学・日本国憲法 文化人類学 スポーツレクリエーション実技 看護学概論	生活科学 形態機能学Ⅰ 免疫学 栄養代謝学 微生物学	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	看護ふれあいセミナー スタディスキルズ セミナー 情報基礎	
		ボランティア活動論 赤十字と活動 赤十字救急法	英語Ⅱ スペイン語 ポルトガル語 コミュニケーション論	教育学 音楽論 経済学 日本文化論 スポーツ健康科学 臨床心理学	形態機能学Ⅱ 疾病・病態学	人間工学 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ	公衆衛生学 社会福祉学	保健情報演習
	2 年次	赤十字災害看護学	英語Ⅲ 中国語 カウンセリング論	生命倫理 社会学 成人看護学概論・保健 母性看護学概論・保健 小児看護学概論・保健 公衆衛生看護学概論	薬理学 成人・老年疾病・治療論Ⅰ リハビリテーション論 看護過程Ⅰ	基礎看護技術Ⅳ	保健医療福祉行政論Ⅰ	国際救援と英語 国際救援看護論
			英語Ⅳ フランス語	老年看護学概論・保健 精神看護学概論・保健	成人・老年疾病・治療論Ⅱ 母性疾病・治療論 小児疾病・治療論 精神疾病・治療論 看護過程Ⅱ ヘルスアセスメント 成人周手術期看護論 成人慢性期看護論	基礎看護学実習Ⅱ 成人看護方法論Ⅰ	保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計 健康教育方法論Ⅰ 健康教育方法論Ⅱ 産業看護論 学校看護論 地域診断論 在宅看護論Ⅰ 医療・看護システム論	国際救援看護論演習
	3 年次	看護倫理学	上級英語	家族看護論	成人機能回復援助論 緩和・ターミナルケア援助論 感染予防看護論 感染予防看護演習 老年看護学Ⅰ 母性看護学Ⅰ 小児看護学Ⅰ 精神看護学Ⅰ	成人看護方法論Ⅱ 老年看護学Ⅱ 母性看護学Ⅱ 小児看護学Ⅱ 精神看護学Ⅱ	疫学Ⅰ 疫学Ⅱ 保健指導方法論 在宅看護論Ⅱ	情報処理
		赤十字健康生活支援演習			医療安全	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 医療・老人保健施設実習 母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習	介護福祉施設実習 家族生活支援論 地区活動論 在宅看護論実習	看護研究方法
	4 年次	赤十字災害看護学演習 赤十字幼児安全演習			看護管理論	統合実習	公衆衛生看護管理 公衆衛生看護学実習	看護活動と研究 卒業研究

(2) 2020 年度以降入学者適用

		1	2	3	4
特性の範囲		赤十字基本原則の行動化	コミュニケーション技術	人間理解	科学的な問題解決
卒業生特性 (Graduate Capability) ラーニング アウトカム の内容		赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護するために専門的立場から行動することができる。	コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支えることができる。	一人の人間を身体的・精神的・社会的な側面から、統合的に理解することができる。	事実を把握したうえで、専門的知識、先行研究、経験等を活用し、状況について多角的に分析・評価を行い、問題を創造的に解決することができる。
時 間 的 な 順 次 性	一年次履修	ボランティア活動論 赤十字原論 赤十字と活動 赤十字総合セミナー	英語Ⅰ 英語Ⅱ スペイン語 ポルトガル語 コミュニケーション論	哲学 教育学 人間発達論 家族論 法学・日本国憲法 音楽論 社会学 環境問題と健康 文化人類学 日本文化論 スポーツ健康科学 スポーツレクリエーション実技 形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅲ 免疫学 栄養代謝学 人間工学 微生物学 病理学 臨床心理学 看護学概論	成人急性期病態・治療論Ⅰ
	二年次履修	生命倫理	英語Ⅲ	薬理学 感染制御論 臨床検査概論 リハビリテーション論 成人急性期看護学概論 成人慢性期看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 老年看護学概論 精神看護学概論	看護過程Ⅰ 看護過程Ⅱ ヘルスアセスメント基礎 看護管理学Ⅰ 成人急性期病態・治療論Ⅱ 成人慢性期病態・治療論Ⅰ 成人慢性期病態・治療論Ⅱ 成人周術期看護論 成人慢性期援助論Ⅰ 母性病態・治療論 小児病態・治療論 老年病態・治療論 精神病態・治療論
	三年次履修	看護倫理学		遺伝と健康 医療安全論 心のリハビリテーション	看護管理学Ⅱ クリティカルケア論 成人慢性期援助論Ⅱ 母性看護学援助論 小児看護学援助論 老年看護学援助論 精神看護学援助論 ヘルスアセスメント応用
	四年次履修		上級英語		

5		6	7	8	9
看護実践		地域社会における協働	生涯学習	国際社会	災害
演習	実習				
健康問題に対する人間の反応を把握し、個性性を尊重した看護を的確かつ安全に実施することができる。		地域社会における保健・医療・福祉・救護の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働して看護ケアを実施することができる。	自己啓発力・自己学習力をもって、生涯にわたって学び続けることができる。	国際社会における健康ニーズを把握するために異文化の理解に努め、グローバルな視野に立って、専門職としての看護の役割を認識することができる。	災害時の救護、災害関連死の予防、防災教育などを実践するための基礎的能力を養い、被災者の生活に関する健康ニーズを理解することができる。
基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ	公衆衛生学 社会福祉学	情報リテラシー 看護プロフェッショナルセミナー 保健情報演習		
基礎看護技術Ⅲ 成人看護学技術演習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計 在宅看護学概論 公衆衛生看護学概論Ⅰ 公衆衛生看護学概論Ⅱ 健康教育方法論Ⅰ 健康教育方法論Ⅱ 産業看護論 学校看護論 地域診断論		英語Ⅳ 国際救援看護論 国際救援看護論演習 国際救援と英語	災害看護学概論 災害看護学援助論
成人看護学技術演習Ⅱ 母性看護学技術演習 小児看護学技術演習 老年看護学技術演習 精神看護学技術演習	成人看護学基盤実習 成人急性期看護学実習 成人慢性期看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 老年看護学実習Ⅰ 精神看護学実習	疫学Ⅰ 疫学Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学援助論 在宅看護学技術演習 在宅看護学実習 保健指導方法論 家族生活支援論 地区活動論	卒業研究Ⅰ	英語Ⅴ 国際救援看護論実習	災害看護学技術演習Ⅰ
技術特別演習	看護管理学実習 統合実習	災害看護学技術演習Ⅱ 公衆衛生看護管理 公衆衛生看護学実習	看護キャリア開発論 卒業研究Ⅱ		

下線の科目は、3年次後期～4年次前期の通年開講科目です。

6) 2022 年度 実習施設一覧

No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域	No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域	No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域
1	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	成人看護学実習Ⅰ / 成人看護学基盤実習 成人看護学実習Ⅱ / 成人急性期基盤実習 成人看護学実習Ⅲ / 成人慢性期基盤実習 小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習（看護管理実習、成人）	33	豊田地域訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習（在宅）	65	愛知県看護協会	統合実習（看護管理学領域）
2	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	成人看護学実習Ⅰ / 成人看護学基盤実習 成人看護学実習Ⅱ / 成人急性期基盤実習 成人看護学実習Ⅲ / 成人慢性期基盤実習 小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習（看護管理実習、成人）	34	八千代訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習（在宅）	66	愛知県ナースセンター	統合実習（看護管理学領域）
3	刈谷豊田総合病院	小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ	35	医療法人豊田会 高浜訪問看護ステーション	在宅看護学実習	67	日本赤十字社愛知県支部	統合実習（災害）
4	名古屋掖済会病院	基礎看護学実習Ⅱ	36	すみれ訪問看護ステーション	在宅看護学実習	68	豊根村役場	統合実習（災害）
5	豊田厚生病院	成人看護学実習Ⅱ / 成人急性期基盤実習 在宅看護学実習 （訪問看護ステーション） 基礎看護学実習Ⅰ 統合実習（災害）	37	訪問看護ステーションひなた	在宅看護学実習	69	一般社団法人 Re Smile	統合実習（小児）
6	トヨタ記念病院	母性看護学実習	38	トヨタ記念訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習（在宅）	70	刈谷市立刈谷特別支援学校	統合実習（小児）
7	かなや助産所	母性看護学実習 統合実習（母性）	39	常滑市民病院訪問看護ステーションきずな	在宅看護学実習	71	こども訪問看護ステーション mom	統合実習（小児）
8	北野ミッドワイフリー	母性看護学実習 統合実習（母性）	40	笑み訪問看護ステーション	在宅看護学実習	72	きたよし地域包括支援センター	統合実習（公衆衛生）
9	天白助産所	母性看護学実習	41	南医療生活協同組合（訪問看護ステーションしもやま）	在宅看護学実習	73	なかよし地域包括支援センター	統合実習（公衆衛生）
10	碧助産院	母性看護学実習	42	訪問看護ステーションえくぼ	在宅看護学実習 統合実習（在宅）	74	みなよし地域包括支援センター	統合実習（公衆衛生）
11	助産院マザーズ・プレイス	母性看護学実習	43	テンハート訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習（看護管理、在宅）	75	社協包括支援センター	統合実習（公衆衛生）
12	ひまわり助産院	母性看護学実習 統合実習（母性）	44	刈谷訪問看護ステーション	在宅看護学実習	76	ほっとかん地域包括支援センター	統合実習（公衆衛生）
13	すこやか助産院	母性看護学実習 統合実習（母性）	45	名古屋市中村保健センター	公衆衛生看護学実習（行政）	77	地域包括支援センター益富の楽園	統合実習（公衆衛生）
14	かおり助産院	母性看護学実習	46	名古屋市港保健センター	公衆衛生看護学実習（行政）	78	ひまわりの街地域包括支援センター	統合実習（公衆衛生）
15	星野助産院	母性看護学実習 統合実習（母性）	47	名古屋市南保健センター	公衆衛生看護学実習（行政）	79	豊田福寿園地域包括支援センター	統合実習（公衆衛生）
16	愛育母乳相談室	母性看護学実習	48	豊田市保健所	公衆衛生看護学実習（行政）	80	地域包括支援センター保見の里	統合実習（公衆衛生）
17	刈谷豊田東病院	医療・老人保健施設実習 / 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習（訪問看護ステーション）	49	岡崎市保健所	公衆衛生看護学実習（行政）	81	地域包括支援センター猿投の楽園	統合実習（公衆衛生）
18	高浜豊田病院	医療・老人保健施設実習 / 老年看護学実習Ⅰ	50	瀬戸保健所	公衆衛生看護学実習（行政）			
19	老人保健施設 ハピリス一ツ木	医療・老人保健施設実習 / 老年看護学実習Ⅰ	51	半田保健所	公衆衛生看護学実習（行政）			
20	みよし市民病院	医療・老人保健施設実習 / 老年看護学実習Ⅰ	52	西尾保健所	公衆衛生看護学実習（行政）			
21	並木病院	医療・老人保健施設実習 / 老年看護学実習Ⅰ 統合実習（老年）	53	日進市保健センター	公衆衛生看護学実習（行政）			
22	老人保健施設 メディコ平針	医療・老人保健施設実習 / 老年看護学実習Ⅰ 統合実習（老年）	54	阿久比町保健センター	公衆衛生看護学実習（行政）			
23	特別養護老人ホーム 第2とよた苑	介護福祉施設実習 / 老年看護学実習Ⅱ 統合実習（老年）	55	幸田町保健センター	公衆衛生看護学実習（行政）			
24	特別養護老人ホーム みなみ福寿園	介護福祉施設実習 / 老年看護学実習Ⅱ 統合実習（老年）	56	公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団 あいち健康の森 健康科学総合センター	公衆衛生看護学実習（行政）			
25	特別養護老人ホーム ひまわりの街	介護福祉施設実習 / 老年看護学実習Ⅱ 統合実習（老年）	57	株式会社デンソー	公衆衛生看護学実習（産業）			
26	特別養護老人ホーム ひまわり邸	介護福祉施設実習 / 老年看護学実習Ⅱ	58	愛知製鋼株式会社	公衆衛生看護学実習（産業）			
27	特別養護老人ホーム 日進ホーム	介護福祉施設実習 / 老年看護学実習Ⅱ	59	東海旅客鉄道株式会社	公衆衛生看護学実習（産業）			
28	特別養護老人ホーム 安立荘	介護福祉施設実習 / 老年看護学実習Ⅱ	60	日本たばこ産業株式会社	公衆衛生看護学実習（産業）			
29	医療法人 研精会 豊田西病院	精神看護学実習 統合実習（精神）	61	トヨタ関連部品健康保険組合	公衆衛生看護学実習（産業）			
30	医療法人 静心会 桶狭間病院 藤田こころケアセンター	精神看護学実習 統合実習（精神）	62	株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング	公衆衛生看護学実習（産業）			
31	特定医療法人 共和会 共和病院	精神看護学実習 統合実習（精神）	63	愛知県庁 保健医療局	統合実習（看護管理学領域）			
32	医療法人 成精会 刈谷病院	精神看護学実習	64	愛知県がんセンター	統合実習（管理） 看護管理学実習			

7) 選択科目受講者数

(単位：名)

講義名	履修者数
公衆衛生看護管理	22
公衆衛生看護学実習	22
赤十字幼児安全演習	18
法学・日本国憲法	111
社会学	99
文化人類学	124
疫学Ⅱ	22
国際救援看護論	34
国際救援看護論実習	4
国際救援と英語	13
保健指導方法論	22
公衆衛生看護学実習	22
看護活動と研究	83
哲学	8
教育学	71
音楽論	100
スペイン語	18
ポルトガル語	8
日本文化論	62
遺伝と健康	16
ボランティア活動論	5
赤十字総合セミナー	13
保健医療福祉行政論Ⅱ	22
国際救援看護論演習	15
公衆衛生看護学概論Ⅱ	22
健康教育方法論Ⅰ	22
健康教育方法論Ⅱ	22
家族生活支援論	22
産業看護論	22
学校看護論	22
地区活動論	22
地域診断論	22
心のリハビリテーション	4

8) 他大学との単位互換の状況

愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している。

加盟大学に所属する学生（系列の併設短期大学の学生を含む。）は、他の大学で開講される様々な科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度である。

2022年度の実績は無かった。

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

- (1) 本学の建学の精神に共感できる人
- (2) 日本語力、英語力、科学的思考力を備えている人
- (3) 人間や社会に対して広く関心がある人
- (4) 社会常識を備え責任を持って行動できる人
- (5) 看護を学ぶ意志を持つ人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	科目	配点	総点
学校推薦型 選抜	赤十字特別推薦選抜	30 名程度	必須	英語	50 点	150 点
	高等学校長推薦選抜	30 名程度		小論文	50 点	
	一般選抜	2 名		面接	50 点	

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	教科	科目	配点	総点
一般選抜	大学独自選抜	40 名	必須	外国語	「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」	100 点	305 点
			必須	国語	「国語総合（古文・漢文を除く）」	100 点	
			選択 1 つを選択	数学	「数学Ⅰ・数学A 整数の性質及び場合の数と確率、図形の性質」	100 点	
				理科	「化学基礎」（教科書に記載されている全範囲とし、参考、発展、コラムなども含む）		
					「生物基礎」（教科書に記載されている全範囲とし、参考、発展、コラムなども含む）		
			必須	多面的・総合的な評価			
	大学入学共通テスト 利用選抜（前期A）	6 名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	100 点	400 点
			必須	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100 点	
			必須	数学	「数学Ⅰ・数学A」	100 点	
			選択 1 つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から 2 科目	100 点	
					「化学」		
					「生物」		
					「物理」		
	大学入学共通テスト 利用選抜（前期B）	6 名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	200 点	400 点
			選択 1 つを選択	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100 点	
				数学	「数学Ⅰ・数学A」		
			選択 1 つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から 2 科目	100 点	
					「化学」		
					「生物」		
					「物理」		
	大学入学共通テスト 利用選抜（後期）	6 名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	100 点	350 点
必須			面接	50 点			
選択 1 つを選択			国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100 点		
			数学	「数学Ⅰ・数学A」			
選択 1 つを選択			理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から 2 科目	100 点		
				「化学」			
				「生物」			
				「物理」			
				「地学」			

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

合計

(単位：名)

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	120	530	527	132
2022 年度	120	644	634	139
2021 年度	120	504	492	134

赤十字特別推薦選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	30 名程度	16	16	13
2022 年度	30 名程度	24	24	23
2021 年度	30 名程度	28	28	28

高等学校長推薦選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	30 名程度	31	31	29
2022 年度	30 名程度	51	51	46
2021 年度	30 名程度	42	41	36

社会人特別選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	2	1	1	1
2022 年度	2	2	2	2
2021 年度	2	0	0	0

大学独自選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	40	255	252	82
2022 年度	40	326	319	57
2021 年度	40	228	221	64

共通テスト 前期 A

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	6	123	123	3
2022 年度	6	103	103	5
2021 年度	6	108	108	3

共通テスト 前期 B

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	6	96	96	1
2022 年度	6	123	123	2
2021 年度	6	85	85	3

共通テスト 後期

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	6	8	8	3
2022 年度	6	15	12	4
2021 年度	6	13	9	0

3. 学生支援

1) 在籍学生数

(1) 在籍学生数（休学率・退学率・学位取得状況含む）

（単位：名）

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2022 年度入学生	139	139	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	-
2021 年度入学生	134	134	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	-
2020 年度入学生	129	125	1	0.8%	5	3.9%	6	4.8%	-
2019 年度入学生	131	131	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	131
2018 年度以前入学生	-	4	1	25.0%	-	-	1	25.0%	2
合計	-	533	2	0.4%	-	-	9	1.7%	133

(2) 卒業年限内の卒業率

（単位：名）

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2022 年度 末までに 修了した 学生数	③ ①のうち 2022 年度 末までに 退学した 学生数	④ ①のうち 2023 年度 現在在籍して いる学生数 (留年者数)	④' ④のうち在 学中に休学 した者を 除いた 留年者数	⑤' 2017年4月 入学者の 「標準修業 年限×1.5」 年内修了率	⑤ 標準修業年 限内修了率	⑥ 標準修業年 限を通じた 退学率
2019 年度入学生	4 年	131	131	0	0	0	98.5%	100.0%	0.0%

(3) 学位取得状況（取得者数）

2022 年度の学士（看護学）の授与者は 133 名であった。（2 名は 2018 年度入学生）

(4) 標準修業年限内修了率

2022 年度の標準修業年限内修了率は 100% であった。

2) チューター制度

教員と学生とのふれあいを通して学生生活を有意義に過ごすことができるように、また、学生の人格形成を援助していくことを目的としてチューター制度を設けている。

チューターである教員は、6～14 人の学生を受け持ち、各学生が勉学活動に意欲的に取り組み、自己の適性や将来の目標を考慮しながら自己決定できるように支援している。

3) オフィスアワー制度

学生が教員と自発的に交流や相談ができるよう、オフィスアワーを設定している。

オフィスアワーは学務システムポータルサイト（メソフィア）及び教員の研究室前の掲示により学生に周知している。

4) 特待生制度

この制度は、本学生に対し、特待生として授業料を免除することにより、勉学を奨励するとともに学習意欲の高揚及び優秀な学生の確保を図ることを目的とする。なお、制度の種類は以下の通りである。

(1) A 特待生

大学独自選抜の成績上位者であり、入学年度の年間授業料の全額が免除される者。

大学独自選抜の成績が上位 5 位までの者で、特待生となって入学する意思がある者を選定する。成績順位が同位の場合は、必須科目の合計点数が高い者を上位とする。

2022 年度の対象者は 1 名であった。

(2) B特待生

入学後の前年度学業成績が上位であり、年間授業料の後期納付額を免除される者。

入学後の学業成績において、前年度に履修した必修及び選択科目の全てが再履修することなく評価「B」以上であって、必修科目の評点合計が上位10位までの者のうち、面接を実施の上、総合評価が上位である者5名を選定する。成績順位が同位の場合は、修得単位数の多い者を上位とする。また、選考にあたっては、連続してB特待生となることは妨げない。

2022年度の対象者は15名（2年生5名、3年生5名、4年生5名）であった。

5) 奨学金制度（2022年度奨学生数）

(1) 赤十字病院（赤十字特別選抜・支部長推薦者除く）

（単位：名）

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院		10	12	4	26	4.9%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	8	12	14	9	43	8.1%
福井赤十字病院			1	2	3	0.6%
諏訪赤十字病院			2		2	0.4%
安曇野赤十字病院				1	1	0.2%
岐阜赤十字病院					0	0.0%
静岡赤十字病院	2	2		2	6	1.1%
浜松赤十字病院			1	1	2	0.4%
裾野赤十字病院					0	0.0%
伊勢赤十字病院	1	1		4	6	1.1%
岐阜県支部（岐阜・高山）	2	2	1	4	9	1.7%
大阪赤十字病院				1	1	0.2%
合計	13	27	31	28	99	18.6%

(2) 赤十字特別選抜・支部長推薦（愛知県支部はC特別奨学生を計上）

（単位：名）

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
愛知県支部	6	7	6	5	24	4.5%
富山県支部		2	1		3	0.6%
石川県支部			1	2	3	0.6%
福井県支部					0	0.0%
長野県支部	5	6	3	4	18	3.4%
岐阜県支部	2	3	3	4	12	2.3%
静岡県支部	6	9	6	8	29	5.5%
三重県支部	5	1	3	3	12	2.3%
合計	24	28	23	26	101	19.0%

(3) 日本赤十字社愛知県支部特別奨学金

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院（A 特別奨学生）					0	0.0%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院（B 特別奨学生）			1	2	3	0.6%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（A 特別奨学生）					0	0.0%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（B 特別奨学生）			2	2	4	0.8%
合計			3	4	7	1.3%

(4) その他病院

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
刈谷豊田総合病院		3	1	3	7	1.3%
豊川市民病院				1	1	0.2%
豊田厚生病院				2	2	0.4%
安城厚生病院				1	1	0.2%
合計	0	3	1	7	11	2.1%

(5) 病院以外の奨学金

(単位：名)

奨学金名	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
日本学生支援機構（第一種）	28	28	10	17	83	15.6%
日本学生支援機構（第二種）	26	23	22	21	92	17.3%
日本学生支援機構（給付型）	12	11	6	7	36	6.8%
日本学生支援機構（緊急特別無利子奨学金）					0	0.0%
日本赤十字看護師同方会	1	4	4		9	1.7%
岐阜県選奨生	1	1			2	0.4%
JEES・MUFG 緊急支援奨学金	3	1			4	0.8%
合計	71	68	42	45	226	42.5%

6) 自治会活動支援

自治会は学生相互の信頼を基盤とし、会員の自主的な活動によって学生生活の充実と向上を図り、さらに看護活動への関心を高めることを目的として活動している。

自治会の活動について、総会や選挙等の自治会行事が規約に則って活動できるよう支援を行った。2022 年度は 3 年ぶりにいとすぎ祭（大学祭）を開催した。また本学主催で六大学交流会をオンラインで開催した。

7) 国家試験支援体制・状況

国家試験対策委員会が国家試験模擬試験を計画・実施している。準備および運営は、国家試験対策系の学生が中心となって行っている。2022 年度は看護師模擬試験を 7 回、保健師模擬試験を 3 回実施し、看護師国家試験対策補講を 10 月から 1 月にかけて 19 コマ、保健師国家試験対策補講を 12 月に 4 コマ実施した。学生は計画的に学習を進められるよう「学習計画シート」をチューターと共有し、模擬試験で得点率の低い分野についてチューターから指導を受けている。

8) 国家試験合格状況一覧

(単位：名)

	総 数				新 卒				
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率
									全国合格率
第 112 回 看護師	134	134	131	97.8%	133	133	130	3	97.7%
									95.5%
第 109 回 保健師	23	23	23	100.0%	22	22	22	0	100.0%
									96.8%

9) キャリア支援体制・状況

年間を通じてチューターを中心に在学生の奨学金申請や病院採用試験のエントリーシートの記載方法や面接の受け方、学生に適した進路（就職先）をアドバイス、指導をおこなっている他、学年に応じた就職ガイダンスを実施している。

病院や企業、市町村からの奨学金や就職の募集は該当学年に周知する他、学生・キャリア支援室に掲示・ファイリングを行うなど積極的な広報に努めている。

奨学金・就職説明会を年 1 回開催しているが、2022 年度は新型コロナの影響により開催できなかった。

2022 年度就職ガイダンス一覧

(単位：名)

No	対象	日時	内容	実施方法	実施業者	参加人数
1	3 年生	2022 年 6 月 17 日 (金) 4 限	就活準備スタート アップ講座	対面	マイナビ	105
2	2 年生	2022 年 12 月 13 日 (火) 4 限	実習マナー講座	対面	マイナビ	43
3	3 年生	2023 年 1 月 11 日 (水) 5 限	履歴書、面接講座	対面	マイナビ	86

※今まで行っていた 1 年生へのメディアリテラシー・ストレスマネジメント講座（ナース専科）は参加者数が見込めないため開催しなかった。

10) 就職・進路状況一覧(2022 年度卒業生)

(1) 就職

(単位: 名)

中部ブロック赤十字病院	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
諏訪赤十字病院	長野県	諏訪市	3		3
安曇野赤十字病院	長野県	安曇野市	1		1
金沢赤十字病院	石川県	金沢市	2		2
福井赤十字病院	福井県	福井市	2		2
静岡赤十字病院	静岡県	静岡市	5		5
伊豆赤十字病院	静岡県	伊豆市	1		1
浜松赤十字病院	静岡県	浜松市	5		5
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	愛知県	名古屋市	7	10	17
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	愛知県	名古屋市	10	7	17
岐阜赤十字病院	岐阜県	岐阜市	3		3
高山赤十字病院	岐阜県	高山市	1		1
伊勢赤十字病院	三重県	伊勢市	7		7

その他の赤十字施設	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
横浜市立みなと赤十字病院	神奈川県	横浜市		1	1
さいたま赤十字病院	埼玉県	さいたま市		1	1
大阪赤十字病院	大阪府	大阪市	1	1	2

その他の病院	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
豊田厚生病院	愛知県	豊田市	1	3	4
刈谷豊田総合病院	愛知県	刈谷市	2	4	6
トヨタ記念病院	愛知県	豊田市		2	2
聖霊会聖霊病院	愛知県	名古屋市		1	1
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	愛知県	名古屋市		1	1
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	愛知県	名古屋市		1	1
名古屋大学医学部附属病院	愛知県	名古屋市		4	4
名古屋記念病院	愛知県	名古屋市		4	4
名古屋セントラル病院	愛知県	名古屋市		1	1
愛知県医療療育総合センター	愛知県	名古屋市		1	1
国立病院機構 名古屋医療センター	愛知県	名古屋市		1	1
大同病院	愛知県	名古屋市		1	1
名古屋市立大学病院	愛知県	名古屋市		2	2
中京病院	愛知県	名古屋市		1	1
あいち小児保健医療センター	愛知県	大府市		1	1
安城更生病院	愛知県	安城市	1	4	5
瀬戸みどりまち病院	愛知県	瀬戸市		1	1
春日井市民病院	愛知県	春日井市		1	1
一宮市立市民病院	愛知県	一宮市		1	1
総合大雄会病院	愛知県	一宮市		1	1
愛知医科大学病院	愛知県	長久手市		1	1
藤田医科大学病院	愛知県	豊明市		4	4
豊川市民病院	愛知県	豊川市	1		1
鈴鹿回生病院	三重県	鈴鹿市		1	1
京都府立医科大学附属病院	京都府	京都市		1	1
東京医科歯科大学病院	東京都	文京区		1	1
総合東京病院	東京都	中野区		1	1

国立国際医療研究センター病院	東京都	新宿区		1	1
横須賀市立うわまち病院	神奈川県	横須賀市		1	1
聖マリア病院	福岡県	久留米市		1	1
看護師 合計			53	68	121

保健師	都道府県	市町村		計
名古屋市役所	愛知県	名古屋市	1	1
豊明市役所	愛知県	豊明市	1	1
保健師 合計				2

養護教諭	都道府県	市町村		計
				0

(2) 進学・その他

(単位：名)

進学・その他	都道府県	市町村		計
日本赤十字社助産師学校	東京都	渋谷区	2	2
北海道教育大学	北海道	札幌市	1	1
人間環境大学大学院	愛知県	岡崎市	1	1
岐阜県立衛生専門学校	岐阜県	岐阜市	1	1
その他				5
進学、その他 合計				10

11) 2022 年度学生相談利用状況一覧

(1) 学年別 来談者数 (実人数)

(単位：名)

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	その他	合計
前期	3	10	4	1		18
後期	3	6	1	1		11

(2) 学生の月別相談回数 (累計)

(単位：名)

前期	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計
	13	8	15	8	0	5	49
後期	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
	11	6	7	3	2		29

12) 学生生活調査結果

自己点検・評価の一環として、年 1 回学生生活に関する調査（キャンパスライフアンケート）を実施している。

【調査対象】 後期に在籍する学部学生及び大学院生。ただし、休学者は対象から除外。

【調査方法】 Microsoft Forms を使用した自記式アンケート調査（無記名）

【実施期間】 2023 年 1 月 16 日（月）～ 2 月 10 日（金）

【回答率】 全体 48.4%（1 年生 82.7%・2 年生 32.4%・3 年生 49.2%・4 年生 29.1%）

【その他】 「メンタルヘルス相談」「ハラスメント相談」「健康相談」は利用度ではなく利便性を問いている

・ 1～5 の 5 段階評価とし、5 が最大評価値である

・ 分布図内のマーカーは、回答の平均値を示している

(1) アンケート結果の要約

本学のキャンパスライフについて、利用度・満足度ともに概ね高い評価結果であった。

①学部生の結果

全学年を通して、「図書館サービス」「大学からの各種情報提供」「自習環境」について、利用度・満足度ともに高い評価結果であった。満足度が最も高かったのは「図書館サービス」、利用度が最も高かったのは「大学からの各種情報提供」であった。

学年別の特徴は以下に述べる。

- ・1年生は、「大学からの各種情報提供」の評価が高く、全体的にも概ね高い評価であった。
- ・2年生は、「図書館サービス」「大学からの各種情報提供」の評価が高く、全体的にも概ね高い評価であった。
- ・3年生は、「図書館サービス」の評価が高く、全体的にも概ね高い評価であった。
- ・4年生は、「チューター制度」「国家試験模擬試験」が他学年と比べ利用度・満足度ともに非常に高い結果であった。

(2) 明らかになった課題と改善策

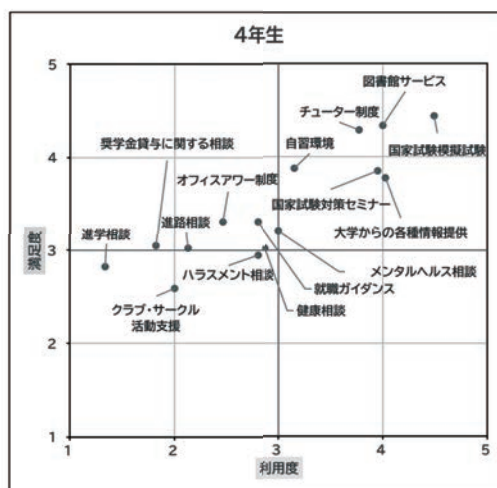
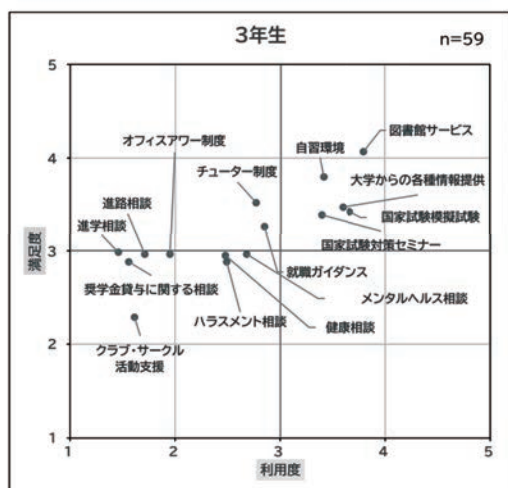
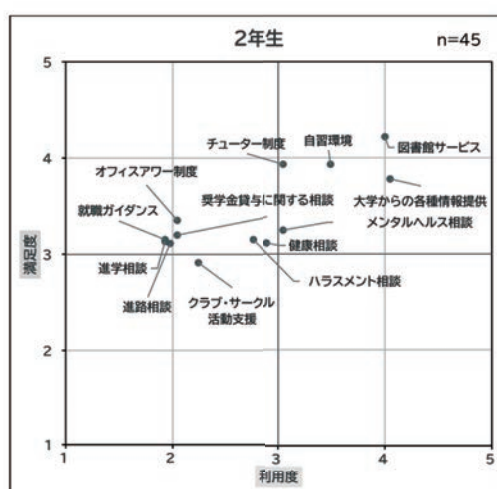
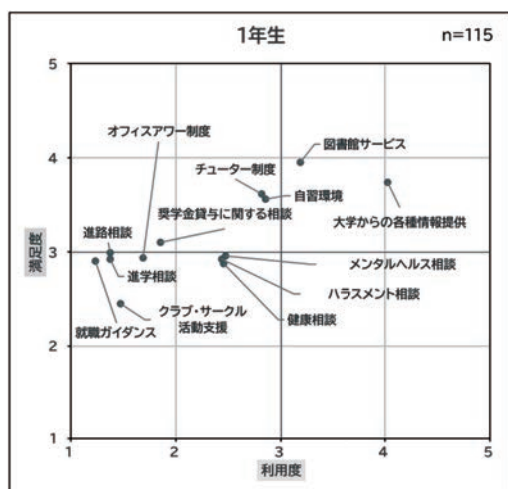
アンケート結果から、クラブ・サークル活動の支援の利用・満足の低さと、進学相談、進路相談の利用の低さが課題であることが明らかになった。以下の改善策に努めることとする。

①クラブ・サークル活動の支援

感染防止の観点から活動制限はあるものの、学生の意向を尊重しながら可能な範囲での活動について検討し実施する。

②進学相談、進路相談

進学相談・進路相談の利用方法について、在学生および新入生オリエンテーション等で案内する。また、学生食堂手前の「先輩からのメッセージコーナー」、ヘルスプロモーション内の「学生キャリア支援室」における進路や進学に関する各種情報のさらなる充実を図る。



(3) 次年度の改善事項

①クラブ・サークル活動の支援

感染拡大防止の観点から、活動制限はあるものの、学生間の交流の機会を設定できるよう、学生委員会が学生自治会役員等と話し合いの場をもち、具体的な対応方法を検討し適宜実行する。

②進学相談、進路相談

キャリアプランの支援について、教育改善学生委員会委員の学部学生と学生委員会委員等とで話し合いの場をもち、進学相談および進路相談の改善方法を協議し適宜実行に移す。

13) 後援会との連携

後援会は看護学部在学生の保護者を会員とし、大学に在学する学生の福利厚生の充実及び課外教育等の助成等を行うとともに、会員相互の親睦並びに本学の発展に寄与することを目的とする。

主な事業として、学生自治会の活動に対する支援（いとすぎ祭支援）と大学の教育研究活動に対する支援（実習用の機器備品購入）を行っている。2022年度は後援会からの助成により、母性看護学領域演習資材として胎児ドップラ1台と基礎看護学領域実習用として女性導尿・浣腸モデル4点を整備した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によりいとすぎ祭が縮小になったことから、学生支援を目的として45万円の寄附をいただいた。

2022年5月28日（土）に総会が開催された。

14) 同窓会との連携

同窓会は卒業生と在学生を会員とし、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与するとともに赤十字精神に基づき社会に貢献することを目的とする。主な事業として、卒業生と在学生との交流会（里帰りイベント）の実施、大学へ看護教育充実に必要な支援を行っている。

2022年度は同窓会活動委託費として100万円、教育環境整備事業として50万円の寄附をいただいた。また、2022年11月12日（土）に定期総会および里帰りイベント（講演会～ヒマラヤ8000m峰と看護～）が開催された。

Ⅳ 看護学研究科修士課程教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

本大学院は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人々の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的とする。

【教育目標】

- (1) 赤十字の基本原則を理解し、看護学の発展に寄与できる看護職者を育成する。
- (2) 看護学の専門分野における創造的な問題解決能力を有する研究・教育者を育成する。
- (3) 看護学の専門分野における卓越した実践能力を有する専門看護師・看護管理者を育成する。

2) ディプロマポリシー

修士課程に所定の期間在学し、本研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、論文の審査及び最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に、学位（修士（看護学））を授与する。

(1) 研究・教育者コース

- ① 赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- ② 看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。
- ③ 看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。
- ④ 研究内容を論理的に説明できる能力を有している。

(2) 専門看護師・認定看護管理者コース

- ① 赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- ② 専門領域における卓越した看護実践能力を有している。
- ③ 多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。
- ④ 看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。

3) 教育課程表

区分	分野	領域	授業科目	担当教員	形態：単位数 (時間数)			履修及び 修了要件	履修方法						
					講義	演習	実習		1 年生 2 年生						
									①	②	③	④			
共通科目	共通科目	必修共通科目	看護理論	村瀬智子、川原由佳里	2 (30)			各領域 共通 5 単位	2						
			看護倫理	山田聡子	1 (15)				1						
			赤十字と看護	小林洋子、大川四郎	2 (30)				2						
		選択共通科目	教育方法・評価論	龍崎忠	1 (15)			<研究・教育者コース> 「教育方法・評価論」を含む 9 単位以上 ただし、災害看護学領域は 8 単位以上 なお、成人看護学領域は「セルフマネ ジメント論」も必修とする <専門看護師コース> 合計 11 単位以上 ただし、「看護研究Ⅰ（概論）」「病態 生理学」「臨床薬理学」「ヘルスアセス メント」の計 7 単位を必修とし、「コ ンサルテーション論」「看護管理論」「看 護政策論」「現任教育論」の中から 4 単位以上 <認定看護管理者コース> 「看護研究Ⅰ（概論）」「コンサルテー ション論」「看護管理論」「看護政策論」 「現任教育論」を必修とした 6 単位以上	1						
			統計学Ⅰ	森田一三	2 (30)				2						
			統計学Ⅱ	森田一三	2 (30)					2					
			看護研究Ⅰ（概論）	野口眞弓	1 (15)				1						
			看護研究Ⅱ（量的研究法）	野口眞弓、森田一三	2 (30)				2						
			看護研究Ⅲ（質的研究法）	片岡純	2 (30)					2					
			セルフマネジメント論	鎌倉やよい	2 (30)					2					
			感染制御論	下間正隆、東野督子	2 (30)					2					
			病態生理学	巻野雄介、下間正隆、鎌倉やよい、 南谷志野、太田喜久夫	2 (30)				2						
			臨床薬理学	池田義明、山田浩雅	2 (30)				2						
			ヘルスアセスメント	中島佳緒里、山内豊明	2 (30)					2					
			コンサルテーション論	松浦正子、南谷志野、井上さよ子、 田崎あゆみ、木全美智代、長尾 大地、石川恵己	2 (30)					2					
			看護管理論	松浦正子、南谷志野	1 (15)				1						
			看護政策論	松浦正子、南谷志野	1 (15)					1					
			現任教育論	山田聡子	1 (15)					1					
		専門科目	基礎育成看護学	看護管理学	看護管理学特論	* 松浦正子、南谷志野	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位 *科目 <認定看護管理者コース> 必修 17 単位	2				
					人的資源管理論	* 松浦正子、南谷志野、勝原裕美子	2 (30)					2			
					保健医療福祉組織論	* 松浦正子、南谷志野	2 (30)				2				
					看護管理学演習	* 松浦正子、南谷志野		2 (60)				2			
					組織経営・経済論	松浦正子、米本倉基	2 (30)					2			
					医療安全論	松浦正子、飛田伊都子	1 (15)				1				
看護管理学実習Ⅰ	松浦正子、南谷志野						2 (90)				2				
看護管理学実習Ⅱ	松浦正子、南谷志野						2 (90)				2				
看護管理学実習Ⅲ	松浦正子、南谷志野						2 (90)				2				
看護教育・ 技術学	看護教育学特論				山田聡子	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2					
	看護技術学特論			中島佳緒里、巻野雄介	2 (30)					2					
	看護教育方法論			山田聡子、中島佳緒里、巻野雄介	2 (30)					2					
	看護教育・技術学演習			山田聡子、中島佳緒里、巻野雄介		2 (60)				2					
成人看護学	成人看護学特論			東野督子	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2						
	周術期ケア開発特論			東野督子	2 (30)					2					
	慢性病ケア開発特論			石黒千映子	2 (30)					2					
	成人看護学演習			東野督子		2 (60)				2					
母性看護学	母性看護学特論			野口眞弓、長田知恵子	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2						
	ウィメンズヘルス特論			野口眞弓、長田知恵子	2 (30)					2					
	周産期ケア開発特論			野口眞弓、長田知恵子	2 (30)				2						
	母性看護学演習			野口眞弓、長田知恵子		2 (60)				2					
ケア創生看護学	小児看護学			小児看護学特論	* ※ 大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位 *科目	2					
				小児看護学成長発達論	* ※ 大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)				2					
				小児看護学評価方法論	* ※ 大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)					2				
		小児看護学演習	* 大西文子、岡田摩理、神道那実		2 (60)			2							
	小児看護学	小児看護支援論	※ 大西文子、岡田摩理、神道那実、 山崎嘉久	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位 *科目		2						
		小児看護ヘルス・アセスメント論	※ 大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)					2						
		小児の病態と治療	※ 後藤芳充、神田康司、石井睦夫、 犬飼幸子、山田崇春、圓若かおり	2 (30)					2						
		小児 CNS 機能と役割演習	※ 大西文子、岡田摩理、神道那実、 太田有美、田崎あゆみ、深谷基裕、 加藤美也子		2 (60)				2						
		小児看護学実習Ⅰ	※ 大西文子、岡田摩理、神道那実			2 (90)	<専門看護師コース> 必修 24 単位 ※科目		2						
		小児看護学実習Ⅱ（CNS 機能と 役割実習）	※ 大西文子、岡田摩理、神道那実			2 (90)				2					
		小児看護学実習Ⅲ（小児看護高 度実践実習）	※ 大西文子、岡田摩理、神道那実			4 (180)				4					
		小児看護学実習Ⅳ（小児看護高 度実践統合実習）	※ 大西文子、岡田摩理、神道那実		2 (90)						2				

Ⅳ 看護学研究科修士課程教育活動

区分	分野	領域	授業科目	担当教員	形態：単位数 (時間数)			履修及び 修了要件	履修方法			
					講義	演習	実習		1 年生	2 年生	①	②
専門科目	地域共生看護学	老年・在宅看護学	老年・在宅看護学特論	百瀬由美子、小林尚司、清水みどり	2 (30)			< 研究・教育者コース > 必修 8 単位	2			
			認知症ケア特論	百瀬由美子、小林尚司、清水みどり	2 (30)				2			
			老年・在宅療養者共生支援論	百瀬由美子、小林尚司、清水みどり	2 (30)				2			
			老年・在宅看護学演習	百瀬由美子、小林尚司、清水みどり		2 (60)			2			
		精神看護学	精神保健医療論 ※※	原田真澄	2 (30)			2				
			精神健康行動評価論 ※※	原田真澄、服部希恵	2 (30)			2				
			精神看護学地域共生論 ※	原田真澄	2 (30)				2			
			精神看護学演習 ※	原田真澄		2 (60)			2			
			精神科治療と看護 ※	原田真澄、石黒千映子、平野千晶、山田浩雅、加藤明美	2 (30)			2				
			精神健康行動ケア特論 ※	原田真澄、服部希恵、牛山喜久恵	2 (30)				2			
			リエゾン精神看護論 ※	原田真澄、服部希恵、平野千晶	2 (30)				2			
			精神科治療と看護演習 ※	原田真澄、平野千晶		2 (60)			2			
			精神看護援助方法の開発演習 ※	原田真澄、服部希恵		2 (60)				2		
			精神看護学高度実践実習Ⅰ ※	原田真澄			2 (90)		2			
			精神看護学高度実践実習Ⅱ ※	原田真澄			2 (90)			2		
			精神看護学高度実践実習Ⅲ ※	原田真澄			2 (90)				2	
			精神看護学高度実践実習Ⅳ ※	原田真澄			4 (180)				4	
		地域看護学	地域看護学特論	長谷川喜代美、森田一三、小林尚司、岡田摩理、清水美代子	2 (30)				2			
			コミュニティアセスメント論	長谷川喜代美、森田一三、清水美代子	2 (30)					2		
			地域共生ケアシステム論	長谷川喜代美、清水美代子	2 (30)					2		
			地域看護学演習	長谷川喜代美、森田一三、清水美代子		2 (60)				2		
		災害看護学	災害看護学特論	小林洋子、花木芳洋	1 (15)				1			
			災害と法律・制度	小林洋子、山崎栄一	2 (30)				2			
			災害看護学対象論	小林洋子、村瀬智子、長尾佳世子	2 (30)				2			
			災害看護学援助論Ⅰ	小林洋子、長尾佳世子、下間正隆、花木芳洋	2 (30)				2			
			災害看護学援助論Ⅱ	小林洋子、長尾佳世子	1 (15)					1		
			災害看護学演習	小林洋子、長尾佳世子		2 (60)				2		
			災害看護学実習	小林洋子、長尾佳世子			1 (45)				1	
研究	課題研究	松浦正子、大西文子、岡田摩理、南谷志野、原田真澄		2 (60)		< 専門看護師・認定看護管理者コース > 必修 2 単位		2				
	特別研究	山田聡子、鎌倉やよい、松浦正子、東野督子、野口真弓、大西文子、岡田摩理、長谷川喜代美、百瀬由美子、小林尚司、森田一三、小林洋子、南谷志野、中島佳緒里、荻野雄介、長田知恵子、神道那実、原田真澄、清水みどり、清水美代子、下間正隆		8 (240)		< 研究・教育者コース > 必修 8 単位			8			
修了要件								< 研究・教育者コース > 30 単位以上 < 専門看護師コース > 42 単位以上 < 認定看護管理者コース > 30 単位以上				

4) カリキュラムポリシー

教育目的・目標を達成し、ディプロマポリシーに掲げる人材を育成するために、共通科目と専門科目を体系的に編成し、以下の方針に基づいた教育課程を展開する。

(1) 共通科目

共通科目は、必修共通科目と選択共通科目で編成する。

- ①必修共通科目は、看護学を探究し卓越した看護実践を展開するための基盤となる「看護理論」と「看護倫理」、赤十字の基本原則に対する理解を深めるための「赤十字と看護」からなる。
- ②選択共通科目は、研究能力を育成するための「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」「看護研究Ⅲ」と「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」、教育能力を育成するための「教育方法・評価論」「現任教育論」、卓越した看護実践能力を育成するための「病態生理学」「臨床薬理学」「ヘルスアセスメント」と実践の基本となる「セルフマネジメント論」「感染制御論」、多職種・多機関と協働する能力と組織内外の調整能力を育成するための「コンサルテーション論」「看護管理論」「看護政策論」からなる。

(2) 専門科目

専門科目は3分野9領域で編成し、学生の目的に合わせた3コースを設けている。

①分野・領域

ア 基盤育成看護学分野

看護実践の基盤となる能力の育成と看護技術の開発・評価およびマネジメント能力の育成を目指す分野であり、看護管理学領域と看護教育・技術学領域から構成されており各領域の専門性を探究するための科目で編成している。

イ ケア創生看護学分野

根拠に基づきケアを創り出し看護実践の発展を目指す分野であり、成人看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域から構成されており各領域の専門性を探究するための科目で編成している。

ウ 地域共生看護学分野

地域で暮らす多様な人々との共生を目指したケアを開発する分野であり、老年・在宅看護学領域、精神看護学領域、地域看護学領域、災害看護学領域から構成されており各領域の専門性を探究するための科目で編成している。

②コース

ア 研究・教育者コース

分野・領域での専門性を高め、研究者・教育者として看護学の発展に寄与できる能力の育成を目指すコースである。すべての領域にコースを設定している。研究・教育者コースは各領域の講義・演習科目により最新の専門知識を深め、「特別研究」で専門領域における研究能力を育成する。

イ 専門看護師コース

日本看護系大学協議会の認可を受けた高度実践看護師教育課程であり、専門看護師を目指すコースである。小児看護学領域と精神看護学領域にコースを設定している。各領域の講義・演習・実習科目により卓越した実践能力を育成し、「課題研究」で看護実践上の課題を解決するための研究能力を育成する。

ウ 認定看護管理者コース

卓越した見識と管理能力をもった認定看護管理者を目指すコースである。看護管理学領域にコースを設定している。講義・演習・実習科目により卓越した管理能力を育成し、「課題研究」で看護管理上の課題を解決するための研究能力を育成する。

5) カリキュラムマップ

ディプロマポリシー				コース共通	研究・教育者コース			専門看護師・認定看護管理者コース		
				赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。	看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。	看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。	研究内容を論理的に説明できる能力を有している。	専門領域における卓越した看護実践能力を有している。	多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。	看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。
		科目名	開講期	◎学修成果を高めるために履修を特に求める科目 ○学修成果を高めるために履修が望ましい科目						
共通科目	必修共通科目	看護理論	1		◎	○	○	◎	○	○
		看護倫理	2	◎	○	○		◎	○	○
		赤十字と看護	2	◎						
	選択共通科目	教育方法・評価論	1			◎				
		統計学Ⅰ	1		◎					◎
		統計学Ⅱ	2		◎					○
		看護研究Ⅰ（概論）	1		◎					◎
		看護研究Ⅱ（量的研究法）	1		◎					○
		看護研究Ⅲ（質的研究法）	2		◎					○
		セルフマネジメント論	2		◎			◎		
		感染制御論	1					◎		
		病態生理学	1					◎		
		臨床薬理学	1					◎		
		ヘルスアセスメント	2					◎		
		コンサルテーション論	2						◎	
		看護管理論	1			◎		◎	○	
		看護政策論	2		○				◎	
		現任教育論	2			◎			◎	
基盤育成看護学	看護管理学	看護管理学特論	1		◎			◎		
		人的資源管理論	2			◎	○	◎		○
		保健医療福祉組織論	1			○			◎	
		看護管理学演習	2				◎			◎
		組織経営・経済論	2					◎		
		医療安全論	1						◎	
		看護管理学実習Ⅰ	3・4					◎	○	
		看護管理学実習Ⅱ	3・4					◎	○	
		看護管理学実習Ⅲ	3・4					◎	○	
	看護教育・技術学	看護教育学特論	1		◎	◎	○			
		看護技術学特論	2		◎		○			
		看護教育方法論	2		◎	◎	○			
		看護教育・技術学演習	2		○		◎			
ケア創生看護学	成人看護学	成人看護学特論	1		◎		○			
		周術期ケア開発特論	2		◎		○			
		慢性病ケア開発特論	2		◎		○			
		成人看護学演習	2		○		◎			
	母性看護学	母性看護学特論	1		◎		○			
		ウィメンズヘルス特論	2		◎		○			
		周産期ケア開発特論	1		◎		○			
		母性看護学演習	2		○		◎			

ディプロマポリシー			コース共通	研究・教育者コース			専門看護師・認定看護管理者コース		
			赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。	看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。	看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。	研究内容を論理的に説明できる能力を有している。	専門領域における卓越した看護実践能力を有している。	多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。	看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。
		科目名	開講期	◎学修成果を高めるために履修を特に求める科目 ○学修成果を高めるために履修が望ましい科目					
ケア創生看護学	小児看護学	小児看護学特論	1		◎		○	◎	○
		小児看護学成長発達論	1		◎		○	◎	○
		小児看護学評価方法論	2		◎		○	◎	○
		小児看護学演習	2		○		◎		
		小児看護支援論	2					◎	○
		小児看護ヘルス・アセスメント論	2					◎	○
		小児の病態と治療	2					◎	○
		小児 CNS 機能と役割演習	2					◎	○
		小児看護学実習Ⅰ	2					◎	○
		小児看護学実習Ⅱ（CNS 機能と役割実習）	3					◎	◎
		小児看護学実習Ⅲ（小児看護高度実践実習）	3					◎	◎
		小児看護学実習Ⅳ（小児看護高度実践統合実習）	3・4					◎	◎
地域共生看護学	老年・在宅看護学	老年・在宅看護学特論	1		◎		○		
		認知症ケア特論	2		◎		○		
		老年・在宅療養者共生支援論	1		◎		○		
		老年・在宅看護学演習	2		○		◎		
	精神看護学	精神保健医療論	1		◎		○	◎	○
		精神健康行動評価論	1		◎		○	◎	○
		精神看護学地域共生論	2		◎		○		
		精神看護学演習	2		○		◎		
		精神科治療と看護	1					◎	○
		精神健康行動ケア特論	2					◎	○
		リエゾン精神看護論	2					◎	○
		精神科治療と看護演習	2					○	◎
		精神看護援助方法の開発演習	2-4					○	◎
		精神看護学高度実践実習Ⅰ	2・3					◎	◎
		精神看護学高度実践実習Ⅱ	2・3					◎	◎
		精神看護学高度実践実習Ⅲ	2-4					◎	○
		精神看護学高度実践実習Ⅳ	2-4					◎	◎
	地域看護学	地域看護学特論	1		◎		○		
		コミュニティアセスメント論	2		◎		○		
		地域共生ケアシステム論	2		◎		○		
		地域看護学演習	2		○		◎		
	災害看護学	災害看護学特論	1		◎		○		
		災害と法律・制度	1		◎				
		災害看護学対象論	1		◎		○		
		災害看護学援助論Ⅰ	1		◎				
		災害看護学援助論Ⅱ	2		◎	○			
		災害看護学演習	2		○		◎		
		災害看護学実習	2-4		◎	○			
研究		課題研究	1-4					◎	○
		特別研究	1-4		◎		◎		◎

6) 2022 年度 実習施設一覧

No.	実習施設名	実習科目名
1	愛知医科大学病院	看護管理学実習Ⅰ
2	名古屋大学医学部附属病院	看護管理学実習Ⅱ
3	愛知県がんセンター	看護管理学実習Ⅲ

7) 研究指導教員一覧

領域・分野		職 位	氏 名	資格	研究指導 担当学生数		研究計画・論文審査 担当学生数	
					主指導	副指導	主査	副査
		学 長	鎌 倉 やよい	主	0名	0名	0名	0名
看護学 基盤育成	看護管理学	教 授	松 浦 正 子	主	7名	0名	1名	3名
		准教授	南 谷 志 野	副	-	7名	-	-
	看護教育・技術学	教 授	山 田 聡 子	主	6名	0名	1名	3名
		准教授	中 島 佳緒里	副	-	5名	-	-
		准教授	荻 野 雄 介	副	-	1名	-	-
ケア創生看護学	成人看護学	教 授	東 野 督 子	主	1名	0名	0名	0名
	母性看護学	教 授	野 口 眞 弓	主	0名	1名	0名	2名
		准教授	長 田 知恵子	副	-	0名	-	-
	小児看護学	特任教授	大 西 文 子	主	3名	1名	0名	1名
		教 授	岡 田 摩 理	主	1名	2名	0名	0名
		准教授	神 道 那 実	副	0名	1名	0名	0名
地域共生看護学	老年・在宅看護学	教 授	小 林 尚 司	主	0名	0名	2名	1名
		准教授	清 水 みどり	副	-	0名	-	-
	精神看護学	准教授	原 田 真 澄	副	-	0名	-	-
	地域看護学	教 授	長谷川 喜代美	主	0名	0名	1名	1名
		教 授	森 田 一 三	主	0名	0名	0名	3名
	災害看護学	特任教授	小 林 洋 子	主	0名	0名	2名	0名

8) 研究指導関係スケジュール

日程	研究指導活動	
	M1	M2
4月9日	論文オリエンテーション	
4月20日	指導教員及び副指導教員の決定	
6月27日		研究計画発表会資料提出期日
7月6日		(研究計画発表会) *
7月27日		(研究計画・論文審査委員の決定) *
7月6日～ 8月31日		(研究計画審査申請) *
10月7日	仮研究テーマ(仮研究課題)の提出期日	
11月18日		修士論文・課題研究論文 審査申請届提出期日
12月16日		修士論文・課題研究論文 提出期日
1月20日		修士論文・課題研究論文発表会
12月19日～ 2月13日		修士論文・課題研究論文審査及び最終試験
2月22日		学位授与判定
2月24日		学位授与判定結果の公示
3月15日		学位記授与式

* 2022 年度は対象者なし

- ・指導教員・副指導教員：2022年度入学生の指導教員1名、副指導教員1名を決定した。
- ・仮研究テーマ：1年次の学生9名から仮研究テーマ（仮研究課題）が提出された。
- ・研究計画発表会：修士課程学位審査規程第5条に基づき、発表会を実施した。7月の研究計画発表会は、発表者がいなかったため開催しなかった。1月の研究計画発表会（発表者2名）は、教員34名（内5名遠隔）、院生20名（内2名遠隔）、職員2名の計56名が参加した。
- ・審査委員会：修士課程学位審査規程第2条に基づき、研究計画発表会を終えた学生（1月発表者2名）にかかる主査1名及び副査2名をそれぞれ決定した。
- ・研究計画審査：修士課程学位審査規程第6条に基づき、研究計画発表会を終えた学生（1月発表者2名）全員から研究計画審査申請があった。審査委員会による審査を継続中。
- ・研究実施許可：修士課程学位審査規程第10条に基づき、研究倫理審査を受審し、年度内に承認を受けた4名に対し、審査委員会から研究実施許可を行った。
- ・学位審査：
 - （9月修了）9月修了にかかる学位審査申請はなかった。
 - （3月修了）修士課程学位審査規程第2条に基づき、審査申請届の提出のあった学生6名（修士論文3題、課題研究論文3題）のうち、5名より修士論文・課題研究論文提出期日までに論文が提出され、1月に論文発表会を実施した。同規程第14条、第15条に基づき審査委員会による審査及び最終試験を行い、学位授与判定研究科委員会において審査委員会からの結果報告に基づき5名の学位授与を決定した。

9) 学位論文審査基準

【修士論文】

- (1) 表題が内容を適切に表現している。
- (2) 研究動機や意義が明確である。
- (3) 十分な範囲の関連文献が検討されている。
- (4) 研究目的が明確である。
- (5) 研究方法が妥当である。
- (6) 十分なデータ数が得られている。
- (7) 倫理的配慮が適切である。
- (8) 目的に沿った結果が示されている。
- (9) 客観的にデータが示されている。
- (10) 目的と結果及び考察に一貫性がある。
- (11) 得られた結果についての解釈や意味づけが示されている。
- (12) 関連文献と照合して考察している。
- (13) 結論が簡潔に述べられている。
- (14) 抄録が適切である。
- (15) 論文内容に学術的価値があり、看護学及び看護実践に貢献できる。
- (16) 論文の形式的条件が整備されている。

【課題研究論文】

- (1) 表題が内容を適切に表現している。
- (2) 看護実践上の課題に基づき、課題の背景が明確である。
- (3) 看護実践上の意義が明確である。
- (4) 研究目的が明確である。
- (5) 研究方法が妥当である。
- (6) 倫理的配慮が適切である。
- (7) 目的に沿った結果が示されている。
- (8) 客観的にデータが示されている。
- (9) 目的と結果及び考察に一貫性がある。
- (10) 得られた結果についての解釈や意味づけが示されている。
- (11) 関連文献と照合して考察している。

- (12) 結論が簡潔に述べられている。
- (13) 抄録が適切である。
- (14) 論文内容に看護実践上の価値がある。
- (15) 論文の形式的条件が整備されている。

10) 2022 年度 修士論文テーマ一覧

研究・教育者コース

領域・分野	タイトル
看護管理学領域	手術室看護師による術前看護の実践状況と関連要因
小児看護学領域	一般病院小児病棟のレスパイトケアにおける看護の実態および看護師の認識と困難感
看護教育・技術学領域	実地指導者役割の遂行状況と支援の関連

専門看護師・認定看護管理者コース

領域・分野	タイトル
看護管理学領域	専従医療安全管理者の経験を有する看護師長の病棟における医療安全管理
看護管理学領域	日本赤十字社に所属する看護管理者ではない看護職の事業管理要員としての国際活動

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

- (1) 本学の建学の精神に共感できる人
- (2) 専門分野における基礎知識を有している人
- (3) 科学論文を理解するための基礎的な英語力を有している人
- (4) 論文作成の基盤となる文章の読解力と論述力を有している人
- (5) 基礎的な看護実践能力を有している人
- (6) 将来的に看護研究者・実践者として貢献する意志のある人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

試験種別	募集定員	必須・選択	科目
一般入学試験	10 名	必須	外国語（英語）
			専門科目（小論文）
推薦入学試験※			面接

※ 学校法人日本赤十字学園が設置する大学卒業生、または、赤十字施設へ勤務しており、かつ看護部長等からの推薦のある方が対象となる。試験科目のうち外国語（英語）が免除される。

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

（単位：名）

年度		定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	第 1 回	10	1	1	1
	第 2 回		3	3	3
2022 年度	第 1 回	10	2	2	2
	第 2 回		7	7	7
2021 年度	第 1 回	10	2	2	2
	第 2 回		1	1	1

4) 科目等履修生

(1) 出願資格認定審査申請期間

前期科目：2022 年 1 月 4 日（火）～ 2022 年 1 月 20 日（木）

後期科目：2022 年 7 月 11 日（月）～ 2022 年 7 月 28 日（木）

(2) 出願期間

前期科目：2022 年 1 月 20 日（木）～ 2022 年 2 月 3 日（木）

後期科目：2022 年 7 月 25 日（月）～ 2022 年 8 月 18 日（木）

(3) 選考方法：書類審査

(4) 出願者数及び入学者数（過去 3 年）

（単位：名）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
出願者数	4	4	6
入学者数	2	4	6

5) 履修証明プログラム

(1) 出願資格認定審査申請期間

2022 年 1 月 4 日（火）～ 2022 年 1 月 20 日（木）

(2) 出願期間

2022 年 1 月 20 日（木）～ 2022 年 2 月 3 日（木）

(3) 選考方法：書類審査

(4) 出願者数及び入学者数（過去 3 年）

(単位：名)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
出願者数	0	1	2
入学者数	0	1	2
在学者数	0	1	3

6) 研究生

(1) 出願期間：2022 年 1 月 4 日（火）～ 2022 年 1 月 31 日（月）

(2) 選考方法：書類審査

(3) 出願者数及び入学者数（過去 3 年）

(単位：名)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
出願者数	2	0	0
入学者数	2	0	0
在学者数	0	1	0

3. 学生支援

平日夜間・土曜、また一部科目ではオンラインを活用した開講に加えて、2年分の学費で3年での履修を可能とする長期履修制度、自習スペースとしても活用できる日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院敷地内に立地するサテライトキャンパスの整備、学外からの文献検索を可能とするVPNライセンスの付与など、様々な方面から院生の働きながらの学びを支援した。

1) 在籍学生数（休学率・退学率・学位取得状況含む）

(単位：名)

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2022年度入学生	9	9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2021年度入学生	3	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
2020年度入学生	4	4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
2019年度以前入学生	-	2	0	0.0%	-	-	0	0.0%	1
合計	-	18	0	0.0%	-	-	0	0.0%	5

2) 修業年限内の修了率

(単位：名)

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2022年度末までに修了した学生数	③ ①のうち 2022年度末までに退学した学生数	④ ①のうち 2023年度現在在籍している学生数 (留年者数)	④' ④のうち在学中に休学した者を除いた留年者数	⑤ 標準修業年限内修了率	⑥ 標準修業年限を通じた退学率
2021年度入学生 (長期履修者除く)	2年	1	1	0	0	0	100.0%	0.0%
2020年度入学生 (長期履修者のみ)	2→3年	4	3	0	1	1	75.0%	0.0%

3) 研究費助成制度・獲得状況

2022年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による教育・研究事業（学長裁量事業）

	研究テーマ	領域	研究者	交付金額
1	実地指導者役割の遂行状況と支援の関連	看護教育・技術学	福岡友理恵	180,000円
2	一般病院小児病棟のレスパイトケアにおける看護についての看護師の認識	小児看護学	外山さゆり	127,100円
3	手術室看護師の術前看護の実践状況と影響要因	看護管理学	田野辺和美	146,000円
4	看護師の学習ニーズと組織文化の関連	看護管理学	小園 利加	98,000円

4) 就職・進路状況

2022年度修了生はすべて有職学生であった。2022年度修了生のうち進学者はいなかった。

5) 専門看護師（CNS）・認定看護管理者の資格取得状況一覧

資格	分野	課程（単位数）	2022年度取得者数	累計取得者数 (2022年度取得者数再掲)
専門看護師（CNS）	母性看護	26単位※	0名	4名
専門看護師（CNS）	小児看護	26単位※	0名	4名
専門看護師（CNS）	小児看護	38単位	1名	1名
専門看護師（CNS）	精神看護	26単位※	0名	2名
認定看護管理者			1名	5名

※ 26単位課程の修了による審査申請は2023年度まで

6) 修士論文投稿状況一覧

修了年度	入学年度	領域・分野	論文の投稿状況
2020年度 (2021.3.修了)	2017年度 (8期生)	看護管理学領域看護管理学分野	準備中(第25回日本看護管理学会学術集会(2021年)で発表済み)
	2018年度 (9期生)	臨床実践看護学領域精神看護学分野	準備中
		臨床実践看護学領域小児看護学分野	準備中
	2019年度 (10期生)	基盤育成看護学分野看護教育・技術学領域	日本看護学教育学会誌に掲載決定(掲載待ち)
2021年度 (2022.3.修了)	2018年度 (9期生)	臨床実践看護学領域精神看護学分野	準備中
		臨床実践看護学領域母性看護学分野	準備中
	2019年度 (10期生)	ケア創生看護学分野成人看護学領域	準備中(学会発表済)
		基盤育成看護学分野看護管理学領域	準備中(第26回日本看護管理学会学術集会(2022年)で発表済み)
		ケア創生看護学分野小児看護学領域	準備中(日本小児看護学会(2022年)で発表済み)
		ケア創生看護学分野小児看護学領域	準備中(日本小児看護学会(2022年)で発表済み)
		地域共生看護学分野老年・在宅看護学領域	準備中(第16回日本慢性看護学会学術集会(2022年)で発表済み)

7) 学生生活調査結果

自己点検・評価の一環として、年1回学生生活に関する調査(キャンパスライフアンケート)を実施している。

【調査対象】後期に在籍する学部学生及び大学院生。ただし、休学者は対象から除外。

【調査方法】Microsoft Formsを使用した自記式アンケート調査(無記名)

【実施期間】2023年1月16日(月)～2月10日(金)

【回答率】大学院生 40.5%

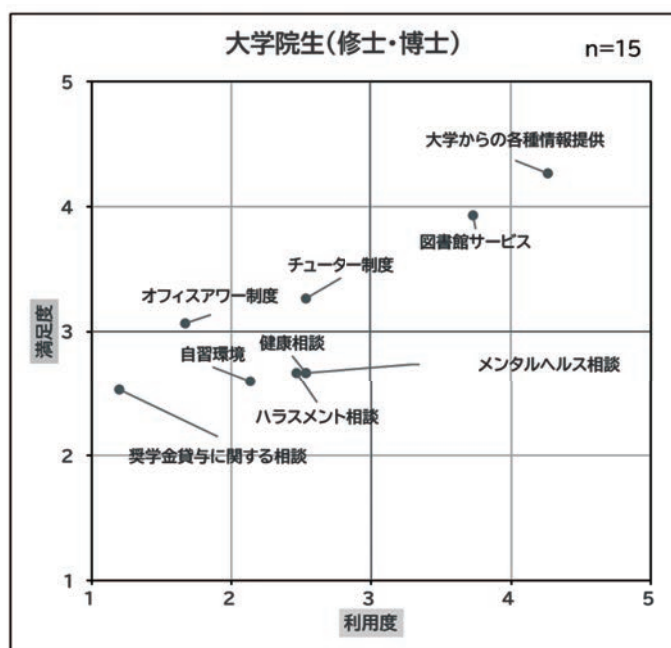
【その他】・「メンタルヘルス相談」「ハラスメント相談」「健康相談」は利用度ではなく利便性を問いている

・1～5の5段階評価とし、5が最大評価値である

・分布図内のマーカーは、回答の平均値を示している

(1) 大学院生の結果

「図書館サービス」「大学からの各種情報提供」の満足度・利用度が高い結果であった。



V 看護学研究科博士後期課程教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

赤十字の理念である「人道 (humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することを共通の理念としている。さらに、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材の育成を目指す。

【教育目標】

- (1) 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- (2) 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- (3) 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- (4) 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

2) ディプロマポリシー

修了要件となる単位を取得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、次の条件を満たすものに博士（看護学）の学位を授与する。

- (1) 看護学において、高度な専門的業務に従事する上で必要な学識・技術・応用力に基づいて、自立的な研究活動を担える能力を有している。
- (2) 高度な専門性と倫理観を有した、実践者、指導者、管理者、教育者、研究者として、多角的なリーダーシップを発揮できる資質と力量を有している。

3) 教育課程表

区分	授業科目	担当教員	配当年次	単位数		授業形態	
				必修	選択	講義	演習
共通科目	看護理論	村瀬智子	1・2 前		1	○	
	赤十字人道援助論	井上忠男	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅰ（実験研究）	根本昌宏、村林宏、姫野稔子	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅱ（臨床介入研究）	伊藤善也、百田武司	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅲ（尺度開発）	河口てる子、西片久美子	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅳ（質的研究）	石崎智子、山田典子	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅴ（文化人類学的研究）		1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅵ（理論構築）	河口てる子	1・2 後		1	○	
	臨床倫理論	柳井圭子、石崎智子	1・2 後		1	○	
	小計 (9 科目)				9		
専門科目	看護人材開発特論	山田聡子、本田多美枝、柳井圭子、松浦正子	1・2 前		2	○	
	療養生活看護学特論 A・B	河口てる子、西片久美子、石崎智子 山田典子、高田由美、高橋清美、姫野稔子	1・2 前		2	○	
	生涯発達看護学特論	野口眞弓、志賀くに子、永松美雪、大西文子、 志賀加奈子	1・2 前		2	○	
	実践看護学特論	百田武司、鎌倉やよい、小松浩子	1・2 前		2	○	
	広域連携看護学特論		1・2 前		2	○	
	災害救護特論	中信利恵子、田村由美、渡邊智恵	1・2 前		2	○	
	健康科学特論	山本憲志、森田一三、長谷川喜代美	1・2 前		2	○	
	小計 (7 科目)				14		
演習	看護学演習	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、百瀬由美子、 山田聡子、野口眞弓、大西文子、東野督子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、櫻本秀明、高橋清美、 永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	1 通	2			○
	小計 (1 科目)			2			
ゼミナール 合同研究	合同研究ゼミナール	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、百瀬由美子、 山田聡子、野口眞弓、大西文子、東野督子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、櫻本秀明、高橋清美、 永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	1 後	1			○
	小計 (1 科目)			1			
特別研究	特別研究	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、百瀬由美子、 山田聡子、野口眞弓、大西文子、東野督子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、櫻本秀明、高橋清美、 永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	2 ～ 2 通	8			○
	小計 (1 科目)			8			
	合計 (19 科目)			11	23		

修了要件：15 単位以上（共通科目から 2 単位以上、専門科目から 2 単位以上、必修科目 11 単位）を修得していること。

4) カリキュラムポリシー

共同看護学専攻の設置の趣旨及び教育目標を達成するため、科目区分を設け必要な授業科目を配置するとともに、当該科目区分ごとに履修要件単位数を定め、体系的なコースワークによる教育課程を編成している。

- (1) 看護学を導く理論を探究するとともに、高度な実践知を基盤とした理論を構築するための方法及び研究方法を学修し、博士学位論文の作成に結びつけるために共通科目をおく。
- (2) 看護における知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力を身につけ、広範な健康問題や看護課題について実践的な研究を行うために専門科目をおく。
- (3) 自らの研究テーマに関わる事例や先行研究を分析し、課題解決のための理論と方法論、技法について実証的に研究する手法を探究するために演習をおく。
- (4) 博士学位論文作成に向け、専門領域の垣根を越え異なる専門性の観点から、実現可能な研究に向けての方向性を明確化するために合同研究ゼミナールをおく。
- (5) 保健・医療・福祉の場で科学的視点を持ち教育・研究能力が発揮できる高度専門職業人に必要な研究能力の修得を目指すために特別研究をおく。

5) 研究指導教員一覧

職位	氏名	資格	研究指導		研究計画・論文審査	
			主指導	副指導	主査	副査
学長	鎌倉 やよい	主	4名	4名	1名	7名
教授	百瀬 由美子	主	0名	3名	1名	0名
教授	山田 聡子	主	3名	7名	2名	7名
教授	野口 眞弓	主	3名	1名	0名	6名
特任教授	大西 文子	主	3名	1名	1名	2名
教授	東野 督子	主	0名	0名	1名	3名
教授	森田 一三	副	-	1名	-	-
教授	長谷川 喜代美	副	-	-	-	-

6) 研究指導関係スケジュール

日程	D1	D2、3
4/2 (土) 4/9 (土)	オリエンテーション（研究指導體制、看護学演習、研究倫理審査、特別研究報告書について）	オリエンテーション（研究計画書の提出、研究倫理審査、博士論文・審査願の提出について）
4/15 (金)		研究計画書提出①
4/21 (木)	主指導教員の決定（連絡協議会）	研究計画審査員の決定（連絡協議会）①
5/6 (金)		博士論文・審査願提出①
5/20 (金)～21 (土)	合同ガイダンス	
5/21 (土)～22 (日)		研究計画審査①、博士論文審査①
6/10 (金)		研究計画書提出②
6/16 (木)		研究計画審査員の決定（連絡協議会）②
7/8 (金)～9 (土)		研究計画審査②
9/9 (金)		研究計画書提出③
9/15 (木)		研究計画審査員の決定（連絡協議会）③
10/21 (金)	合同研究ゼミナール	
11/1 (月)		博士論文・審査願提出②
11/17 (木)	第1副指導教員の決定（連絡協議会）	
11/25 (金)～26 (土)		博士論文審査②
12/15 (木)	第2副指導教員の決定（連絡協議会）	
1/13 (金)		研究計画書提出④
1/19 (木)		研究計画審査員の決定（連絡協議会）④
2/9 (金)		特別研究報告書提出
2/18 (木)		修了判定（連絡協議会）
2/18 (土)～19 (日)		研究計画審査④
3/2 (木)		博士論文発表会

＜以下には本学在籍学生に係る事項を記載＞

- ①指導教員・副指導教員：教員の着任に伴い4月に2021年度入学生の第2副指導教員を決定した。11月に2022年度入学生（2021年度入学生復学者含む）の第1副指導教員を決定した。12月に2022年度入学生（2021年度入学生復学者含む）の第2副指導教員を決定した。
- ②研究計画審査：4月に3名、6月に1名の審査申請があり、審査を実施した。
- ③博士論文審査：2名の審査を実施し、学位授与を決定した。

7) 学位論文審査基準

(1) 審査体制

審査は論文ごとに、共同看護学専攻を構成する5大学院博士学位審査委員会が提案し、連絡協議会が承認した5名の〇合教員から成る専門委員会が行う。その構成は、主・副研究指導教員各1名を含む計5名とし、主査は、主・副研究指導教員以外の教員が担う。

専門委員会による審査結果は、博士学位審査委員会において博士学位論文の可否を判定し、最終的に連絡協議会が可否を決定する。

(2) 博士学位論文審査基準

審査の観点は、博士論文としての学術的価値、実践的な有用性、論理的な観点、完成度から、論文の水準を客観性、厳密性をもって判定する。

- ①看護学研究として学術的な貢献や社会的な意義を有している。
- ②研究方法ならびに成果が、独創性、論理性、体系性、実証性、新規性などの観点においてすぐれている。
- ③課題設定と問題意識の対応、課題解明と研究方法の対応、先行研究の整理・評価と結論の整合性などの論理的一貫性が保たれている。
- ④章や節の組み立て、脚注や引用方法、著作権の配慮など、学術論文としての体裁が保たれている。
- ⑤学術雑誌における査読付研究論文1編以上の掲載などの研究業績がある。

8) 2022年度 博士学位論文テーマ一覧

タイトル
慢性腎臓病をもつ学童期の子どものセルフケア獲得のために必要な自立支援プログラムの構築
喉頭摘出者が食道発声法を獲得するためのプログラムの開発

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

日本赤十字豊田看護大学大学院 共同看護学専攻では、赤十字の理念である「人道 (humanity)」のもとに、いかなる場合でも個人の尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現する人材の育成を目指すため、入学者選抜試験を実施し、次のような資質と能力、意欲をもった人材を幅広く求める。

- (1) 保健・医療・福祉の専門知識を有し、さらに深く追求する意欲のある人
- (2) 常に探求心を持ち、赤十字の看護活動を担う意欲のある人
- (3) 自らの活動範囲を拡げ、看護を発展させる意欲のある人
- (4) 様々な分野の専門家とともに、独創的な研究を志す人
- (5) 社会での実践から得た知識と経験を体系化し変革する意欲のある人
- (6) 国際的な視座で、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- (7) 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性をもつ指導者を志す人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

試験種別	募集定員	必須・選択	科目
一般入学試験	2 名	必須	外国語（英語）
			専門科目（小論文）
			面接
			書類審査

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

（単位：名）

年度		定員	志願者数	受験者	入学者数
2023 年度	第 1 回	2	0	0	0
	第 2 回		1	1	1
2022 年度	第 1 回	2	0	0	0
	第 2 回		1	1	1
2021 年度	第 1 回	2	0	0	0
	第 2 回		4	4	3

3. 学生支援

平日夜間を中心としたオンライン開講に加えて、3年分の学費で4年での履修を可能とする長期履修制度、自習スペースとしても活用できる日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院敷地内に立地するサテライトキャンパスの整備、学外からの文献検索を可能とするVPNライセンスの付与など、様々な方面から院生の働きながらの学びを支援した。

1) 在籍学生数

(単位：名)

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2022年度入学生	1	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2021年度入学生	3	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2020年度入学生	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2019年度入学生	3	3	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	1
2018年度以前入学生	-	6	0	0.0%	-	-	2	33.3%	1
合計	-	13	0	0.0%	-	-	3	23.1%	2

2) 修業年限内の修了率

(単位：名)

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2022年度末 までに修了し た学生数	③ ①のうち 2022年度末 までに退学 した学生数	④ ①のうち 2023年度 現在在籍して いる学生数 (留年者数)	④' ④のうち在学 中に休学した 者を除いた 留年者数	⑤ 標準修業年 限内修了率	⑥ 標準修業年 限を通じた 退学率
2020年度入学生 (長期履修者除く)	3年	0	0	0	0	0	-	-
2019年度入学生 (長期履修者のみ)	3→4年	3	1	0	2	0	33.3%	0.0%

3) 研究費助成制度・獲得状況

2022年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による教育・研究事業（学長裁量事業）

	研究テーマ	研究者	交付金額
1	保育所における0歳～2歳の食物アレルギー児に対するアナフィラキシー予防プログラムの構築	遠藤 幸子	85,100円
2	特別養護老人ホームの要介護高齢者における摂食嚥下機能低下の特性～咽頭残留に関連する摂食嚥下機能について～	天木 伸子	163,800円

4) 就職・進路状況

2022年度修了生はすべて有職学生であった。

5) 博士論文等投稿状況一覧

修了年度	入学年度	論文の投稿状況
2022年度 (2022.9 修了)	H28年度	準備中
2022年度 (2023.3 修了)	R元年度	準備中（2022.9 日本行動分析学会第40回年次大会にて発表済み）

VI ヘルスプロモーションセンター

1. 組織

ヘルスプロモーションセンター長：松浦正子

2. 地域連携委員会活動報告

目的	日本赤十字豊田看護大学地域連携委員会規程第 2 条に定める以下の事項について企画し、推進する。 1) 地域の保健・医療・福祉への向上に関すること 2) 公開講座の企画及び実施に関すること 3) 地域医療従事者を対象とした研修会の企画及び実施に関すること 4) その他ヘルスプロモーションに関すること																																																		
構成員	委員長：松浦正子 委 員：東野督子、清水美代子、深谷由美、千葉朝子、松田優子、田口栄子、中島伸一 事務局：企画・地域交流課 中根春波、奥映理菜																																																		
開催回数	11 回																																																		
活動実績	1) 地域の保健・医療・福祉への向上に関すること (1) 大学の近隣地域 大学の近隣地域において、ヘルスプロモーション活動を以下のとおり実施した。(表 1) 表 1 大学の近隣地域での講座一覧 (単位：名) <table><tr><th>テーマ</th><th>日時</th><th>来場者</th><th>開催場所</th></tr><tr><td>豊田西高等学校 SSH 成果発表会</td><td>2022 年 7 月 28 日 (木)</td><td>80</td><td>豊田市民文化会館</td></tr><tr><td>豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)</td><td>2022 年 6 月 21 日 (火) 2022 年 8 月 2 日 (火)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>宮口上フェスタ</td><td>2022 年 11 月 5 日 (土)</td><td>-</td><td>※救護として参加</td></tr><tr><td>宮口一色健康測定会</td><td>2022 年 11 月 19 日(土)</td><td>25</td><td>宮口一色区民会館</td></tr></table> (2) 特定地域 大学の近隣以外の特定地域において、全 4 回開催した。(表 2) 表 2 特定地域での講座一覧 (単位：名) <table><tr><th>テーマ</th><th>日時</th><th>来場者</th><th>開催場所</th></tr><tr><td>豊根村住民向け講座</td><td>2022 年 8 月 30 日 (火)</td><td>18</td><td>三沢高原いこいの里</td></tr><tr><td>尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」</td><td>2022 年 12 月 8 日 (木)</td><td>37</td><td>スカイワードあさひ</td></tr><tr><td>EAS (ブラジル人学校) での身体測定会</td><td>2023 年 3 月 8 日 (水)</td><td>45</td><td>EAS</td></tr><tr><td>豊根村生涯学習講座</td><td>2023 年 3 月 16 日 (木)</td><td>10</td><td>豊根村役場 保健福祉センター</td></tr></table> 2) 公開講座の企画及び実施に関すること 公開講座を 1 回開催した。(表 3) 表 3 公開講座一覧 (単位：名) <table><tr><th>テーマ</th><th>日時</th><th>来場者</th><th>担当領域</th><th>開催場所</th></tr><tr><td>子育て中のご家族に向けての公開講座 第 1 部 安心できる子育てのヒント 第 2 部 子どもの歯と口の健康</td><td>2023 年 3 月 18 日 (土)</td><td>17</td><td>岡田摩理 森田一三</td><td>小講義室 3</td></tr></table>	テーマ	日時	来場者	開催場所	豊田西高等学校 SSH 成果発表会	2022 年 7 月 28 日 (木)	80	豊田市民文化会館	豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)	2022 年 6 月 21 日 (火) 2022 年 8 月 2 日 (火)			宮口上フェスタ	2022 年 11 月 5 日 (土)	-	※救護として参加	宮口一色健康測定会	2022 年 11 月 19 日(土)	25	宮口一色区民会館	テーマ	日時	来場者	開催場所	豊根村住民向け講座	2022 年 8 月 30 日 (火)	18	三沢高原いこいの里	尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」	2022 年 12 月 8 日 (木)	37	スカイワードあさひ	EAS (ブラジル人学校) での身体測定会	2023 年 3 月 8 日 (水)	45	EAS	豊根村生涯学習講座	2023 年 3 月 16 日 (木)	10	豊根村役場 保健福祉センター	テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所	子育て中のご家族に向けての公開講座 第 1 部 安心できる子育てのヒント 第 2 部 子どもの歯と口の健康	2023 年 3 月 18 日 (土)	17	岡田摩理 森田一三	小講義室 3
	テーマ	日時	来場者	開催場所																																															
	豊田西高等学校 SSH 成果発表会	2022 年 7 月 28 日 (木)	80	豊田市民文化会館																																															
	豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)	2022 年 6 月 21 日 (火) 2022 年 8 月 2 日 (火)																																																	
	宮口上フェスタ	2022 年 11 月 5 日 (土)	-	※救護として参加																																															
	宮口一色健康測定会	2022 年 11 月 19 日(土)	25	宮口一色区民会館																																															
	テーマ	日時	来場者	開催場所																																															
	豊根村住民向け講座	2022 年 8 月 30 日 (火)	18	三沢高原いこいの里																																															
	尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」	2022 年 12 月 8 日 (木)	37	スカイワードあさひ																																															
	EAS (ブラジル人学校) での身体測定会	2023 年 3 月 8 日 (水)	45	EAS																																															
豊根村生涯学習講座	2023 年 3 月 16 日 (木)	10	豊根村役場 保健福祉センター																																																
テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所																																															
子育て中のご家族に向けての公開講座 第 1 部 安心できる子育てのヒント 第 2 部 子どもの歯と口の健康	2023 年 3 月 18 日 (土)	17	岡田摩理 森田一三	小講義室 3																																															

3) 地域医療従事者を対象とした研修会の企画及び実施に関すること
医療従事者及び専門職者を対象とした研修会を全 5 回開催した。(表 4)

表 4 専門職向け研修会一覧

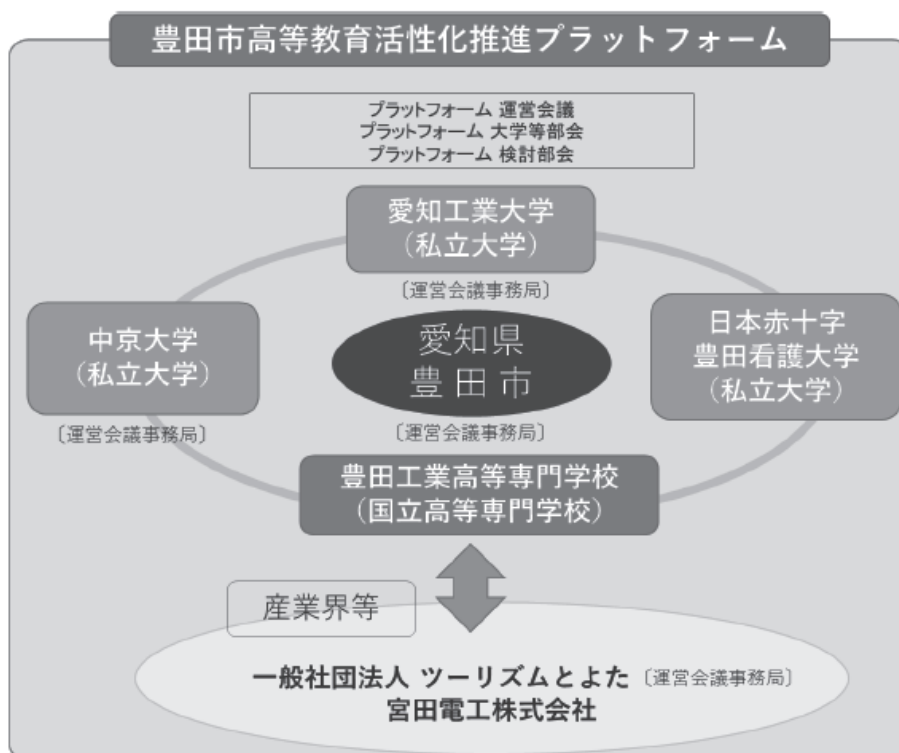
(単位：名)

テーマ	日時	来場者	担当者	開催場所
はじめての実習指導 ～病院編～	2022 年 9 月 17 日 (土) 13:00～16:00	62	山田聡子	ZOOM 開催
英語での患者さんとの コミュニケーション	2022 年 10 月 29 日 (土) 13:00～16:00	7	森久子 鈴木寿摩	ゼミナール室 4
対応に配慮が必要な看護師の育成	2022 年 12 月 17 日 (土) 13:00～16:00	75	川上ちひろ (岐阜大学)	ZOOM 開催
はじめての実習指導 ～地域・在宅看護編～	2023 年 1 月 21 日 (土) 13:00～15:00	42	松田優子	ZOOM 開催
臨床における研究倫理	2023 年 2 月 25 日 (土) 10:30～12:00	41	百瀬由美子	ZOOM 開催

3. プラットフォーム

高等教育機関と豊田市・産業界の連携強化により、人と地域が共に育ち合い、自立した地域社会を実現するため、豊田市に所在する私立大学（愛知工業大学・中京大学・日本赤十字豊田看護大学）、国立高等専門学校（豊田工業高等専門学校）、地方自治体（豊田市）で「豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム」を形成した。2018 年 9 月には、地元産業界より、「一般社団法人ツーリズムとよた」が新たに参画することになり、観光をはじめとする地域振興の活性化がより強化されることが期待できる。さらに 2019 年 9 月には、豊田 PF 形成大学等と共同研究を行う宮田電工株式会社が新規参画した。

本プラットフォームの特徴は、「ものづくり」をはじめとする地域の特性を踏まえ、大学、高等専門学校、地方自治体、産業界がそれぞれの得意分野を活かして連携・協力し、これらの取り組みを通して、有能な人材の育成と地域社会での活躍を促し、地域社会の発展に寄与する。現状分析、課題・目標、具体的な実行計画を中長期計画にまとめ、取り組んでいるところである。



1) プラットフォーム活動概要

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
地元就職の促進	各大学等の強みを活かした就職支援の他、インターンシップ等を通じた豊田市への就職等、地元就職を促進する	(取組 2) 豊田市の医療施設への就職を促進するために就職説明会を開催 ○取組方針・具体的内容・目標等：就職説明会を開催することにより、本学学生が豊田市の医療施設へ少しでも多く就職を希望するよう推進する。 ○実施時期・期間等：毎年 4 月の入学式終了後実施予定 ○目標等：年間 1 回以上の開催 ○実施体制（主担当）：日本赤十字豊田看護大学	(取組 2 の活動指標) 1 回以上/年	例年入学式終了後に奨学金説明会を実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から入学式後の 2022 年 4 月 19 日（火）に学内説明会を実施し、資料配付と DVD で病院紹介を行った。
健康意識の醸成	地域住民の健康意識を高める	(取組 1) ブラジル人学校における身体測定の実施 ○取組方針・具体的内容等：ブラジル人学校に通う児童の身体測定（身長・体重等）を行う。身体計測値を経年的に記録できる用紙（冊子）の作成。 ○実施時期・期間等：毎年 7 月～9 月、ブラジル人学校にて実施予定。 ○実施体制（主担当）：日本赤十字豊田看護大学	(取組 1 の活動指標) 1 回以上/年	(取組 1 の活動実績) 1 回 2023 年 3 月 8 日（水）に実施し、45 名の身体計測を行った。
		(取組 2) 体育館、運動場等の施設利用の促進による、地域住民の健康意識の向上 ○取組方針・具体的内容・目標等：体育館・運動場等の施設利用を地域住民に促すことで、積極的に運動等を行っていただき、健康の促進及び健康に対する意識を高める。 ○実施時期・期間等：長期休暇以外施設の利用可。 ○目標等：年間 100 件以上の利用促進。 ○実施体制（主担当）：日本赤十字豊田看護大学	(取組 2 の活動指標) 100 件以上利用促進/年	(取組 2 の活動実績) 1 件 地域住民に施設利用の促進を行い、1 件の運動施設の利用があった。
防災意識の醸成	学生・地域住民の防災意識を高め、災害発生時に備える	(取組 2) 共同の防災教育プログラムを実施 ○具体的内容等：キャリアマネジメントを目的とする「防災マイスター養成講座」（履修証明プログラム）を共同で実施する。 ○実施主体（主担当）：愛知工業大学、日本赤十字豊田看護大学、ツーリズムとよた	(取組 2 の活動指標) 1 回以上/年	(取組 2 の活動実績) 2 回 2022 年 6 月 21 日（火）に愛知工業大学本山キャンパスにおいて、「社会人防災マイスター養成講座 講義・演習」を実施した。 2022 年 8 月 2 日（火）に研究発表会及び修了式を実施し、第 14 回の養成講座を修了した。
地域学習支援の推進（学校教育活動の支援）	学生・教員・初等中等教育機関が一体となり、初等中等教育に対する教育活動支援を行う	(取組 3) 高校生対象の職業意識を醸成するための進学情報交換会等を実施 ○取組方針・具体的内容・目標等：看護をよく知ってもらい、将来、看護師として就職を希望する者を増やしたいため、進学情報交換会等を実施する。 ○実施時期・期間等：毎年 7 月中に実施予定。 ○実施体制（主担当）：日本赤十字豊田看護大学	(取組 3 の活動指標) 1 回以上/年	(取組 3 の活動実績) 1 回/年 2022 年 7 月 1 日（金）に Zoom によるオンラインでの進学情報交換会を実施した。参加校は 11 校であった。 模擬授業 ①豊田高等学校 日時：2022 年 6 月 15 日（水） 内容：看護師としてのキャリア ②美和高等学校 日時：2022 年 11 月 14 日（月） 内容：看護師としてのキャリア ③日進西高等学校 日時：2022 年 12 月 7 日（水） 内容：看護師としてのキャリア

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
生涯学習の推進	高等教育機関と地域が一体となり生涯学習を推進する	(取組1) 地域住民に対する公開講座等の実施 ○取組方針・具体的内容等：地域の保健・医療・福祉の向上及び地域医療の質の向上に寄与することを目的に地域住民を対象とした公開講座を実施する。 ○実施時期・期間等：1年を通し、約5回の実施予定。 ○目標等：年間5回以上の公開講座の開講。 ○実施体制（主担当）：豊田市、中京大学、日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 5回以上/年	(取組1の活動実績) 6回/年 公開講座 ①子育て中のご家族に向けての公開講座 第1部 安心できる子育てのヒント 第2部 子どもの歯と口の健康 日時：2023年3月18日(土) 開催方法：対面 参加者：17名 専門職向け研修会 ①はじめての実習指導～病院編～ 日時：2022年9月17日(土) 開催方法：オンライン 参加者：62名 ②英語での患者さんとのコミュニケーション 日時：2022年10月29日(土) 開催方法：対面 参加者：7名 ③対応に配慮が必要な看護師の育成 日時：2022年12月17日(土) 開催方法：オンライン 参加者：75名 ④はじめての実習指導～地域・在宅看護編～ 日時：2023年1月21日(土) 開催方法：オンライン 参加者：42名 ⑤臨床における研究倫理 日時：2023年2月25日(土) 開催方法：オンライン 参加者：41名
愛知県立豊田高等学校との高大連携		○取組方針・具体的内容等：愛知県立豊田高等学校との高大連携協定を締結したことから、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の充実と相互の教育・研究活動を活性化させる。 ○実施時期・期間等：看護ベーシック（授業）4月中旬～12月中旬 健康生活支援演習 2022年8月2日～4日 ○目標等：看護に関する基本的な概念と技術の原理・原則を教授し、看護への関心を高める ○実施体制：日本赤十字豊田看護大学	3年生授業 2コマ/年 2年生健康生活支援演習 1回/年	[3年生] 授業 14項目の学習（2コマを22回実施） 日時：2022年4月13日(水)～12月21日(水) 場所：愛知県立豊田高等学校 [2年生] 健康生活支援演習 日時：2022年8月2日(火)～4日(木) 場所：日本赤十字豊田看護大学

VII 学術情報センター・図書館

1. 組織

学術情報センター・図書館長：下間正隆

1) 図書館課

課長：山田誠

課員：村瀬悠香代（司書）

池上健二（一般：非常勤嘱託）

水野真理子（司書：常勤嘱託）

高橋美帆（司書補：契約）

2. 情報管理・図書委員会活動報告

活動目的	1) 学内ネットワークシステム管理運営に関する事項 2) 情報環境の整備に関する事項 3) 情報化の推進に関する事項 4) その他情報管理に関して必要な事項 5) 図書の選定に関する事項 6) 視聴覚資料の選定に関する事項 7) 図書目録の作成及び図書管理に関する事項 8) その他図書館の利用及び管理に関して必要な事項
構成員	委員長：下間正隆 委 員：森田一三、初田真人、高見精一郎、恒川美智子、村瀬悠香代 事務局：総務課 中谷瞭、図書館課 村瀬悠香代
委員会開催回数	8回
活動概要	1) 学内ネットワークシステム管理運営に関する事項 一元管理を委託している SCSK と協力しながら、サーバ管理と、基幹ネットワーク・Wi-Fi アクセスポイント（2020 年 9 月更新・導入）等、学内ネットワークシステムの管理運営と問題への対処を継続して行った。 2) 情報環境の整備に関する事項 情報処理室・LL 教室については、PC ならびに関連機器の不具合が発生するたびに、保守業者と調整しながら、学習環境に不便が生じないように対応を進めた。 3) 情報化の推進に関する事項 入試情報の提供や本学教員の研究活動のアピールを目的に、大学ホームページから教員個人の SNS 等にリンクを挿入することに関して審議し、承認した。実際の運営上のルールについては、継続課題とした。 4) その他、情報管理に関して必要な事項 愛知県警察本部 サイバー攻撃対策課から情報提供を受け、ネットワーク環境に脆弱性がないかどうか見直しを行い、SonicWall バージョンアップによって脆弱性対応を行った。 5) 図書の選定に関する事項 蔵書整備に学生の声を反映させるため、前期授業期間中に「学生オンライン選書イベント」を実施した（参加学生 6 名）。その結果、人文社会学系の図書をを中心に 48 冊を新たに図書館資料として整備した。 6) 視聴覚資料の選定に関する事項 英語教材について、一般教養領域の教員から図書と視聴覚資料をセットで新たに整備して欲しいと要望があった。具体的には「美女と野獣」「ピーターパン」など学生におすすめの 6 作品を新たにセットで整備することとなった。 7) 図書目録の作成及び図書管理に関する事項 最新の資料の充実に努めている。具体的には、2022 年度に図書 1,126 冊（購入および寄贈）を新たに整備・受入れた。また新版がでたり、内容が古くなったりした図書 576 冊を除籍した。 8) その他図書館の利用及び管理に関して必要な事項 A) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、以下 a、b の対策を 2020 年度から継続している。 a. 密を避けるため、座席数を 128 席→90 席に減らした。 b. 一日 3 回、図書館棟入口と対面の窓を開けて換気を行った。 B) 2022 年度から対面授業を再開したため、学生の利用を促すために以下の a、b の取組みを行った。 a. 図書の企画展示：2023 年 2 月末日までで 7 回実施 b. 学生アンケートによる購読雑誌の選定：2022 年 10 月に実施し、新規購読 1 誌を決定
次年度の課題	2022 年度は 2021 年度に比べて、利用者数が減少した。そのため、2023 年度は学生が積極的に学術情報センター・図書館を利用できるように、図書の企画展示コーナーの充実や蔵書整備に「学生オンライン選書イベント」などを通じて学生の声を反映させる取組みを行う。また「学生オンライン選書イベント」について、図書館課単独での募集方法では応募学生が少なかった。そのため、2023 年度は情報管理・図書委員を通じて学生に周知を図る。

3. 学術情報センター・図書館主催活動実績

・CINAHL 検索講習会 実施日：2022 年 7 月 6 日（水）

（単位：人）

院生	9
科目等履修生	1
教員	8
計	18

・科学研究費助成事業レビュー取次 0 件
 ・助成金募集リスト 36 件
 ・学術情報リポジトリ公開 12 件

4. 図書・製本雑誌・視聴覚資料

		和 (数)	金 額 (円)	洋 (数)	金 額 (円)	計 (数)	金 額 計 (円)
2021 年度 累 積	図 書	46,720	160,686,470	3,025	28,188,657	49,745	188,875,127
	製本雑誌	4,594	8,868,727	580	1,134,789	5,174	10,003,516
	視聴覚資料	2,274	45,790,150	4	32,808	2,278	45,822,958
2022 年度 (購 入)	図 書	986	3,174,463	34	518,525	1,020	3,692,988
	製本雑誌	47	111,155	13	30,745	60	141,900
	視聴覚資料	30	762,927	0	0	30	762,927
2022 年度 (寄 贈)	図 書	17	33,691	0	0	17	33,691
	製本雑誌	0	0	0	0	0	0
	視聴覚資料	0	0	0	0	0	0
2022 年度 除 籍	図 書	576	1,756,530	0	0	576	1,756,530
	製本雑誌	0	0	0	0	0	0
	視聴覚資料	12	267,558	0	0	12	267,558
2022 年度 累 積	図 書	47,147	162,138,094	3,059	28,707,182	50,206	190,845,276
	製本雑誌	4,641	8,979,882	593	1,165,534	5,234	10,145,416
	視聴覚資料	2,292	46,285,519	4	32,808	2,296	46,318,327
						合 計	¥247,309,019

〈2022 年度受入〉図 書：1,037 冊（含洋図書：34 冊、含電子ブック 41 タイトル）

製 本 雑 誌： 60 冊（含洋製本雑誌：13 冊）

視 聴 覚 資 料： 30 タイトル（すべて DVD）

* 他に新書・文庫・問題集： 151 冊（消耗品として購入 ¥280,701）

5. 年間購読雑誌

（単位：種）

和雑誌	70	（電子ジャーナル 7 種含む）
洋雑誌	13	
計	83	

6. 電子ジャーナル

和雑誌 1,565 種 / 洋雑誌 1,738 種

【電子ジャーナル一覧】

メディカルオンライン
最新看護索引 Web
CINAHL with FullText/MEDLINE with Full Text
Cochrane Library
洋雑誌 (10 種)

7. 利用者数

【入館者数】

(単位：人)

入館者延べ数	30,561
平日平均	124
土曜平均	33

【利用者・資料別年間貸出統計】

	図書 (冊)	雑誌 (冊)	視聴覚資料 (本)
1 年生	257	3	1
2 年生	841	15	9
3 年生	1,569	39	12
4 年生	1,949	106	3
大学院生	240	1	0
卒業生・修了生	0	0	0
聴講生・科目履修生等	42	0	0
教職員	1,179	54	179
合 計	6,077	218	204

【施設・備品利用件数】

	回数 (回)	人数 (人)
AV ルーム / 共同学習室	234	574
Surface 貸出	336	287

【電子ブック閲覧数】

(単位：回)

閲覧回数	1,159
------	-------

8. 文献複写サービス

(単位：件)

	複写	現物貸借	計
他館へ申込	417	2	419
他館より受付	498	8	506

VIII IR 室

1. 活動目的

- (1) 経営戦略に関する情報の収集・分析・提言
- (2) 教育の質保証に関する情報の収集・分析・提言
- (3) 本学の研究の成果に関する情報の収集・分析・提言
- (4) 国内外の教育研究・大学運営等にかかる情報の収集・分析・提言
- (5) その他学長が必要と認めたこと

2. 構成員

室 長：森田一三

室 員：大西文子、野口眞弓、原田真澄、清水みどり、高見精一郎、平野二郎

事務局：総務課 寺本庄吾

3. 活動概要

2022 年 9 月に IR 委員会を廃止し、IR 室を設置。

- (1) 経営戦略に関する情報の収集・分析・提言
情報収集者と分析・提言者を定め、主に文部科学省・厚生労働省から発信される情報の収集および分析をした。
- (2) 教育の質保証に関する情報の収集・分析・提言
卒業生アンケート調査の結果を分析した。
- (3) 本学の研究の成果に関する情報の収集・分析・提言
情報収集者と分析・提言者を定め、主に文部科学省・厚生労働省から発信される情報の収集および分析をした。
- (4) 国内外の教育研究・大学運営等にかかる情報の収集・分析・提言
情報収集者と分析・提言者を定め、主に文部科学省・厚生労働省から発信される情報の収集および分析をした。
- (5) その他学長が必要と認めたこと
「教育課程等に係る特例制度」の意向調査に関わる情報収集および分析を行い、学長へ提言した。

IX 国際交流

1. MOU に基づく交流

本学は国際交流活動の一環として、タイ赤十字看護大学（Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing、以下 STIN）と看護に関する交流及び教育研究協力を行う MOU（了解覚書）を交わしており、2017 年より STIN の学生を本学に受け入れ交流を行っている。本学から学生をタイ赤十字看護大学へ派遣する計画は、2022 年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け 2020 年度、2021 年度に続き中止となった。対面での交流の代わりとして、2020 年度よりオンラインツールを使用した交流会を実施しており、2022 年度は 11 月に開催した。本学からは 1、2 年生の計 14 名、STIN からは約 80 名の学生が参加し、英語で交流を行った。本学の学生は事前に準備したパワーポイントを使い、今流行している SNS に載せる写真の作成や加工について、またドラマや映画について発表した。タイの学生は大学で学んでいる基礎的な看護技術について動画を使って発表した。その後学生同士で興味のあることなど自由なテーマで活発に話し、有意義な交流をすることが出来た。異文化を理解し広い視野を持つ看護師を育成するため、このようなオンラインでの交流も含め今後も頻繁に国際交流の機会を持ちたいと考えている。

2. 英国語学研修プログラム

本学では赤十字事業の一つである国際救援事業へ繋げる学びの機会として英国語学研修を設け、希望する学生に英国での語学研修を実施している。英国南西部の歴史ある港町プリマスでホームステイをしながら、午前中は語学学校で英語のレッスンを受講し、午後は赤十字社や医療機関・福祉施設・大学（看護学部）・ボランティア団体などを訪問する。現地で働く人々との交流を通じて、英国の医療や福祉の最前線の活躍及び日本とは異なる医療・福祉の環境や看護の方法を学びながら英語力を高めることを目標としている。帰国後には研修成果を英語でプレゼンテーションする報告会を設けており、実践的な英語力及びプレゼンテーション能力を身につけるとともに、自身の経験を振り返ることで今後の学修・行動目標を見つけ出す機会としている。2022 年度は昨年に続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となったが、今後もこのような海外での語学研修を通し異文化に触れる機会を提供する。

X 新型コロナウイルス感染予防対策本部の活動

2020年3月30日に立ち上げられた新型コロナウイルス感染予防対策本部会議は、基本方針は変更せず、組織編制を一部改編(感染対策に対する判断と実施を行うためICDを対策本部に新設し、新たに東野教授を位置付けした、講義・演習班は教務委員長が担当することに変更等)し、2022年度には6回開催された。

年度当初は愛知県独自の厳重警戒は継続されており、本学の新型コロナウイルス感染予防対策指針 Ver.3により学内の感染対策を行った。

2021年度からの改正点は以下の通り

1. 全面的な座席指定の解除
2. 講義室の使用座席の拭き取り清掃は任意とする
3. 食事場所の番号控えの廃止
4. ICD専用電話を契約し、学生の体調不良時の連絡先とし、あわせてFormsによる学生体調連絡票と連携させ関係者に必要な情報の伝達を行った
5. 海外渡航届運用開始
6. 食事可能場所の見直し(体育館の食堂としての利用を終了)
7. 愛知県大規模接種会場でのワクチン接種から個人接種に切替
8. 感染対策を行ったうえで、学位記授与式は3年ぶりに来賓を招いて施行

2022年度に向けた取り組み

1. 国際交流の方針決定
2. 本学の新型コロナウイルス感染予防対策指針 Ver.5の作成
3. 2023年5月8日付けで5類移行となることへの本学の方針の検討
4. サークル活動再開申請書の活用、ICDによる指導

1. 組織図：

(1) 対策本部

	担当者	役割
本部長	学長 鎌倉やよい	・本部を統括する
副本部長	学部長 山田聡子 研究科長 百瀬由美子 事務局長 山田誠	・本部長を補佐する
ICD	ICD 下間正隆 ICD 東野督子	・感染対策に対する判断と実施
本部要員	災害対策委員会委員長 小林洋子 看護管理学教授 松浦正子 公衆衛生看護学教授 長谷川喜代美	・感染対策の実行
対策本部事務局	総務課	・連絡窓口、会議調整等

(2) 機能班

班名	担当者	役割
講義・演習班	教務委員会委員長 小林尚司	・授業の調整・実施・検証
実習班	実習検討委員会委員長 東野督子	・実習での感染予防具体策の提示・物品準備 ・実習施設可否の確認と否の場合は代替案の調整 ・実習施設の実習要件の取りまとめ ・臨地実習における感染予防対策に関する企画
大学院教務・学生班	大学院教務・学生委員会委員長 長谷川喜代美	・大学院授業調整、大学院生健康管理等
学部学生班	学生委員会委員長 松浦正子	・学生自治会活動に関する自治会長との調整
生活環境班	事務局長 山田誠	・設備に関する感染予防対策の実施管理
一換気	(実務担当：経理課・関電ファシリティーズ)	・機械換気の計画・実施
一食堂	(実務担当：総務課)	・食堂の感染予防対策管理
一スクールバス	(実務担当：経理課)	・スクールバスの運行管理
情報収集班	総務課長	・WHO・国・県・法人本部
設備・備品班	学務課長 事務局長 山田誠	・消耗品(マスク等感染防止用品含む)の管理、整備 ・サポート

班名	担当者	役割
学生連絡・調査班	学務課長	・ 学生からの体調不良連絡の受付・記録・報告 ・ 学生への連絡事項の発信
学生対応班	学部長 山田聡子	・ 発症者発生時の学生への個別対応
教職員対応班	総務課長 事務局長	・ 教職員からの体調不良者連絡の受付・記録・報告 ・ テレワーク等の検討・整備
広報班	企画・地域交流課長	・ HP から本学の感染予防対策に関する情報発信 ・ 対策本部ページの整備・運用
ワクチン接種支援班	災害対策委員会委員長 小林洋子 ICD 下間正隆 成人看護学領域教授 東野督子 総務課長	・ 新型コロナウイルスワクチン接種方法の検討 ・ サポート ・ サポート ・ 豊田市との連絡・調整

(3) 作業部会

部会名	責任者	役割
感染症フロー	ICD 下間正隆 公衆衛生看護学教授 長谷川喜代美	・ 感染症対応手順作成・検証等
消毒方法・手順	ICD 下間正隆 公衆衛生看護学准教授 清水美代子	・ 消毒方法手順作成・物品準備・検証等
情報ネットワーク支援	情報ネットワーク支援室長 森田一三	・ 遠隔教育デバイスの検証等

2. 基本方針：

「新型コロナウイルス感染拡大を予防して、学生・教職員及び地域の安全を守る。」

日本赤十字豊田看護大学新型コロナウイルス感染予防対策指針 Ver.4

警戒レベル	本学の感染予防対策実施方法	
	講義・演習・実習	課外活動等(クラブ・サークル・自治会活動等)【学外対応】
注意	感染予防対策の上で ・講義・演習・実習(対面授業)を実施。	感染予防対策の上で ・課外活動等を実施。 ただし、学外者とともに活動する場合は事前に大学の許可を得ること。
警戒	感染予防対策の上で、 ・講義：原則として対面授業を実施。 ・演習(技術演習・ゼミナール) ：対面授業と遠隔授業を併用して実施。 対面授業は人数を制限して実施。 ・体育実技 ：テニスコート・グラウンドで実施。 原則として体育館は使用しない。 ・実習(臨地) ：①原則として対面授業を実施。 ②必要に応じて、人数、日程、方法を施設と調整。 ③②の調整が困難な時には、(学内)に変更。 ・実習(学内) ：人数を制限して対面授業を実施。	クラブ・サークル活動について、下記の感染予防対策を含む活動計画を立案し、 本学の承認を受けた場合に限り実施することができる。 ただし、臨地実習を控える学生は、実習開始2週間前から参加不可とする。 課外活動等は感染予防対策を徹底した上で、 ・屋外での課外活動が可能。 ・活動時間は2時間/日以内を目安とすること(テニスコート、グラウンド等)。 ・飲食や宿泊を伴う会議や密閉・密集・密接となる行事、会合、集会等は禁止。 <活動の例> ○ 密を避けたテニスサークルのテニスコートでの活動 ○ 密を避けた屋外でのボランティア活動 ○ オンラインでの勉強会 × 体育館でのバレーボール、バドミントン等 × 音楽ライブ等を実施すること × 病院や介護老人保健施設での高齢者を対象としたボランティア活動 【学外者の図書館利用を原則として不可とする。】
厳重警戒	感染予防対策の上で、 ・講義は対面授業と遠隔授業を併用して実施。 ・演習・実習は原則として警戒レベルの実施方法とする。 ・感染拡大状況に応じて実施方法を見直し、遠隔に切り替える。	・全ての活動(SNS等ネット上での活動を除く)を中止 【学外者の図書館利用を不可とする。】
危険	感染予防対策の上で、 ・講義の実施(遠隔授業のみ実施) ・演習の実施(遠隔授業のみ実施) ・実習の実施(原則として厳重警戒レベルの実施方法とする)	・全ての活動(SNS等ネット上での活動を除く)を中止 【学外者の図書館利用を不可とする。】
食事場面の基準	全ての警戒レベルにおいて 黙食 を徹底する。	

※本学の予防指針は、愛知県の感染レベルを参考にした警戒レベルとする。

※この指針に基づき、実施することを原則とする。愛知県内の情報を総合的に判断し、最終的には対策本部が決定する。

XI 教員研究業績・社会活動一覧

I. 研究業績

1. 著書

- 1) 樋口まち子, 李節子, 當山紀子, 菊地雅子, 八田早恵子, 堀井聡子, 田村豊光, **廣田直美** (分担執筆), 横手春子, 宇野いづみ, 山崎達枝, 二見茜, 野中千春, 工藤恵子, 永田容子, 座間智子, 山本裕子: 新体系看護学全書 国際看護学, 177-184, 株式会社メヂカルフレンド社, 東京都, 2022.11
- 2) **鎌倉やよい**, 深田順子 (著): 周術期の臨床判断を磨く I - 手術侵襲と生体反応から導く看護, 第2版. 医学書院, 東京, 2023.2.1
- 3) 正木治恵, 真田弘美 (編集), 小野幸子, 竹屋泰, 瀬戸奈津子, 井出訓, 辻村真由子, 田所良之, 坂井志麻, 野口美和子, 鳥海幸恵, 長畑多代, 河井伸子, 松本啓子, 征矢野あや子, 高橋香代子, 島田広美, 村角直子, **近藤絵美**, 井出成美, 今村恵美子, 山崎由利亜, 鳥田美紀代, 佐々木ちひろ, 高橋良幸, 谷本真理子, 會田信子, 小池潤, 石橋みゆき, 山下裕紀, 黒田久美子, 高橋弘美, 須藤麻衣, 大久保みすず, 丸山理恵, 齋藤多恵子, 江尻友理子, 多田信子, 湯浅美千代, 八木範子, 桑田美代子, 岡本あゆみ, 永田文子, 記村聡子, 大湾明美, 田場由紀, 緒方さやか (分担執筆): 看護学テキスト NiCE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは 改訂第4版, 133-136, 南江堂, 東京都, 2023.3
- 4) 水越真代, **清水美代子** (編著), 岡田賀子, 佐藤知子, 土本千景, 藤島詩野, 前田洋子, 宮井好美, 湯浅記久子 (分担執筆): 健康教室づくりの極意: 健康教室にひっぱりだこの保健師・栄養士がごっそり語る [第2版], 77-94, 三恵社, 愛知県, 2022.9
- 5) **百瀬由美子**: 最新老年看護学 第4版 2023年版, 92-109, 日本看護協会出版会, 東京, 2023.1
- 6) **野口眞弓** (分担執筆): 看護の現場ですぐに役立つ 母性看護のキホン, 116-130, 143-149, 秀和システム, 東京都, 2022.4.20
- 7) **大西文子** (編著), **飯田大輔**, **遠藤幸子**, **岡田**

摩理, 奥水めぐみ, **神道那実**, **鳥居賀乃子**, 増尾美帆, 山田裕子 (分担執筆): 子どもの健康と安全 改訂第2版, 1-215, 中山書店, 東京都, 2022.11.20

- 8) 泊祐子 (編著), **大西文子**, 竹村淳子, **岡田摩理**, 西蘭貞子, 倉橋理香 (分担執筆): 小児看護学 実習指導ガイドライン, 56-78, 107-124, 文芸社, 東京都, 2023.2.15
- 9) 八島妙子 (編著), 関口浩平, **橋本亜弓** (分担執筆), 横山剛志, 甲村朋子, 宮本千佐: 老年看護ぜんぶガイド, 21-23, 43-46, 50-57, 113-130, 照林社, 東京都, 2022.5

2. 学術論文

- 1) 藤浪千種, **鎌倉やよい**, 深田順子: セルフマネジメントプログラムを適正に機能させる 運用システムの開発 - 看護師の適正な援助行動に対する強化 -, 日本看護科学会誌. 42, 549-558, doi: 10.5630/jans.42.549, 2022.8
- 2) **深谷由美**: 通所介護における看護職の実践と役割に関する文献レビュー, 日本在宅看護学会, 11 (2), 89-96, 2023.2
- 3) Hosono T, **Tochikawa A**: A meta-synthesis of phenomenological studies on experiences related to diabetes in Sweden focusing on learning to live with diabetes, International Journal of Qualitative Studies on Health and Well-being, 17 (1), 2022.10
- 4) **神道那実**, **大西文子**, **岡田摩理**, **遠藤幸子**, **鳥居賀乃子**: 小児看護におけるプレパレーションの実施状況と影響要因から考えられる課題, 日本小児看護学会誌, 31, 169-177, 2022.11
- 5) 川橋けい子, 木村知子, **南谷志野**: 臨床看護師の看護政策への思いと行動, 聖泉看護学研究, 12, 1-10, 2023.3
- 6) **河村諒**, 松田優子: 広域避難高齢被災者への継続支援の実態 - A 県被災者支援センタースタッフの主観的困難感と対応 -, 日本看護福祉学会誌, 28 (2), 33-42, 2023.3
- 7) **近藤絵美**, 正木治恵: 一般病棟看護師に対する「豊かな存在としての高齢者のあり様」に着目

- したリフレクシオンシートの開発, 千葉看護学会誌, 28 (2), 81-90, 2023.2
- 8) 小森久美子, 木村知子, **南谷志野**: 中規模病院の看護部長が就任後に直面する課題に対する対処, 聖泉看護学研究, 12, 53-62, 2023.3
- 9) **松田優子**, **近藤香苗**, **小林尚司**, **森田一三**, **下間正隆**: 特別養護老人ホームケアスタッフの実状に基づく COVID-19 に対する感染対策のてびき書の作成, 日本環境感染学会誌, 27 (3), 100-109, 2022.5
- 10) 三木研作, 上村治, **森久子**, **高見精一郎**, **鈴木寿摩**, **森田一三**, 竹島康行, 柿木隆介: 脳科学的アプローチによる顔認知過程の解明, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 18 (1), 3-7, 2023.3
- 11) 広瀬会里, 入部百合絵, 藤野あゆみ, 横山加奈, 石光美美子, 天木伸子, 伊藤裕子, **百瀬由美子**: 看護学生のための映像を用いた空間アセスメントの学習教材の検討, 愛知県立大学看護学部紀要, 28, 97-106, 2022.12
- 12) 池俣志帆, **百瀬由美子**: 高齢者への漸進的筋弛緩法を用いたリラクゼーション集団教育プログラムの評価, 日本看護福祉学会誌, 28 (2), 1-9, 2023.3
- 13) 伊藤美和, 藤野あゆみ, **百瀬由美子**: 特別養護老人ホームに勤務する看護職を対象とした経口摂取支援に関わる看護実践力の向上を目指した研修プログラムの開発, 日本看護福祉学会誌, 28 (2), 23-32, 2023.3
- 14) **Morita I**, Morioka H, Abe Y, Nomura T, Nakashima S, Sugiura I, Inagawa Y, Kondo Y, Kameyama C, **Kondo K**, **Kobayashi N**: Discordance between hyposalivation and xerostomia among community-dwelling older adults in Japan, PLOS ONE, 18 (3), e0282740. doi: 10.1371/journal.pone.0282740, 2023.3
- 15) 村瀬智子, **小林洋子**: ポストパンデミックとケア共創看護学, Journal of Integrated Creative Studies, 44896, 第6章, 2022.12
- 16) 西片久美子, **小林尚司**, 田中孝美: 急性期病院における認知症高齢者の看護に伴う困難感尺度開発: 予備調査結果の報告, 日本赤十字北海道看護大学紀要, 23, 2023.3
- 17) 白井裕子, **橋本亜弓**, 小塩泰代, 佐々木裕子: 新聞記事からみる野宿生活者の襲撃死亡事件の一考察, 月刊地域ケア, 2412, 80-85, 2022.10.
- 18) 須釜淳子, 石橋みゆき, 大田えりか, **鎌倉やよい**, 才藤栄一, 真田弘美, 中山健夫, 野村岳志, 山田雅子, 仲上豪二郎, 佐藤直子, 柴田斉子, 長谷剛志, 深田順子, 三鬼達人, 有田弥棋子, 浦井珠恵, 大川洋平, 北村言, 臺美佐子, 高橋聡明, 玉井奈緒, 飛田伊都子, 野口博史, 松本勝, 三浦由佳, 向井加奈恵, 麦田裕子, 吉田美香子, 倉智雅子, 白坂誉子, 山根由起子: 摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する 看護ケアガイドライン. 日本看護科学会誌, 42, 790-810, doi: 10.5630/jans.42.790, 2022.7
- 19) **鈴木寿摩**, **森久子**: リスニング・リーディングの補助としての映画の活用ー学習意欲の促進のために, 映像メディア英語教育研究, 28, 59-69, 2023.3
- 20) Suzuki Y, Morino M, **Morita I**, Ohiro S: Comparison of two alcohol hand rubbing techniques regarding hand surface coverage among hospital workers: a quasi-randomized controlled trial, Antimicrob Resist Infect Control, 11 (1), 132. doi: 10.1186/s13756-022-01172-1, 2022.11
- 21) 勅使川原元, 杉山文香, 桑山愛未, 中村真緒, 川井伸恵, 恵川綾子, 箕浦哲嗣, **百瀬由美子**: 内科病棟看護師に対するせん妄看護に関する複合的教育の効果ー講義・事例検・グループワークおよびシミュレーションを組み合わせた教育, 老年看護学, 27 (2), 47-55, 2023.1
- 22) 泊祐子, 赤羽根章子, **岡田摩理**, 部谷知佐恵, 遠渡絹代, 市川百香里, 濱田裕子, 叶谷由佳: 小児の利用者のいる訪問看護ステーションの現状からみた地域差, 日本看護研究学会雑誌, 45 (4), 841-853, 2022.10
- 23) 部谷知佐恵, **岡田摩理**, 泊祐子, 赤羽根章子, 遠渡絹代, 市川百香里, 叶谷由佳, 濱田裕子: 在宅で暮らす小児の生活を守る訪問看護師による診療報酬で算定できないサービスの実

態, 日本看護研究学会雑誌, 45 (4), 809-821, 2022.10

- 24) **棚川綾子**: 患者の実存を支える身体につながり下肢切断患者への看護師のかかわりの内実一, 質的心理学フォーラム, 14, 13-23, 2022.10
- 25) 若松千晴, 深田順子, **鎌倉やよい**, 米田雅彦: 中咽頭・下咽頭がん患者の導入化学療法による口腔粘膜炎の発症に関連する要因. 愛知県立大学看護学部紀要, 28, 63-72, 2022.12

3. 学会発表

- 1) **天木伸子**, **鎌倉やよい**, 西岡裕子: 特別養護老人ホームにおける誤嚥性肺炎予防ケアと実践上の困難. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島県, 2022.12.3
- 2) 朝井康行, 柴田康博, 松本祐介, 橋本岳英, 杉浦石根, 稲川祐成, 中瀧誠治, 野村岳嗣, 阿部義和, **森田一三**: 舌口唇運動機能低下の現れる年齢の推定, 第65回東海口腔衛生学会総会, 岐阜県, 2022.12.11
- 3) **千葉朝子**, 村瀬智子: 母親が母乳育児に感じる心地よさ, 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島県, 2022.12.3
- 4) 近野由美, 木村知子, **南谷志野**: 訪問看護師が認識している心不全の後期高齢者が再入院を回避するための関わり, 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡県, 2022.8.19
- 5) 江尻晴美, 鈴木紀子, **石原佳代子**, 大野晶子, 大谷喜美江, 佐伯香織, 道重文子, 米澤知恵, 水谷聖子, **東野督子**: 看護学生への口腔ケアの啓発を目指した3か年モデル事業-初年評価第2報-, 第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 大阪府, 2022.4.23-24
- 6) **遠藤幸子**, 長倉里加, 一ノ尾志保, 森美香, 中島志保, 小川真由子, 篠原朋子, 岡田良美, 戸谷百合子, 小田香里: 東海保育保健研究会のこれまでの活動と今後の方向性, 令和4年度愛知県小児保健協会学術研修会, 愛知県 (Web開催), 2023.1.22
- 7) 後藤美名子, **大西文子**, **岡田摩理**: NICUに入院した医療的ケアのない低出生体重児と母親にかかわる退院支援看護師の活動の現状と課題, 日本小児看護学会第32回学術集会, 福岡県 (Web開催), 2022.7.9-10 (オンデマンド配信 2022.7.14-8.31)
- 8) **橋本亜弓**, **白井かおり**, **近藤香苗**, **清水みどり**, **小林尚司**: ICTを活用した老年看護学実習の取り組み- COVID-19流行下での実習施設と大学のオンライン連携-, 第27回日本老年看護学会学術集会, 石川県 (Web開催), 2022.6.25-7.25
- 9) **東野督子**, 小山順子, **石田咲**, **河村諒**: 在宅で過ごす高齢者の歯磨きに関する保健行動調査, 第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 大阪府, 2023.4.23-24
- 10) **Higashino T**, **Ishida E**, **Kawamura R**: Oral Health Behavior survey on tooth brushing in elderly people living home, The 2nd Annual Meeting of the International Society of Oral Care, 大阪府, 2022.4.23-24
- 11) 稲川祐成, 朝井康行, 柴田康博, 松本祐介, 橋本岳英, 杉浦石根, 中瀧誠治, 野村岳嗣, 阿部義和, **森田一三**: 口腔機能の主観的評価と客観的評価の不一致, 第65回東海口腔衛生学会総会, 岐阜県, 2022.12.11
- 12) **石田咲**, **東野督子**: 通所事業所を利用する要支援高齢者の口腔への関心と関連する要因, 第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 大阪府, 2023.4.23-24
- 13) **Ishida E**, **Higashino T**: Factors related to interest in the oral cavity of elderly who require assistance and use adult day care services, The 2nd Annual Meeting of the International Society of Oral Care, 大阪府, 2023.4.23-24
- 14) **石原佳代子**, **東野督子**, 水谷聖子, 江尻晴美, 大谷喜美江, 大野晶子, 佐伯香織, 鈴木紀子, 道重文子, 米澤知恵: 看護学生への口腔ケアの啓発を目指した3か年モデル事業-第1報 初年次活動報告-, 第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 大阪府, 2022.4.23-24
- 15) **Ishihara K**, **Higashino T**, **Mizutani S**, **Ejiri H**, **Otani K**, **Oono A**, **Saeki K**, **Suzuki N**,

- Michishige F, Yonezawa T : A Three-Year Model Project to Raise Awareness of Oral Health Care among Nursing Students: No. 1, The 2nd Annual Meeting of the International Society of Oral Care, 大阪府, 2022.4.23-24
- 16) 市川百香里, 岡田摩理, 泊祐子 : 障がい児の在宅生活を専門的に支援する看護師によるコーディネーションのプロセス, 日本小児看護学会第32回学術集会, 福岡県 (Web 開催), 2022.7.9-10 (オンデマンド配信 2022.7.14-8.31)
- 17) 川橋けい子, 木村知子, 南谷志野 : 看護連盟に入会している臨床看護師が捉える看護政策, 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡県, 2022.8.20
- 18) Kawamura R, Matsuda Y : Difficulties and Responses of Nursing Professionals and Volunteers in Providing Continuous Support to Older Adult Survivors Evacuated from a Wide Area, The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS, 東京都, 2023.3.10-11
- 19) Maruyama S, Morita I, Hosoi N : Issues in eating habits of perimenopausal Japanese women who are caring for family members, International Federation for Home Economics (IFHE) XXIV WORLD CONGRES, USA, Atlanta, 2022.9.7
- 20) 丸山智美, 杉浦石根, 稲川祐成, 松本祐介, 柴田康博, 朝井康行, 橋本岳英, 中畠誠治, 野村岳嗣, 松村康正, 阿部義和, 原豪志, 森田一三 : 高齢者の口腔機能低下と食事の満足度および食品摂取可能状況, 第69回日本栄養改善学会, 岡山県, 2022.9.16-18
- 21) Maruyama S, Morita I, Hosoi N : Salt Intake Reduction Behavior and Dietary Intake of Japanese Female Workers with a Junior College Degree or Higher Education, 18th World Congress on the Menopause, Portugal, Lisbon, 2022.10.26-29
- 22) Maruyama S, Morita I : Effect of dietary education on Japanese workers for 3 weeks using Table top memo, 22nd International Congress of Nutrition (ICN), 東京都, 2022.12.6-11
- 23) 松田優子, 下間正隆 : COVID-19 に対する「特別養護老人ホームケアスタッフの感染対策のてびき」を活用した介護福祉施設におけるオンライン研修の評価, 第37回日本環境感染学会学術集会, 神奈川県, 2022.6.16-18
- 24) 松田優子 : 地域の介護施設の感染対策力を向上するための行政・大学・施設の三者協働による取り組み, 地域・大学等連携シンポジウム in 豊田市, 愛知県, 2022.10.14
- 25) 松本祐介, 杉浦石根, 稲川祐成, 中畠誠治, 野村岳嗣, 阿部義和, 丸山智美, 森田一三 : 年齢階級別口腔機能検査値の推移, 第81回日本公衆衛生学会, 山梨県 (Web 開催), 2022.10.7-9
- 26) 松浦正子 : 教育講演 : チーム連携力を高めるコンフリクトマネジメント, 第36回日本手術看護学会年次大会, 愛知県, 2022.11.4
- 27) 松浦正子 : 基調講演 : 病院組織における多様性のマネジメント - 違いを知り, 違いを受け入れる -, 日本医学看護学教育学会第25回学術セミナー, 鳥根県 (Web 開催), 2022.11.19
- 28) ウイリアムソン彰子, 野村悦子, 西田郁子, 神田友規, 吉田恵美, 松浦正子 : 新人看護職員的能力評価に影響する社会人基礎力の調査, 第41回日本看護科学学会学術集会, 広島県 (Web 開催), 2022.12.3-4
- 29) 松浦正子 : シンポジウム I : キャリアプランの実現に向けた提言 - 看護師のキャリア開発ラダー “ただあるだけ” のラダーにしないために, 第38回 愛知県看護学会, 愛知県 (Web 開催), 2022.12.14
- 30) 島岡昌代, 山崎尚美, 百瀬由美子, 安武綾, 宮崎誠 : コロナ禍における認知症カフェに関する文献検討, 日本老年看護学会第27回学術集会, Web 開催, 2022.6.25-26
- 31) 石脇みゆき, 藤野あゆみ, 百瀬由美子 : 急性期病院における老人看護専門看護師が行う後期高齢者の入退院支援の実態, 第35回日本看護福祉学会学術大会, 神奈川県 (Web 開催), 2022.9.3-4
- 32) 寺田美和子, 宮崎誠, 山崎尚美, 百瀬由美子, 島岡昌代 : ICT を活用した認知症カフェボランティア養成第1回試行調査に基づく有効性の

- 検討, 第4回看護人間工学会学術集会, 大阪府 (Web 開催), 2022.9.23
- 33) 片岡純, **百瀬由美子**, 近藤三由希, 吉田彩, 広瀬会里, 尾沼奈緒美, 森本悦子: デルファイ法によるがん薬物療法を受ける高齢がん患者を支援するための看護実践能力の明確化, 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島県, 2022.12.3-4
- 34) **森田一三**, 松本祐介, 杉浦石根, 稲川祐成, 中畠誠治, 野村岳嗣, 阿部義和, 丸山智美: オーラルフレイルが始まる年齢の推定, 第81回日本公衆衛生学会, 山梨県 (Web 開催), 2022.10.7-9
- 35) **森田一三**: 教育講演 口腔ケアの効果の限界と可能性, 第9回東海口腔ケアフォーラム, 愛知県 (Web 開催), 2023.3.12-19
- 36) 村上優子, 北尾良太, 池口佳子, 齋藤貴子, 坂井志織, **棚川綾子**, 細野知子: “つかめた” “ひらけた” と体感した現象学的看護研究のデータ分析の経験を共有する, 第42回日本看護科学学会学術集会 交流集会, 広島県, 2022.12.3
- 37) **長尾佳世子**, **小林洋子**, **河村諒**, **飯田大輔**: 災害時における組織内救護班活動への取り組み, 第23回日本赤十字看護学会学術集会, 北海道, 2022.7.16-17
- 38) **南谷志野**, 三枝克磨, 原田博子, 白井麻希, 佐藤美子: 認定看護管理者の病院における看護管理実践の実態～認定更新審査時の看護管理実践報告書の内容分析～, 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡県, 2022.8.19
- 39) 野田由加, **鳥居賀乃子**, 平岩美緒: 新生児集中ケア認定看護師実践報告 COVID-19 パンデミック下での OYAKO 井の活動, 第31回日本新生児看護学会学術集会, 神奈川県 (Web 開催), 2022.11.25-26 (オンデマンド配信 2022.12.12-2023.1.11)
- 40) 尾形洋子, **松浦正子**, **南谷志野**: 看護師長への昇進の内示から就任日までの役割遂行上の困難の認識と対処行動, 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡県, 2022.8.19
- 41) **岡田摩理**, 市川百香里, 泊祐子: 障がい児の在宅生活をコーディネートする看護師が使うアセスメントスキル, 日本小児看護学会第32回学術集会, 福岡県 (Web 開催), 2022.7.9-10 (オンデマンド配信 2022.7.14-8.31)
- 42) **岡田摩理**, **飯田大輔**: 場面緘黙のある成人期の子どもをもつ母親の体験と心理, 日本家族看護学会第29回学術集会, 福岡県 (Web 開催), 2022.9.10-11 (オンデマンド配信 2022.9.16-10.31)
- 43) Oono A, Otani K, Michishige F, **Higashino T**, Mizutani S, Ejiri H, **Ishihara K**, Suzuki N, Saeki K: Issues in Continuing Nursing Education Related to Oral Care in Medical Facilities, The 2nd Annual Meeting of the International Society of Oral Care, 大阪府, 2022.4.23-24
- 44) 大野晶子, 大谷喜美江, 道重文子, **東野督子**, 水谷聖子, 江尻晴美, **石原佳代子**, 鈴木紀子, 佐伯香織: 医療施設における口腔ケアに関する看護継続教育の課題, 第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 大阪府, 2022.4.23-24
- 45) 坂井田綾子, **野口眞弓**: 助産師が行う妊娠中の外来, 経膈分娩, 産後健康診査が妊娠期から産後1か月までの妊産褥婦の抑うつに及ぼす影響, 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島県, 2022.12.3
- 46) 水越真代, 木村ゆかり, 湯浅記久子, **清水美代子**: パターンプロセス理論研究会 現状と将来の危険度を「具体的に」お話できる健康診断事後指導, 第95回日本産業衛生学会自由集会, 高知県, 2022.5.28
- 47) **清水美代子**, 黒谷万美子: 運輸業におけるトラック運転手の腰痛と心理社会的要因との関連, 第81回日本公衆衛生学会総会, 山梨県 (Web 開催), 2022.10.6-11.24
- 48) **清水美代子**, 水越真代, 佐藤知子: 健康づくりに携わる保健医療従事者の自主勉強会の実践: 教本作成と今後の展望, 第19回日本ヘルスプロモーション学会・第11回日本産業看護学会合同学術大会, 福岡県 (Web 開催), 2022.11.27
- 49) **下間正隆**, **原田真澄**, **松田優子**, **東野督子**, **鎌倉やよい**: コロナ蔓延下における日本赤十字豊

- 田看護大学の臨地実習への教育的取り組み，第37回日本環境感染学会，シンポジウム，神奈川県，2022.6.17
- 50) 下間正隆，松田優子，東野督子，森田一三：特別養護老人ホーム・スタッフの感染対策力向上のための「イラストを中心とした動画」視聴効果に関する基礎的研究，第37回日本環境感染学会，神奈川県，2022.6.18
- 51) 白井麻希，佐藤美子，南谷志野，三枝克磨，原田博子：インフォメーション・エクステンジ17 認定看護管理者であるということ～資格認定を受け活動し続ける意義～，第26回日本看護管理学会学術集会，福岡県，2022.8.19
- 52) 鷺見正子，大西文子，岡田摩理：一般病院の小児病棟の看護師が発達障害をもつ子どもと親との関わりで感じる困難，日本小児看護学会第32回学術集会，福岡県（Web開催），2022.7.9-10（オンデマンド配信 2022.7.14-8.31）
- 53) Suzuki N, Ejiri H, Ishihara K, Oono A, Otani K, Saeki K, Michishige F, Yonezawa T, Mizutani S, Higashino T: A Three-Year Model Project to Raise Awareness of Oral Health Care among Nursing Students: Initial-Year Evaluation, No. 2, The 2nd Annual Meeting of the International Society of Oral Care, 大阪府，2022.4.23-24
- 54) 宝木百代，小林尚司，清水みどり：熟練介護支援専門員によるターミナルケアマネジメントにおける医療職者との顔の見える関係の構築，第16回日本慢性看護学会学術集会，東京都（Web開催），2022.8.20-21
- 55) 富田美香，大西文子，岡田摩理：長期入院した子どもともつ家族の家族機能のアセスメント視点，日本小児看護学会第32回学術集会，福岡県（Web開催），2022.7.9-10（オンデマンド配信 2022.7.14-8.31）
- 56) 鳥居賀乃子，岡田摩理，佐々木典子，神道那実，遠藤幸子，大西文子：小児看護領域の統合実習において地域の複数の施設を取り入れた効果－障害児と家族の理解に関する学び－，日本小児看護学会第32回学術集会，福岡県（Web開催），2022.7.9-10（オンデマンド配信 2022.7.14-8.31）
- 57) 鳥居賀乃子，岡田摩理，佐々木典子，神道那実，遠藤幸子，大西文子：小児看護領域の統合実習において地域の複数の施設を取り入れた効果－看護師が実際に行っている活動に関する学び－，日本小児看護学会第32回学術集会，福岡県（Web開催），2022.7.9-10（オンデマンド配信 2022.7.14-8.31）
- 58) 棚川綾子：コミュニケーションにおける身体性を問う，日本質的心理学会第19回大会，愛知県，2022.10.29
- 59) 棚川綾子：糖尿病足病変入院患者への看護師の実践－「励ます」ことの内実－，第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会，奈良県，2023.02.11
- 60) 白井かおり，篠田道子：高齢者施設と障害者施設における新型コロナウイルス感染症のマネジメントに関する研究－管理者へのインタビュー調査より－，第42回日本看護科学学会学術集会，広島県（Web開催），2022.12.3-4
- 61) 渡邊直美，鎌倉やよい，深田順子：喉頭摘出者の患者会における食道発声の指導へのニーズ，第42回日本看護科学学会学術集会，広島県，2022.12.3
- 62) 渡邊直美，鎌倉やよい，深田順子，坂上貴之：食道発声のための構音訓練法の開発，日本行動分析学会第40回年次大会，福岡県（Web開催），2022.9.25
- 63) ウイリアムソン彰子，浅香えみ子，井上真奈美，大原彰子，岡島恵子，小淵美樹子，金子さゆり，南谷志野，深澤優子，矢野祐美子：指定インフォメーション・エクステンジ5 看護管理に資する研究活動の支援，第26回日本看護管理学会学術集会，福岡県，2022.8.20

4. その他刊行物

- 1) 石黒千映子，棚川綾子，河村諒，田口栄子，石原佳代子，山本義昭，石田咲，谷口純平，和田友美，東野督子：中／高忠実度シミュレータを活用した臨床実践能力を促進するための学内実習，日本赤十字豊田看護大学紀要，18（1），2023.3

- 2) **鎌倉やよい**：豊田市新型コロナワクチン接種への日本赤十字豊田看護大学における協力体制の整備。日本赤十字豊田看護大学紀要 17 (1), 25-31, 2022.3
 - 3) **鎌倉やよい**：大学を取り巻く環境の変化とデジタルトランスフォーメーション (DX) の推進。日本赤十字豊田看護大学紀要 18 (1), 9-12, 2023.3
 - 4) **小林尚司, 清水みどり, 橋本亜弓, 臼井かおり, 近藤香苗, 深谷由美, 松田優子, 百瀬由美子, 原田真澄, 初田真人, 飯田大輔, 山本壮則**：携帯型タブレットを用いた遠隔実習指導の実際。日本赤十字豊田看護大学紀要, 18 (1), 2023.3
 - 5) **近藤絵美**：急性期病棟における高齢者と看護師の「応答性」の観点からみたケアプロセスの解明に向けて。地域ケアリング, 24 (7), 55-58, 2022.7
 - 6) **近藤絵美**：急性期病棟における高齢者と看護師の「応答性」の観点からみたケアプロセスの解明に向けて。地域ケアリング, 25 (3), 70-73, 2023.3
 - 7) **巻野雄介**：新教育課程における臨床推論能力の育成方略－日本赤十字豊田看護大学基礎看護学領域の取り組み。看護展望, 45 (4), 13-18, 2023.3
 - 8) **松浦正子**：主任に期待される現場変革を成功に導く変革理論～理論を意識することで推進者になれる～。主任看護師 Style, 31 (4), 2-7, 2022.4
 - 9) **松浦正子, ウィリアムソン彰子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング第1回－関係性の類似を見つけよう－。ナーシングビジネス, 16 (6), 56-58, 2022.6
 - 10) **松浦正子, ウィリアムソン彰子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第3回四字熟語で類推思考を高めよう－。ナーシングビジネス, 16 (8), 58-60, 2022.8
 - 11) **松浦正子, ウィリアムソン彰子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第5回四字熟語で類推思考を高めよう－。ナーシングビジネス, 16 (10), 56-58, 2022.10
 - 12) **松浦正子**：看護管理におけるコンフリクトマネジメント。ナーシングビジネス, 16 (10), 10-13, 2022.10
 - 13) **松浦正子, ウィリアムソン彰子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第7回関係性の類推力を鍛えよう－。ナーシングビジネス, 16 (12), 64-65, 2022.12
 - 14) **松浦正子, ウィリアムソン彰子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第9回抽象化する能力－。ナーシングビジネス, 17 (2), 60-61, 2023.2
 - 15) **岡田摩理, 大西文子, 神道那実, 遠藤幸子, 鳥居賀乃子**：公開！私たちのオリジナル学内演習・院内研修用動画（第9回）小児看護技術を考える力を伸ばす「授業から学内実習までの技術演習の試み」。看護展望, 47 (12), 1151-1155, 2022.1
 - 16) **ウィリアムソン彰子, 松浦正子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第2回謎かけで類推力を鍛えよう－。ナーシングビジネス, 16 (7), 58-60, 2022.7
 - 17) **ウィリアムソン彰子, 松浦正子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第4回メタ認知の発達段階－。ナーシングビジネス, 16 (9), 58-60, 2022.9
 - 18) **ウィリアムソン彰子, 松浦正子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第6回メタ認知と自己コントロール－。ナーシングビジネス, 16 (11), 58-60, 2022.11
 - 19) **ウィリアムソン彰子, 松浦正子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第8回俯瞰する能力－。ナーシングビジネス, 17 (1), 68-69, 2023.1
 - 20) **ウィリアムソン彰子, 松浦正子**：看護管理者のためのメタ認知トレーニング－第10回認知の癖－。ナーシングビジネス, 17 (2), 60-61, 2023.3
- ## II. 社会活動
- ### 1. 学会理事等役員・委員会委員
- 1) 愛知県看護協会
学会委員会 委員：南谷志野

- 2) 愛知小児保健協会
理事：大西文子
- 3) 看護人間工学会
評議員：中島佳緒里
- 4) 国際口腔ケア学会
理事：東野督子
- 5) 産業・組織心理学会
理事：南谷志野
- 6) 東海病院管理学研究会
世話人：高見精一郎
- 7) 東海学校保健学会
評議員：森田一三
- 8) 東海学校保健研究
編集委員長：森田一三
- 9) 日本医療・病院管理学会
研究倫理委員会 委員：南谷志野
- 10) 日本家族看護学会
評議員：大西文子
- 11) 日本学校保健学会
代議員：森田一三
- 12) 日本看護科学学会
代議員：山田聡子, 百瀬由美子, 野口眞弓
大西文子
英文誌編集委員会 委員：野口眞弓
- 13) 日本看護学教育学会
評議員：山田聡子, 大西文子
- 14) 日本看護学教育評価機構
評価委員会 委員：山田聡子
- 15) 日本看護管理学会
理事：松浦正子
評議員：松浦正子
災害に関する看護管理推進委員：竹内貴子
学術活動推進委員会 委員長：松浦正子
学術活動推進委員会 委員：南谷志野
- 16) 日本看護系大学協議会
代表理事：鎌倉やよい
社員：鎌倉やよい
- 17) 日本看護系学会協議会
理事：鎌倉やよい
- 18) 日本看護研究学会
評議員：野口眞弓, 大西文子
- 19) 日本看護在宅ケア学会
代議員：百瀬由美子
- 20) 日本看護福祉学会
監事：百瀬由美子
- 21) 日本看護倫理学会
代議員：山田聡子, 百瀬由美子
編集委員会 委員：山田聡子
選挙管理委員会 委員：山田聡子
- 22) 日本口腔ケア学会
常務理事：東野督子
- 23) 日本公衆衛生学会
代議員：森田一三
- 24) 日本老年看護学会
理事：百瀬由美子
代議員：鎌倉やよい
- 25) 日本災害看護学会
代議員：小林洋子
- 26) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
理事長：鎌倉やよい
評議員：鎌倉やよい
- 27) 日本小児がん看護学会
評議員：大西文子
教育委員会 委員：大西文子
- 28) 日本小児看護学会
評議員：大西文子
研究奨励賞選考委員会 委員：大西文子
- 29) 日本小児保健協会
評議員：大西文子
小児救急の社会的サポート委員会 委員：大西文子
- 30) 日本私立看護系大学協会
理事：百瀬由美子
正会員：鎌倉やよい, 山田聡子, 百瀬由美子
大学運営・大学経営委員会 委員長：百瀬由美子
- 31) 日本赤十字看護学会
理事：鎌倉やよい
評議員：山田聡子, 東野督子, 小林洋子
広報委員：竹内貴子
研究助成選考委員会 委員：山田聡子
- 32) 日本ヒューマンヘルスケア学会
評議員：野口眞弓
- 33) 日本老年医学会
倫理委員会 委員：百瀬由美子

用語検討委員会 委員：百瀬由美子

34) 認定看護管理者会

常務理事：南谷志野

研究プロジェクト メンバー：南谷志野

2. 学術集会の企画・実行委員等

1) 第9回東海口腔ケアフォーラム

大会長：東野督子

事務局：石原佳代子、石田咲

2) 第38回愛知県看護学会

学会委員：南谷志野

3) 日本看護倫理学会第15回年次大会

企画委員：山田聡子

4) 日本産業衛生学会東海地方会学会

実行委員：廣田直美

3. 省庁・地方自治体の委員会委員

1) 愛知県看護協会

災害看護委員：長尾佳代子

2) 愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程入学試験委員会

入試委員：松田優子

3) 愛知県障害者差別解消調整委員会

委員：百瀬由美子

4) 愛知県立豊田高等学校

学校評議員：野口眞弓

5) 刈谷市医療的ケア運営協議会

委員：岡田摩理

6) 厚生労働省・厚生労働科学特別研究事業中間・事後評価委員会

委員：鎌倉やよい

7) 厚生労働省・社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会

委員：鎌倉やよい

8) みよし市保健対策推進協議会

委員：清水美代子

9) みよし市介護保険運営審議会委員

委員：長谷川喜代美

10) みよし市地域包括支援センター運営協議会委員

委員：長谷川喜代美

11) みよし市地域密着型サービス運営審議会委員

委員：長谷川喜代美

12) 日進市介護認定審査会

委員：清水美代子

13) NPO 法人あいち福祉オンブズマン

電話相談員担当：橋本亜弓

オンブズマン委員：橋本亜弓

14) 高浜市母子保健ネットワーク会議

アドバイザー：野口眞弓

15) 豊田市不良な生活環境を解消するための審議会委員：原田真澄

16) 地域医療人材育成センター運営委員会

運営委員：松田優子

17) 豊田市次世代育成課

こども・若者総合計画調査業務委託の選考委員：野口眞弓

18) 豊田市健康づくり運動プラン（第四次）策定委員会

委員：清水美代子

19) 豊田市こどもにやさしいまちづくり推進会議

会長：野口眞弓

20) 豊田訪問看護師育成センター部会

部会長：松田優子

21) 豊田市慢性疾患児童等地域支援協議会

委員：岡田摩理

22) 豊田市感染症審査協議会

委員：下間正隆

23) 豊田市食育推進会議

委員：鎌倉やよい

24) 豊田市地域保健審議会委員

委員：長谷川喜代美

4. 研修会・講演会の講師

1) 石原佳代子：第9回東海口腔ケアフォーラム，ハンズオンセミナー，2023.3.12-19

2) 岡田摩理，松田優子：名古屋市北区自立支援連絡協議会 研修，医療的ケア児研修，2022.9.29

3) 岡田摩理：岐阜県看護協会 重症心身障がい者看護人材育成研修，重症心身障害児の看護－倫理について－，2023.1.25

4) 岡田摩理，飯田大輔：多治見市ファミリーサポートセンター 子育てサポーター研修，母親支援，2023.2.3

5) 鎌倉やよい：千葉大学令和4年度看護学教育シ

- ンポジウム，看護系大学における「Society5.0」時代を見据えた次世代育成，2022.11.29
- 6) 鎌倉やよい：金沢医科大学臨地実習に関する教育講演会，学士課程の看護系人材養成における臨地実習の位置づけと意義コロナ禍における臨地実習の「これまで」と「これから」，2023.3.14
 - 7) 鎌倉やよい：日本看護系大学協議会 Academic Administration 研修会，高等教育行政における参加型臨地実習の意義，2023.3.25
 - 8) 小林尚司：国立病院機構東海北陸グループ 助産師・看護師実習指導者講習会，実習指導方法論：老年看護学，2022.9.31
 - 9) 小林尚司：西尾市民病院看護研究研修会，臨床における看護研究，2022.6.11
 - 10) 清水美代子：豊田市キャラバンメイト フォローアップ研修，健康教育の仕方，2022.5.19
 - 11) 清水美代子：第 29 回 シニア学習会，コロナに負けない健康づくり，2022.5.29
 - 12) 清水美代子：愛知陸運永年慰労会，コロナに負けない健康づくり，2022.9.17
 - 13) 下間正隆：大阪歯科大学院内感染対策講習会，イラストで理解するコロナの時代の感染対策 @歯科領域 2022，2022.4.14
 - 14) 下間正隆，松田優子：西春日井福祉会・清州の里感染対策研修会，イラストで理解する感染対策の基本@ 2022 年梅雨，2022.6.27
 - 15) 下間正隆，松田優子：西春日井福祉会・平安の里感染対策研修会，イラストで理解する感染対策の基本@ 2022 年梅雨，2022.6.30
 - 16) 下間正隆，松田優子：ひまわりの里感染対策研修会，ケアスタッフのための感染対策の基本，2022.8.24
 - 17) 下間正隆：ベルランド総合病院感染対策研修会（大阪府堺市），イラストで学ぶコロナの後の薬剤耐性菌対策，2023.1.20
 - 18) 千葉朝子：令和 4 年名古屋市臨地実習指導者講習会，実習指導の実際 母性看護学，2022.9.8
 - 19) 長尾佳世子：第 14 回防災マイスター養成講座，災害医療 - 演習 - ，2022.6.21
 - 20) 長尾佳世子：愛知県看護協会，地域災害応援ナース学習，2022.8.29
 - 21) 長尾佳世子：豊根村三沢いこいの里健康講座，避難所での対応とリラクセスの方法などについて，2022.8.30
 - 22) 長尾佳世子：愛知県看護協会，病院の災害時受援体制を整えよう，2022.9.8
 - 23) 長尾佳世子：愛知県立衣台高等学校 健康生活支援演習，災害サイクルと看護，2022.10.28
 - 24) 長尾佳世子：第 15 回防災マイスター養成講座，災害医療，2022.12.13
 - 25) 長尾佳世子：令和 4 年度愛知工業大学防災士養成研修講座，近年の主な自然災害と新型コロナウィルス感染症，2022.2.18
 - 26) 長尾佳世子：豊根村生涯学習講座，癒しのタクトータルケア（軽擦法）体験会，2023.3.16
 - 27) 中島佳緒里：独立行政法人地域医療推進機構東海北陸地区新任副看護師長研修，ファシリテーションに関する基礎知識，2022.9.9
 - 28) 中島佳緒里：名古屋掖済会病院 看護研究，文献クリティーク①②，2022.8.12, 9.2
 - 29) 南谷志野：愛知県立豊田高等学校 令和 4 年度 2 年生出前授業，看護師としてのキャリア，2022.6.15
 - 30) 南谷志野：愛知県立美和高等学校 令和 4 年度 2 年生大学出前授業，看護師としてのキャリア，2022.11.14
 - 31) 南谷志野：愛知県立日進西高等学校 大学模擬授業，看護師としてのキャリア，2022.12.7
 - 32) 南谷志野：CandY Link（メデイカ出版の eラーニング），働きがいのある職場にするためのタスク・シフティング，2022.11.17 ～
 - 33) 南谷志野：CandY Link（メデイカ出版の eラーニング），事例から学ぶ看護補助者の活かし方，2022.11.17 ～
 - 34) 橋本亜弓：特別養護老人ホームさくら園 施設内研修，摂食嚥下障害と食事介助，2023.1.14
 - 35) 東野督子：日本リハビリテーション看護学会，口腔ケアがもたらすアウトカム，2023.11.21・22
 - 36) 東野督子：第 9 回東海口腔ケアフォーラム，看護師が支援する口腔ケアの現状と支援，2023.3.12-19
 - 37) 松浦正子：令和 4 年度静岡県看護協会認定看護

- 管理者教育課程ファーストレベル研修，人材管理論Ⅰ：看護チームのマネジメント，2022.5.28, 10.1
- 38) **松浦正子**：平成4年度宇部興産病院主任看護師研修，看護管理者のキーコンピテンシー，2022.6.4
- 39) **松浦正子**：香川県立病院看護教育推進委員会主催看護研修会，価値ある看護につなげる看護リフレクション，2022.6.18
- 40) **松浦正子**：令和4年度福井県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理論Ⅱ：多職種チームのマネジメント 人的資源の活用・看護補助者の育成，2022.6.25
- 41) **松浦正子**：令和4年度大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理論Ⅱ：多職種チームのマネジメント，2022.7.2, 10.5, 2023.1.14
- 42) **松浦正子**：令和4年度島根県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理論Ⅱ：多職種チームのマネジメント，2022.7.24
- 43) **松浦正子**：令和4年度静岡県看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修，人材管理論Ⅲ：看護管理者の育成，2022.7.30
- 44) **松浦正子**：令和4年度愛知県看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修，組織管理論Ⅲ：組織デザインと組織運営，2022.9.2
- 45) **松浦正子**：令和4年度赤十字看護管理者研修・日本看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修，組織管理論Ⅲ：組織における倫理的課題，2022.9.4
- 46) **松浦正子**：令和4年度岡山県看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修，組織管理論Ⅲ：組織のデザイン・組織間ネットワークのデザイン，2022.9.17
- 47) **松浦正子**：令和4年度藍野大学キャリア開発センター認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理論Ⅱ：多職種チームのマネジメント，2022.9.24
- 48) **松浦正子**：令和4年度静岡県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修，人材管理論Ⅰ：看護チームのマネジメント，2022.10.1
- 49) **松浦正子**：令和4年度大阪府看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修，統合実習Ⅲ 看護管理実践企画書作成：改革・改善計画，2022.10.8
- 50) **松浦正子**：令和4年度長野県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理論Ⅱ：多職種チームのマネジメント，2022.10.22
- 51) **松浦正子**：令和4年度兵庫看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，組織管理論Ⅱ：組織の意思決定，2022.10.22
- 52) **松浦正子**：CandY Link（メディカ出版のeラーニング），ただあるだけになっていない？ ラダーの効果的な運用のコツ，2022.11.17～
- 53) **松浦正子**：令和4年度滋賀県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，組織管理論Ⅱ：組織の意思決定・変革，2022.11.25
- 54) **松浦正子**：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院看護部研修，『理想の職場づくり』という夢に向かって冒険しよう，2022.11.28
- 55) **松浦正子**：令和4年度北海道看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修，人材管理論Ⅲ：看護管理者の育成，2022.12.11
- 56) **松浦正子**：令和4年度名古屋大学キャリア開発センター認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理論Ⅱ：多職種チームのマネジメント，2023.1.30
- 57) **松浦正子**：令和4年度中部ブロック赤十字病院セミナー，チーム力向上を高めるリーダーシップと動機づけ，2023.1.31
- 58) **松田優子**：豊田訪問看護師育成センター，訪問看護概論・訪問看護技術論，2022.6.2・2023.1.22
- 59) **松田優子**：令和4年度愛知県専任教員養成講習会，看護論演習，2022.6.15・7.14
- 60) **松田優子**：令和4年度愛知県臨地実習指導者講習会 第1回、第2回，実習指導の実際「在宅看護」，第1回 2022.6.6，第2回 2022.9.21
- 61) **松田優子**：令和4年度愛知県臨地実習指導者講習会（特定分野）第1回，第2回，実習指導の実際（演習），第1回 2022.8.24-30，第2回 2022.12.19-23
- 62) **松田優子**：令和4年度尾張旭市委託事業つばめ教室，「新型コロナウイルスの感染対策」「飲み

- 込む力は長寿の源 飲み込みの障害（摂食嚥下障害）の予防」, 2022.12.8
- 63) 水越真代, 清水美代子, 岡田賀子, 佐藤知子, 宮井好美, 湯浅記久子: 健康教室づくりの極意講座 第1回, 私はこんな健康教室をやりたい!! : 健康教室の基本的姿勢と学習支援型教室のイメージがつく, 2022.12.18
- 64) 水越真代, 清水美代子, 岡田賀子, 佐藤知子, 宮井好美, 湯浅記久子: 健康教室づくりの極意講座 第3回, 事業の成功の8割は始まる前に決まっている!! : プログラムデザイン・シナリオを作成する, 2023.2.26
- 65) 水越真代, 清水美代子, 岡田賀子, 佐藤知子, 宮井好美, 湯浅記久子: 健康教室づくりの極意講座 第4回, 共に学び合う実践: 教室を効果的・効率的さらに魅力的にするポイントを知る, 2023.3.19
- 66) 百瀬由美子: 国立長寿医療研究センター高齢者医療・在宅医療総合看護研修 高齢者のエンドオブライフ・ケア, 高齢者の権利擁護と倫理, 2022.11.16
- 67) 百瀬由美子: 日赤奉仕団リーダー交流研修会, 災害時の避難誘導に役立つ認知症の人への対応, 2022.12.13
- 68) 百瀬由美子: 令和4年度愛知県立大学看護実践センターセミナー, その人に寄り添い, その行動や気持ちを理解し実践する認知症ケア, 2023.2.23
- 69) 百瀬由美子: 日本赤十字豊田看護大学令和4年度専門職向け研修会, 臨床における研究倫理, 2023.2.25
- 70) 百瀬由美子: Towards Center for Excellence in Aging: The Challenges and Opportunities for Nurses in a Post-Covid-19 World, Older People Care System and Dementia Care Measures in Japan, 2023.3.10
- 71) 百瀬由美子: Towards Center for Excellence in Aging: The Challenges and Opportunities for Nurses in a Post-Covid-19 World, Practice of Dementia Care in Japan, 2023.3.10
- 72) 森久子, 鈴木寿摩: 日本赤十字豊田看護大学専門職向け研修会, 英語での患者さんとのコミュニケーション, 2022.10.29
- 73) 森田一三: 日本赤十字豊田看護大学公開講座, 子どもの歯と口の健康, 2023.3.18
- 74) 山田聡子: 一宮市立市民病院 キャリアラダー研修, 研究①③, 2022.6.17, 7.15, 2023.2.28
- 75) 山田聡子: 岐阜県保健師助産師看護師実習指導者講習会, 実習指導方法論 (実習指導の原理), 2022.8.2・4
- 76) 山田聡子: 名城病院講演会, ゴードンの機能的健康パターン, 2022.5.26
- 77) 山田聡子: 愛知県看護部長協議会講演会, 看護基礎教育における看護倫理教育, 2022.10.4
- ## 5. 災害関連の活動
- 1) 遠藤幸子: 刈谷防災推進委員会, 推進委員 (保健・医療関連), 市民館・市民センターなど, 毎月定例会 継続
- 2) 河村諒: 愛知県被災者支援センター, 簡易甲状腺検査・交流相談, 東別院 (お寺で交流相談会: 簡易甲状腺エコー検査&交流相談会), 2022.10.30
- 3) 小林洋子: 日本看護系大学協議会 災害対策小委員会, JAMPU 中部ブロック 愛知県災害連携教員, Web, 2022.2.6.
- 4) 長尾佳世子: 第1回日本赤十字社愛知県支部救護班要員養成研修, 企画運営スタッフ, 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院, 2022.6.27-29

2022 年度 日本赤十字豊田看護大学年報

2023 年 7 月 発行

編集・発行 学校法人日本赤十字学園

日本赤十字豊田看護大学 自己点検・評価委員会

〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲 12 番 33

TEL 0565-36-5111

<https://www.rctoyota.ac.jp/>

印刷 株式会社コームラ

